

country.

9. Each state should make provision for system of inspection in which women should take part in order to ensure enforcement of the laws and regulations for protection of workers.

大正八年五月三十日調

千九百十九年巴里講和會議ノ經過ニ關スル調書 (其七)

(自四月十六日至四月二十日)

外務省政務局

目次

經過一覽

經過詳報

一、對獨講和商議ノ經過(其一).....	七
二、講和打合會(五國會議、外相會議、首相會議等)附、山東問題及伊國委員巴里引揚事件.....	一三
三、聯合與國總會議.....	八九
四、損害補償委員會.....	九九
五、開戰責任及制裁調查委員會(責任委員會).....	一〇七
六、港灣水路及鐵道ニ關スル國際研究委員會(交通委員會).....	一〇九
七、航空委員會.....	一一七
八、經濟委員會.....	一三三
九、國際勞働法委員會.....	一三九
十、俘虜關係委員會.....	一四三

○千九百十九年巴里講和會議經過一覽（其七）

月 日	會 議 ノ 性 質	議 事
四月十六日	五 國 會 議	<p>甲、「ライン」河占領軍費用支辨問題 乙、獨逸ヲシテ戰爭材料ノ爲用ヒタル科學的方 法ヲ聯合國ニ通知セシムル件 丙、「キール」運河問題 丁、獨逸ヲシテ聯合國捕獲審檢所ノ爲シタル判 決々定ヲ承認セシムル件 戊、獨帝處分問題ト白耳義</p>
四月十七日	五 國 外 相 會 議	<p>甲、阿片條約批准問題 乙、白耳義ニ關スル條約改正問題 丙、獨逸ノ有スル領土上ノ權利特權拋棄ニ關ス ル既括的條項問題 丁、捕獲審檢判決ノ效力問題 戊、平和成立外交關係開始ノ時期ニ關スル問題 己、獨逸ヲシテ聯合國ト埃勃土トノ條約ヲ承認 セシムル件 庚、獨逸ヲシテ聯合國ト露國又ハ露國內新國家 トノ條約ヲ承認セシムル件</p>
	損害補償委員會第二分科會（第三次）	<p>甲、敵國所有河川用船舶要求ノ件 乙、獨國造船所ヲシテ聯合國ニ引渡スヘキ船舶 ヲ建造セシムル件 丙、船舶ニ關シテ敵國ニ課スヘキ案 丁、獨國生產染料要求 戊、第二回報告書作製</p>

損害賠償補償委員會(？)

「キール」運河海軍交通聯合委員會(第一次)

四月十九日 五大臣會議

財政委員會ヨリ移牒セラレタル諸問題可決
(右ハ本日ノ第二分科會ノ追補ニテアラサルカ)

(交通委員會ノ部ニ在リ)

(第二次會合ノ分ヲモ含ム)

「キール」運河ニ關スル講和條約案討議

(一) 自由航行、國旗均等、運河使用料

(二) 佛國委員ノ「キール」運河國際管理提議

(三) 砲臺ノ撤去及新設禁止

甲、獨逸人タル軍事教官聘請禁止問題

乙、聯合軍占領地及其以外ニ在ル獨逸非軍人ニ對スル統一規則ヲ設クル件

丙、白耳義及和蘭ニ關スル千八百三十九年條約改訂ノ爲五國外相及白蘭代表者會議開催ノ件

附白耳義委員會ノ提出セル意見書

丁、「レット」人ニ對スル食糧補給問題

戊、聯合國領内ニ在ル獨逸人布教事業財產保護ノ件

己、阿片條約批准問題(承前)

甲、條約ノ廢棄及復活、戰前債務、敵人財產清算、戰前契約、工業所有權ニ關スル條約案文決定

乙、右決定ニ至ル迄ノ委員會ノ經過

一、經濟問題ニ對スル各國ノ態度

二、對獨講和條約以外ノ事項

三、關稅海運問題

四、敵國及敵國民ノ債務履行保障手段

五、敵國財產ノ押收清算ノ件

六、戰前契約

七、混合裁判所

損害賠償委員會(第十六次)

「キール」運河海軍交通聯合委員會(第二次)

四月二十一日 五大臣會議

四月二十二日 首相會議

交通委員會(第二十四次)

四月二十三日 五大臣會議

第二分科會第二回假報告可決

○追加

損害賠償問題其後ノ狀況(四月二十八日巴里發電)

甲、四頭會議決定事項日本委員ヘノ通知(二十四日)

乙、講和條約文トナルヘキ確定案觀測

丙、最高會議ニ於ル賠償問題ノ大勢

「キール」運河ニ關スル講和條約案討議(承前、前同ノ分參照)

甲、獨逸人タル軍事教官聘請禁止問題

乙、對獨經濟食料問題ノ爲獨逸委員ヲ派出セシムル件

(最高經濟會議提議)

丙、占領地經濟工業食料問題委員會設置ノ件(同上)

丁、日本ノ白國中立條約改正參加通告

山東問題討議

港、河川、鐵道ニ關スル講和條約挿入事項修正増補

(議事ハ二十二、二十三、二十四ノ三日ニ跨ル)

甲、獨逸ヲシテ講和條約施行以前ノ事實ニ基ク

金錢上ノ要求ヲ爲サシメサル件

乙、獨逸空中自由通過問題

丙、獨逸殖民地ニ於ル獨逸人ノ居住營業並公私

有財產處分問題
 丁、殖民地ニ武器酒類販賣禁止問題
 戊、「チエック」波蘭妥協問題
 港、河川、鐵道ニ關スル講和條約挿入事項修正
 増補
 (議事ハ二十二、二十三、二十四日ノ三日ニ跨ル)

(交通委員會ノ部ニ在リ)
 委員會ノ報告書及議案ノ決定並送附
 港、河川、鐵道ニ關スル講和條約挿入事項修正
 増補了

(議事ハ二十二、二十三、二十四ノ三日ニ跨ル)
 俘虜歸還ニ關スル條約案作製
 甲、獨領空中自由通過問題(承前)
 乙、波蘭派遣委員ノ資格問題

丙、「ガリシア」問題
 丁、露國人ヲシテ波蘭委員會ノ露國問題ニ付意見ヲ述ヘシムル件
 戊、波蘭人ト「リチュニア」人トノ衝突防止問題

己、獨逸人俘虜送還問題
 庚、巴威食料供給問題
 辛、獨逸殖民地問題

甲、國際聯盟規約問題
 一、「ウキルン」ノ規約案說明並規約實行ニ關スル動議
 二、人種の差別撤廢ニ關スル牧野男ノ宣言
 三、第八條及第九條ニ對スル佛國ノ修正案提出

交通委員會(第二十五次)

「キール」運河海軍交通聯合委員會(第三次)

交通委員會(第二十六次)

聯合與國總會(第五回)

四月二十四日

自四月二十五日
 至四月二十六日

四月二十八日

四月二十九日
 四月三十日
 首相會議
 首相會議
 首相會議

五大臣會議

不
 明
 國際勞動法委員會

ノ件
 四、第五條ニ對スル「ウキルン」ノ修正提議
 附、本日ノ總會ニ提出セラレタル聯盟委員會ノ最終決定規約案
 備考
 (一) 本日ノ總會ニ於ケル牧野男ノ宣言理由
 (二) 國際聯盟案ニ對スル巴里新聞紙ノ論調

乙、勞動原則ニ關スル條約案可決(國際勞動法委員會ノ部ニ在リ)

山東問題討議(承前)

甲、山東問題討議並決定(承前)

乙、新賠償委員會組織ニ關スル日本委員ノ抗議

丙、敵國俘虜ノ費用ニ對スル要求權拋棄ニ關シ日本委員ノ抗議

甲、波羅的諸州問題延期

乙、「シユレスウイツヒ」ニ關スル國際委員會ノ構成問題

丙、「モナコ」公國繼承問題

丁、海底電線問題

戊、海底電線管理ノ爲「ヤツプ」島ヲ國際委員會ノ行政下ニ置カムトスル米國「ランシング」ノ提案

附、「ヤツプ」島國際管理ニ關スル米大統領ノ意見

甲、勞動原則九ヶ條其後ノ修正
 乙、第一回勞動總會準備會各國委員

不 明	航 空 委 員 會	(一) 會議ノ性質並參列委員 (二) 三分科會ノ成立 (三) 議事 (第一) 本委員會 甲、講和豫備會議ニ關聯スル航空問題建議 イ、敵國ノ民間飛行及航空機製造業ニ對シテ執ルヘキ處置 ロ、敵國領空飛行權ニ關スル條件 乙、平時國際航空條約問題 (第二) 分科委員會 甲、軍事分科委員會 乙、國際法制通商經濟分科委員會 丙、技術分科委員會 丁、航空關稅委員會 附錄 A、國際航空ニ關スル條約案 B、航空關稅ニ關スル國際條約案 起草委員會ノ立案ニカ、ル戰爭責任ニ關スル條約案
不	明 責 任 委 員 會	會議以外ノ重要事項 一、山東問題ノ經過 一、伊國全權委員ノ巴里引揚事件經過 (以上二件共ニ講和打合會ノ部ノ末尾ニ在リ) 一、獨逸講和委員招致經過 (對獨講和商議經過ノ部ニ在リ)

對獨講和商議ノ經過 (其一)

○獨逸講和委員招致ノ經過

(本件ニ付テハ四月十五日五國外相會議附記ノ分參照)

目次

- 甲、獨逸委員招致往復文
- 乙、獨逸側ノ「クウリエ」派遣公表
- 丙、聯合側ノ獨逸全權委員派遣要求
- 丁、獨逸側ノ全權委員派遣
- 戊、獨逸全權次下到着

內容

(甲)獨逸委員招致往復文

(在瑞西本多公使來電ニ依ル)

四月二十日「ウォルフ」電報左ノ通り

在「スバ」獨逸側休戰委員ヨリ四月十八日同委員長「エルツベルゲル」大臣宛左ノ通り電報アリ

今十八日佛國側休戰委員長「ニユーダン」將軍ヨリ本日附佛國總理大臣兼陸軍大臣發左記電報獨逸政府へ轉送方照會ニ接ス曰ク(一)聯盟及協同列國最高委員會ハ四月二十五日「ベルサイユ」ニ全權ヲ有スル獨逸委員ノ聯盟及協同列國ノ定メタル講和條約正文ヲ受領スル爲招請スルニ決セリ(二)依テ獨逸政府ニ於テ其ノ「ベルサイユ」ニ簡派セムトスル委員ノ員數

氏名及資格並其隨員ノ員數氏名及資格ヲ至急通牒アリ度ク尙獨逸側委員ハ嚴重ニ其ノ任務ノ範圍ヲ超越スルコトナク其隨行各委員モ亦特定ノ任務ヲ有スルモノノミニ局限セララルヲ要ス

獨逸帝國大臣「プロックドルフ、ランツァウ」伯ハ右佛國側ヨリノ通牒ニ接シ左ノ通り(脱)

貴官ハ在貴地佛國側委員ニ下ノ趣意ヲ通牒シ聯盟及協同列國宛傳達ヲ求メラルヘシ曰ク獨逸政府ハ本月十八日附佛國總理大臣兼陸軍大臣ノ通牒ヲ受領セリ獨逸政府ハ來ル四月二十五日「ベルサイユ」ニ向ケ公使「フォン、ハニエル」及公使館參事官「フォン、ケルレル」同「エルネスト、シユミット」ヲ派遣スヘシ右各委員ハ講和豫備條約案ヲ受領スルニ必要ナル全權ヲ有シ該條約受領次第直ニ之ヲ獨逸政府ニ轉達スヘク該委員トシテ書記官二名助手二名(各々氏名ヲ掲ク)ヲ帶同スル等

備考

◎聯合側ノ招致並一般講和方針ニ關スル獨逸内閣ノ決議

(在瑞西本多公使來電)

十九日伯林發電報左ノ通

在「スバー」休戰委員「ニューダン」將軍ヨリ巴里ニ獨逸講和委員ヲ送ルヘキノ通牒ニ接シタル獨逸政府ハ十九日長時間ニ互リ閣議ヲ開キ右ニ對スル態度並一般講和談判ニ關スル方針ヲ討議セリ、其ノ決議左ノ通り

(一) 「ニューダン」將軍ヨリノ文書ニハ單ニ豫備講和條件受領ノ爲委員ヲ派ス可シトアルヲ以テ政府ニ於テ已ニ講和談判ノ爲、巴里派遣ノ目的ヲ以テ組織セシ多數ノ講和全權委員ハ此際巴里行ヲ見合ハシ單ニ講和條件受領ノ目的ヲ以テ「ハニエル」公使ヲシテ必要ナル隨員ヲ附シテ巴里ニ赴カシム

(二) 同公使ニ對シテハ若シ講和談判ヲ爲シ得ル見込アル場合ニハ其旨直ニ伯林ニ通告スヘキ訓令ヲ與ヘ、其ノ報告ヲ俟テテ講和全權委員巴里ニ出發ス可シ

(三) 豫備講和條件決定セムカ政府ハ直チニ之ヲ國民議會ニ提出スヘシ、議會ハ無用ナル討議ヲ避ケ且ツ決議ノ自由ヲ

留保スル爲投票方法ニ依リ右ニ對スル回答ヲ決ス可シ、投票ノ結果若シ講和條件不承諾トナラムカ更ニ一步ヲ進メ提供セラレタル講和條件ノ諾否ニ關シ一般投票ヲ行フ可シ

(乙) 獨逸側ノ「クウリエ」派遣公表

四月二十五日獨逸全權ヲ「ベルサイユ」ニ送ルヘキ旨ノ聯合側通告ニ對シ「プロックドルフ、ランツァウ」Brockdorff Rantzauハ「スバー」Spa 獨逸休戰委員ヲシテ佛國代表者ヲ經聯合側諸國ニ左ノ回答ヲナスヘキ旨伯林四月二十日附獨逸情報局ノ公表トシテ二十一日朝當地新聞ニ掲載サレタリ

獨逸政府ハ四月十八日附佛國內閣議長陸軍大臣ノ公文ヲ受領セリ依テ四月二十五日「ベルサイユ」ニ「ハニエル」Daniel 大使及「ケルレル」Keller「エルネスト、シユミット」Ernest Schmidt 兩公使館參事官ヲ派遣スヘシ派遣人ハ平和豫備條約ノ案文ヲ受領スルニ必要ナル權能ヲ有シ直チニ之レヲ獨逸政府ニ齎ラスヘシ「ハニエル」ハ隨員トシテ「ワルテル、ライムケル」Walter Reimker 及「アルフレッド、スネデルス」Alfred Sueders ヲ書記トシテ「ユリウス、シユミット」Julius Schmidt 及「ニラデル」Niederer ヲ帶同スヘシ云々

(丙) 聯合側ノ全權委員派遣要求

二十一日「ウヰルソン」大統領トノ會談中同大統領ハ餘談トシテ右ノ件ニ關シ言及シ、獨逸ハ斯ノ如キ「クウリエ」ニ非シテ聯合國側ノ諸國同様條約ニ調印シ得ヘキ委員ヲ派遣セサル可ラサル旨「クレマンソウ」ヨリ折返シ獨逸政府ニ申送リタリ、右ノ次第ニ付豫定ノ如ク四月二十六日ヨリ豫備條約ノ討議ニ入ルコト或ハ不可能ナルヤモ計リ難シト

(丁) 獨逸側ノ全權委員派遣

(イ) 四月二十三日在瑞典日置公使發電ニ依レハ左ノ如シ

講和全權派遣ノ要求ニ對シ四月二十一日獨逸ハ協商側カ條件ノ内容ノ評議ニ入ルヲ前提トシテ

外務大臣「ランツァウ」

(Brockdorff Rantzau)

司法大臣「ランズベルク」 (Landsberg)
 郵便大臣「ギースベルト」 (Giesbert)
 普國會議議長「ライネルト」 (Leinert)
 「ドクトル、メルヒオル」 (Dr. Melchior)
 教授「シュッキンク」 (Professor Schücking)

ヲ特派スヘク之ニ對シテ行動及通信ノ自由ヲ許サレ度キ旨回答セリ
 北獨日報ニ依レバ獨逸全權ハ「クレマンソウ」カ右要求ヲ是認スルヲ待テ出發スヘク右ハ多分二十八日トナルヘキヲ以
 テ獨逸ハ五月二日迄ハ協商側ノ條件ハ知り得サルヘシト云ヘリ

伯林電報ニ依レバ獨逸政府ハ最近ノ閣議ニテ講和問題ニ對スル態度ヲ決シタルカ之ニ依レバ始ヨリ拒絶の態度ヲ執リ何
 等ノ效果モ無カルヘキ一片ノ抗議ニ依リ妥協ノ機會ヲ失スルハ無益ナルヲ以テ如何ナル場合ニ於テモ協商側ト講和條件
 ニ關スル協議ヲ爲スニ同意スヘシ獨逸ハ「ウヰルソン」ノ條件ヲ固執スルト共ニ之ニ近キ總テノ條件ハ右カ「ウヰルソン」
 條件ノ適用範圍ヲ脱セサル限り極力妥協の態度ヲ示スヘシト尙ホ同政府ハ直ニ國民會議ヲ開キ講和條件ニ關スル意見ヲ
 問フニ至ルヘシ其後政府軍ハ「ミュンヘン」ヲ完全ニ包圍シ食糧モ斷テ郊外ニテハ過激派軍トノ間ニ激戰行ハル、同派
 ハ掠奪ヲ逞クシ或ハ既ニ守備兵ノ爲メ顛覆セリトノ報アルモ確實ナラス一般ニ同派ノ降服モ一兩日中ニアリト觀察セリ
 (ロ) 巴里松井大使來電左ノ如シ

四月二十二日朝ノ新聞報ニ依レバ獨逸政府ハ聯合側再度ノ通告ニ對シ、其ノ條件ヲ容レ必要ノ權限ヲ有スル左記六名ノ
 全權ヲ「ヴェルサイユ」ニ派遣スヘク隨員ヲ加ヘテ一行ノ總數約七十五名ニシテ四月二十八日以前ニハ到着不可能ナル
 旨通報ヲ發シタル趣ナリ、尙慥ナル筋ヨリ聞知スル所ニ據レハ一行ノ「ヴェルサイユ」著ハ四月三十日頃ナル可シトノ
 コトナリ

全權ノ名前左ノ通

「ブロックドルフ、ランツァウ」 Brockdorff Rantzau
 「ドクトル、ランズベルグ」 Doctor Landsberg
 「ギースベルト」 Giesbert
 「ライネルト」 Leinert
 「ドクトル、メルヒオル」 Dr. Melchior
 「プロフェッショナル、シュッキンク」 Professor Schücking

(戊) 獨逸全權以下到着

獨逸全權六名以下一行二百餘名四月二十九日夜迄ニ全部「ヴェルサイユ」ニ到着セリ

講和打合會（五國會議、首相會議、外相會議、五大臣會議）附 山東問題、伊國委員巴里引揚

○四月十六日五國會議

一、日時 四月十六日自午後四時

一、出席者

日 牧野、珍田兩全權

佛 「クレマンソウ」

米 「ウヰルソン」、「ランシング」

英 「バルフォア」、英國外務次官

伊 「ソニンノ」、「サルバゴラツジ」

一、議長 「クレマンソウ」

一、内容 「クレマンソウ」ノ指名ニ依リ「ソニンノ」ハ四月十五日ノ五國外相會議ノ經過ヲ説明シ之ニ關聯シテ議事ヲ開ク

(甲) 「ライン」河占領軍費用支辨問題

本件ニ關シテハ略前日ト同様ノ討論(調書其六第一一頁甲參照)アリタル後「ウヰルソン」ノ發議ニ依リテ在「ヴェルサイユ」軍事會議ヨリ更ニ報告ヲ爲シタル後審議スルコトトシ

(乙) 獨逸ヲシテ戰爭材料ノ爲メ用ヒタル科學的方法ヲ聯合國ニ通知セシムル英國案

ニ付テハ「ウヰルソン」及「ランシング」ハ右科學的方法ニ關スル說明書ヲ提出セシムルモ實際ノ製法ヲ知ルコト難カルヘク且毒瓦斯ノ如キハ聯合國力獨逸ノモノヨリモ勝レル發見ヲ有シ居ル今日其必要ナカルヘク又本件ハ科學的染料工

業等ニ關聯スルヲ以テ不當ニ工業ノ秘密ノ暴露ヲ強フル結果ヲ生スヘシト云ヒテ原案ニ反對シ之ニ對シテ「バルフォア」ハ本件ハ純然タル軍事上ノ問題ニシテ染料ノ秘密探知トハ別事ニシテ軍人側ハ此問題ニ重キヲ置ケリト説明シタルモ討論ノ末軍事會議ノ意見ヲ求ムルコトトナリ

(丙) 「キール」運河問題

ハ更ニ國際交通委員ニ附託サレ

(丁) 獨逸ヲシテ戰時中聯合國捕獲審檢所ノナシタル判決決定ヲ承認セシムヘキ英國案

ハ起草委員會附託トナリ

(戊) 獨逸皇帝處罰問題ト白耳義

本件ニ關シ白耳義首相ハ同國カ王國タル立場ヨリ白耳義カ皇帝責問ノ原告ノ地位ニ立ツコトニハ甚タ迷惑スル所ナリトテ全然留保ヲナス旨通告シ來レルコトヲ「クレマンソウ」ヨリ會議ニ報告シタルニ「ウヰルソン」ハ本問題ハ獨逸カ白耳義ノ中立ヲ侵シタルニ起因スルモノニシテ必シモ白耳義ヲシテ原告ノ地位ニ立タシムル必要ナク同國ヲ證人トセハ可ナリトイヒ一同之ヲ諒トセリ

○四月十七日五國外相會議

一、日 時 四月十七日自午後二時半

一、出席者

日 牧野、珍田兩全權

佛 「ビション」

英 「ボーデン」「ハルチング」卿

米 「ランシング」

伊 「ソンニノ」

一、議 長 「ビション」

一、內 容

(甲) 阿片條約批准問題

阿片條約批准ノ件ニ關シ起草委員會佛國委員「フロマジヨウ」ハ起草委員ノ多數ハ本案ハ聯合國相互間ノ規約ヲ包含スルヲ以テ獨逸トノ豫備條約中ニ挿入スルハ其ノ所ヲ得タルモノニ非ストノ見解ナリシ旨ヲ報告シ
「ランシング」ハ本案ハ同時ニ批准ヲ承認セシムルモノナレハ豫備條約案中ニ置クモ差支ナシト論シ
「ボーデン」ハ英國ハ最近ノ機會ニ於テ之ヲ批准スルコトニハ異議無キモ其ノ實施ノ方法ニ關シ尙考慮ヲ要スト云ヒ
日本全權ハ施行規則制定ノ爲ニ要スル期間ニ關シテハ留保スト述ヘ
「ランシング」ハ此ノ期間ヲ一(?)年間ト定ムヘシト主張シ之ニ決定シタリ
(尙本件阿片ニ關スル條約案ニ就テハ附錄甲號參照)

(乙) 白耳義ニ關スル條約改正問題

獨逸ヲシテ白耳義ニ關スル千八百三十九年四月十九日ノ條約ノ改正ヲ承認セシムル案ヲ可決ス(右條約案ニ就テハ附錄乙號參照)

(丙) 獨逸ノ有スル領土上ノ權利特權拋棄ニ關スル概括的條項問題

「獨逸ハ本條約ニ規定セシ領土ノ外自國又ハ其ノ同盟國ニ屬スル領土上ノ權利特權並ニ權原ノ何タルヲ問ハス獨逸カ聯合國ニ對シテ有スル權利特權ヲ拋棄ス
獨逸ハ前項ノ實行ニ關シテ聯合國ノ執リタル措置又ハ聯合國ト第三國トノ協定ヲ承認ス」

ト規定セル豫備條約案ニ關シ佛起草委員「フロマジヨウ」ハ本案ハ經濟財政問題等ノ委員會ノ規定ニ漏レタル獨逸ノ權利ニ關スル概括的條項ニシテ特別問題ニ關シテハ自ラ別ニ條項ヲ設クヘシト説明シ「ランシング」ハ概括的條項ノ採用ヲ提議セルカ

日本全權ハ右ハ既ニ一月二十七日五國會議ニ於テ帝國ノ要求ニ關シテ述フル所アリ目下適當ナル形式ニ於テ山東ニ關スル條項ヲ五國會議ニ提出セムトシツツアルニ付此旨含ミ置カレタリト述ヘ

英佛兩國モ埃及「モロツコニ」關スル特別條項ヲ規定スヘシトノ諒解ノ下ニ右概括的條項ヲ採用シタリ（尙概括條項原文ノ起草委員會ニ於テ確定案トナレルモノニ就テハ附録丙號參照）

(丁) 捕獲審檢判決ノ效力問題

本件ニ關シ起草委員ハ各國ノ意見一致セサルコトヲ報告セルカ英國ハ聯合國ノ捕獲審檢所ノ判決決定ハ既判力ヲ有セシメ獨逸審檢所ノ判決決定ハ之ヲ再審ニ附セムトスルニ對シ米國ハ平和締結ニ依リ審檢閉鎖ト共ニ米國力差押エタル獨逸船舶處分ノ法律的手段ヲ失フヲ以テ之カ處分ノ條項ヲ挿入セムトシ「ボーデン」ハ此點ニ關シ留保シタリ

(戊) 平和成立、外交關係開始ノ時期ニ關スル問題

本條約施行ノ日ヨリ獨逸ト聯合國間ノ戰爭狀態ハ終結ス此時ヨリ本條約ノ規定ニ從ヒ聯合國ト獨逸トノ間ニ外交關係開始ス「ト」豫備條約案ニ對シ「ランシング」ハ斯クテハ各國カ批准交換ヲ了スル迄ニ長時日ヲ要スヘシトテ五強國中ノ何レカノ三國カ批准シタル時ヨリ獨逸ト批准ヲ（脱？）シタル國トノ間ニ平和成立シ其他ノ諸國ハ各其ノ批准ノ時ヨリ平和關係ニ入ルコトトシテ而シテ右等諸國ハ獨逸カ條約ヲ遵守スヘキヤヲ確メタル上各自平和成立後三ヶ月以内ニ外交關係ヲ開始スルコトトスル案ヲ提出シタルカ「ビシヨン」ハ斯クテハ五強國中平和關係ニ入りタルモノト然ラサルモノトアリ千九百十四年倫敦宣言ノ精神ニ反スト云ヒテ五強國カ批准シタル時三聯合國全部獨逸ト平和關係ニ入ルコトトセムト云ヒ原案修正ノコトトナレリ

此時「ビシヨン」ハ首相ヨリ急ニ招カレタリトテ退席ス

(己) 獨逸ハ聯合國ト埃匈勃土トノ條約ヲ承認スヘキ案並ニ

(庚) 獨逸ハ聯合國ト露國ニ於テ成立シ又ハ千九百十四年八月ノ舊露國領土ノ一部ヨリ成ル新國家トノ條約ヲ承認スヘキ案

ハ一應「ビシヨン」ノ意見ヲ求ムルコトトシテ採用サレタリ(右(己)及(庚)ニ關スル決議條項ニ就テハ附録丁號參照)

附 錄

◎甲號 阿片ニ關スル條約案

四月十七日午後ノ五國外相會議ニ於テ議セラレタル阿片ニ關スル條約案左ノ如シ

尙實施期間ニ關シ同日ノ會議ニ於テ可決シタル點ハ起草委員ニテ一條項トシテ作成シ該條約案ニ追加スル等ナリ

Germany undertakes to ratify forthwith the Opium Convention, signed at Hague on Jan. 23, 1902, and as soon as possible thereafter to sign the special protocol for putting the Convention into force, which was agreed at the Hague, in accordance with the resolution, adopted by the Third International Opium Conference held in that city, June 18-25, 1914.

Furthermore Germany recognizes that her signature of the special protocol referred entails obligation to put the Convention of 1912 into force and to enact necessary legislation within three months after the coming into force of this act; such legislation will be communicated to the Allied and Associated Powers.

(右譯文)

獨逸ハ直ニ一九〇二年一月二十三日海牙ニ於テ調印セラレタル阿片協約ヲ批准シ右批准後成ルヘク速ニ一九一四年六月十八日ヨリ二十五日ニ至ル間海牙ニ開催セラレタル第三回萬國阿片會議ノ決議ニ從ヒ同地ニ於テ協定セラレタル協約實施ニ關スル特別議定書ニ調印スルコトヲ約ス尙ホ獨逸ハ前記特別議定書調印ノ結果一九一二年ノ協約ヲ實施シ並ニ同條

約實施後三ヶ月内ニ必要ナル法令ヲ制定スルノ義務ヲ負擔スルモノナルコトヲ承認ス

右法令ハ聯盟諸國ニ通牒セラレハシ

◎乙號 白耳義ニ關スル千八百三十九年條約廢棄可決案

Germany, recognizing that the treaties of Apr. 19, 1839, which established the status of Belgium before the war, no longer conform to the requirement of the situation, consents to the abrogation of the said treaties and undertakes to recognize whatever conventions may be entered into, by the five Allied and Associated Powers, or by any of them, in concert with the Governments of Belgium and of Netherlands, to replace the said treaties of 1839.

If her formal adhesion should be required to such conventions or to any of their stipulations, Germany undertakes immediately to give it.

(右譯文)

獨逸ハ白耳義國ニ戰前ノ狀態ヲ定メタル一八三九年四月十九日ノ條約ハ現下時局ノ要求ニ適應セザルモノナルコトヲ認メ茲ニ同條約ノ廢棄ヲ承諾シ五聯盟國或ハ其ノ何レカ前記一八三九年ノ條約ニ代フル爲メ白耳義及ヒ和蘭政府ト協調シ締結スルコトアルヘキ如何ナル協約ヲモ之ヲ承認スヘキコトヲ約ス

右協約或ハ其ノ規定條項ニ對シ公式ニ加盟スルノ要アラハ速ニ加盟スヘキコトヲ約ス

◎丙號 獨逸ノ有スル領土上ノ權利特權拋棄ニ關スル概括的條項原文ノ起草委員會ニ於テ確定案トナレハモノ左ノ如シ

L'article 1er. Hors de ses limites en Europe, telles qu'elles sont fixées par le présent traité, l'Allemagne renonce à privilèges quelconques concernant tous territoires leur appartenant, à elle ou à ses alliés, ainsi qu'à tous droits, titres ou privilèges ayant pu, à quelque titre que ce soit, lui appartenir vis-à-vis des cinq Puissances alliées et associées ou des autres Puissances et la Belgique, signataires du présent traité.

L'Allemagne s'engage laconiquement à reconnaître et à agréer les mesures qui sont ou seront prises par les cinq Puissances alliées et associées, d'accord s'il y a lieu avec les tierces Puissances, en vue de régler les conséquences de la disposition qui précède.

Spécialement, l'Allemagne déclare d'agréer les stipulations des articles ci-après, relatifs à certaines matières particulières.

Germany undertakes to recognize full force of whatever treaties or arrangements may be entered into, by the five Allied and Associated Powers and other Signatory Belligerent Powers, with the states which have been or may be constituted of Russia, or part of whose territory may August 1914 have formed part of Russia, and to recognize the frontier of any such states as determined therein.

Germany undertakes to recognize full force of Treaties of Peace and Additional Conventions, which may be concluded by the five Allied and Associated Powers and the other Signatory Belligerent Powers, with the Powers who fought on her side, and to recognize whatever dispositions may be made, concerning the territories of the former Empire of Austria-Hungary, of Bulgaria and the Empire of Turkey.

○四月十九日五大臣會議

一、日 時 四月十九日自午後三時

一、出席者

日 牧野全權

佛 「ビシヨン」
英 「バルフォア」
米 「ランシング」
伊 「マルチノ」

一、議 長 「ビシヨン」

一、内 容

(甲) 獨逸人タル軍事教官聘備禁止問題

軍事條約第十九條ニ追加トシテ獨逸人カ教官トシテ外國軍隊ニ編入サルルコトヲ禁止セムトスル英國案ニ對シ「ランシング」ハ趣意ニハ賛成ナルモ此案ニテハ實行覺束ナカルヘシ依テ獨逸ヨリ公然軍事教官ヲ聘備シ又ハ學生ヲ獨逸ニ送ラサルコト右禁止ハ平和締結後他國ニ歸化シタル獨逸人ニモ適用スル條項ヲ設クヘシト云ヒ米國ヨリ其案ヲ提出スルコトナレリ

(乙) 「バルフォア」ハ英佛米軍ノ各占領地及其以外ニ在ル獨逸人中軍人ニアラサルモノニ對スル關係ニ付速ニ統一の規則ヲ設クルコトヲ提議シ佛國側ニ於テ其案ヲ作成スルコトナレリ

(丙) 白耳義和蘭ニ關スル千八百三十九年條約改訂ノ爲五國外務大臣及白蘭代表者會議開催ノ件

(イ) 「バルフォア」ノ和蘭ノ希望紹介

「バルフォア」ハ在英和蘭公使ヨリ白耳義中立ニ關スル一八三九年條約改正ノ爲速カニ巴里ニ於テ五國外務大臣及白蘭兩國代表者ノ會議ヲ開キタキ旨申述アリタリト述ヘ尙本問題ハ獨逸トノ條和條約トハ別ニシテ目下各外務大臣ハ講和問題ノ爲メ忙殺サレ居ル際ナレハ此際和蘭申出ノ會議ヲ開クハ困難ナリト思ハル、旨ヲ附言ス

(ロ) 「ビシヨン」ハ然ラハ別ニ全權ヲ任命シテハ如何ト述ヘタルモ白蘭兩國トモ在巴里中ノ五國外務大臣ト直接相談

シタキ意嚮ナリシヲ以テ

(ハ) 決 定

四月二十八日後一週間以内ニ前記ノ趣旨ヲ以テ五國外務大臣及白蘭兩國代表者ノ會議ヲ開クコト、ナリタリ

附 記

(一) 日本ノ參加聲明

四月二十一日牧野全權ハ日本ハ右會議ニ參加スヘキコトヲ聲明シタリ(同日ノ五大臣會議丁参照)

(二) 白耳義問題委員會ノ意見書提出(四月二十二日發電ニ依ル)

講和會議白耳義問題委員會ハ左ノ通り五國會議ニ意見書ヲ提出セリ

一、法律上一八三九年三箇ノ條約及其條項ハ一體ヲナスモノナリ是等條約カ其ノ違反ニ依リテ無効トナリタルヤハ別論トスルモ締約國中ノ三國カ改正ヲ必要トシタル以上ハ之ヲ改正スヘキモノトス

二、事實上ニ付テハ條約ハ歐洲諸強カ白耳義及和蘭ニ強要シタルモノニシテ而モ白耳義ハ右條約ノ定ムル保障恩惠ヲ受クルコトナク且ツ其ノ國境及河川ニ關スル條項ハ同國ノ國防上ノ地位ヲ薄弱ナラシメ今回同國ノ蒙リタル損害ノ一大原因ナリ獨塊露ハ現在ニ於テ右條約ニ依リ白耳義カ享有スヘキ保障ヲ同國ニ與フルコト不可能ナリ此點ヨリ見ルモ三條約ハ全部改訂スヘキモノトス

三、主義上講和會議ハ白耳義中立ノ廢棄ヲ承認セリ右條約改正ハ一般の利害關係ヲ有スル事態ニシテ又白耳義中立ハ英佛ニヨリ和蘭ニ對シテモ交渉サレタルモノナレハ和蘭ハ右改正ニ參加スヘキモノトス就テハ一八三九年條約ハ之レカ改正ヲ必要ト認ムル國ノ提議ニ依リ其ノ全部ヲ改正スヘク和蘭及保障國タル大國ハ其義務ヲ履行シタルモノ竝ニ講和會議ニ代表サレタル大國ニシテ一般利害關係ヲ有スルモノハ之レニ參加スヘク改正ノ目的ハ國際聯盟ノ趣旨ニ則リ白耳義ヲシテ其ノ主權ニ加ヘラレタル制限ヲ脱セシメ同國及一般平和ノ爲メ一八三九

年ノ條約ヨリ生シタル危險ト不利益ヲ除クニアリ

(丁) 「レット」人ニ對スル食糧補給問題

本問題ニ關シ「フーバー」ハ今回「リバウ」ニ政變起リ獨逸種貴族等ハ現政府員ヲ捕縛シ「レット」人軍隊ヲ武装解除シタルカ其背後ニハ獨逸軍憲アリトノ情報アリ旁々「レット」人食糧供給方ニ關シ五大臣會議ノ指揮ヲ求メタリ「バルフォア」「ビション」「ランシング」ハ元來休戰條約ニ依リ獨逸ハ東方戰線ヨリ撤兵スル筈ナルモ「レット」人ノ「ボルシエビツク」ヲ恐レテ獨逸軍隊ノ殘留ヲ希望シ聯合國モ同地方ニ軍隊ヲ派遣スルヲ得サリシ爲メ不得已之ヲ默視シタル如キ有様ニシテ又今度ノ政變ニ依リ「レット」人ニ對スル補給港タル「リバウ」モ獨逸人ノ手ニ落チタル次第ナルカ此際食糧品カ獨逸人ノ手ニ入ルヲ恐レテ其供給ヲ停止セハ「レット」人ヲ驅リテ(脱)「リバウ」ニハ英國軍艦モアルコトナレハ(不明)取締ノ付ク限り依然シヨ(脱)ヲナスヘシトノコトニ決定シタリ

(戊) 聯合國領土又ハ之ニ附屬スヘキ領土ニアル獨逸人布教事業ノ財産ヲ保護スヘキ案

本問題ニ付帝國全權ハ純然タル宗教上ノ目的ニ限ルヲ明ニスヘシト説キ伊國委員ハ國內法規ニ從ツテトノ意味ヲ加ヘタシト云ヒ原案修正ノコトナレリ

(己) 阿片條約批准問題

阿片條約批准ニ關シ今會議ノ決定ニ依リ修正シタル確定案次ノ如シ

OPIMUM.

Those of the High Contracting Parties who have not yet signed, or who have signed but not yet ratified the Opium Convention signed at Hague Jan. 23, 1912, agree to bring the convention into force, and for this purpose to enact necessary legislation without delay and in any case within a period of twelve months from the coming into force of the present treaty.

Furthermore, they (既) that ratification of this treaty should, in the case of the Powers which have not yet (既) the Opium Convention, be deemed in all respects equivalent to the ratification of that convention and to the signature of the special protocol which was agreed (?) at Hague in accordance with the resolution adopted by the third Opium Conference in 1915 for bringing the said convention into force; for this purpose the Government of the French Republic proposes to communicate to the Government of the Netherlands an amended (?) copy of the protocol of the deposit ratification of this treaty and will invite the Government of the Netherlands in accordance with the provisions of the article to accept and deposit the said certified copy as if it were a deposit ratification of the Opium Convention and a signature of the additional protocol of 1914.

○四月二十一日五大臣會議

一、日 時 四月二十一日

一、出席者

日 牧野、珍田兩全權

佛 「ビション」

英 「ロバート、セシル」、「ハルチング」卿

米 「ランシング」

伊 「ヤルチノ」

一、議 長 「ビション」

一、内 容

(甲) 獨逸人タル軍事教官聘備禁止問題(承前、四月十九日五大臣會議甲參照)

米國ハ「獨逸ハ外國軍隊教育ノ目的ヲ以テ陸海軍派遣員ヲ派出セサルヘク獨逸人カ此目的ヲ以テ外國軍隊ニ編入サルルコトヲ禁スル適當ノ手段ヲ採ルヲ約ス聯合國ハ軍隊教育ノ爲獨逸人ヲ自國軍隊ニ編入セサルヲ約ス嘗テ獨逸人タリシモノヲ自國軍隊ニ編入又ハ聘備セサルヘシ」トノ意味ノ案ヲ提出セルカ

佛國ハ自國ノ外國人軍隊ノ編成上右末項ノ規定ニ反對シ

「ランシング」ハ獨逸カ其軍事教育學校ニ外國人ヲ入學セシムルヲ禁スル條項ヲ挿入スヘシト言ヒ更ニ起草委員會ニ附託トナル

(乙) 對獨經濟食料問題ノ爲獨逸委員ヲ派出セシムル件

最高經濟會議ヨリ提出シタル「獨逸ニ對シ食料供給ニ關聯シ聯合國カ獨逸ニ於テ隨時行フヘキ交渉ヲ簡便ナラシムル爲巴里ノ附近ニ於テ協定サルヘキ場所ニ食料(不明)通商交通ノ専門委員ヲ獨逸ヨリ派出セシム右委員ハ獨逸ニ對スル食料供給ニ關シ發生スル諸問題及獨逸トノ直接經濟關係ヲ決定スヘキ全權ヲ有スヘシ」トノ建議ハ採用セラレタリ

(丙) 占領地經濟工業食料問題委員會設置ノ件

最高經濟會議ヨリ提出シタル「占領地行政ニ關係アル聯合國カ各一名ヲ任命スル四名ノ委員ヨリ成ル聯合國委員會及(不明)國聯絡將校ヲ設置シ最高經濟會議ノ方針ニ遵ヒ經濟工業食料問題ニ關シ(脱)占領軍ノ行政ヲ統一セシムルコト及最高軍事會議ハ各占領軍ニ對シ右委員會ノ指揮ヲ遵守スヘキ命令ヲ發スルコト」トノ建議ハ採用サル

(丁) 日本ノ白耳義中立條約改正參加通告

牧野全權ハ日本ハ白耳義中立條約改正ニ參加スヘキコトヲ通告シタリ

○四月二十二日首相會議

一、日 時 四月二十二日午前十一時半

一、場 所 「ウヰルソン」宿舍

一、出席者

日 牧野珍田兩全權

米 「ウヰルソン」

英 「ロイド、ジョージ」

佛 「クレマンソウ」

伊國ヨリハ出席セス

一、内 容 山東問題討議

(事ノ詳細ニ就テハ第三六頁以下山東問題ノ經過參照)

○四月二十三日五大臣會議

一、日 時 四月二十三日

一、出席者

日 牧野全權

佛 「ビション」

英 「バルフォア」

米 「ホワイト」

伊 「マルチノ」

一、議 長 「ビション」

一、内 容

(甲) 獨逸ヲシテ講和條約施行以前ノ事實ニ基ク金錢上ノ要求ヲ爲サシメサル件
米國ハ「本條約ノ規定セル外獨逸ハ聯合國ニ對シ本條約施行前ノ事實ニ基キ直接間接金錢上ノ要求ヲ爲ササルヘシ」ト
ノ意味ノ條項ヲ豫備條約ニ挿入セムコトヲ提議シ右ハ趣旨ニ於テ賛成ノ上起草委員會附託トナル

(乙) 獨逸領内空中自由通過問題

航空委員會ノ提出セル「獨逸ハ聯合國ニ空中通過ノ自由ヲ認ムヘキ」ノ條項ハ可決サル但シ獨逸ノ萬國航空條約ニ加
盟ノ時期及形式ニ關スル條項ハ米國ノ留保アリシ爲メ(脱)コトトナレリ

(丙) 獨逸植民地ニ於ケル獨逸人ノ居住營業並公私財産ノ處分問題

本件ニ關シ「バルフォア」ハ是等ノ問題ハ別ニ條項ヲ設ケストモ他ノ獨逸ヨリ讓渡セシムヘキ領土ニ關スル規定ヲ適用
シテハ如何ト云ヒ又各委任統治國ニ一任セムト云ヒタルカ「ビション」ハ植民地ニ關シ豫備條約中ニ規定ヲ設クルノ必
要ヲ述ヘ「バルフォア」ハ然ラハ別ニ委員ヲ任命(脱)經濟賠償委員會ノ規定セル條項ヲ見ルニ一般ノモノト佛國關係
ノモノトアル處他ノ利害關係國ニ關スル條項ヲモ挿入スルコトトシ度シ仍テ此點ヲモ「バルフォア」氏ノ云ヘル委員會
ニテ調査セシメタト述ヘ伊國側ハ之ニ賛成シ翌四月二十四日右委員會ヲ開クコトトシ日本側ヨリハ深井山川ヲ出席セ
シム

(丁) 植民地ニ武器酒類ノ販賣禁止問題

本件ニ付テハ別電(未着)ノ通りノ條項ヲ可決セリ

(戊) 「チエック」波蘭妥協問題

「チエック」スロヴァツク」及波蘭問題ヲ「ベネス」ラシテ妥協セシムルコトトナレリ

○附錄 獨逸空中自由通過條約案

1. The air-craft of the Allied and Associated Powers shall be accorded full liberty of passage and landing over and in the territory and territorial waters of Germany, and shall, while exercising that right of passage or landing in Germany, enjoy the national treatment, particularly in case of distress, by land or sea.
2. The air-craft of the Allied and Associated Powers shall, while in the transit to any other state, enjoy right of flying over the territory and territorial waters of Germany without landing.
3. All aerodromes in Germany open to the national public traffic shall be open for the air-craft of the Allied and Associated Powers, and in any such aerodrome such air-craft shall be treated on a footing of equality with the German air-craft, as regards charges of every description, including charges for landing and accommodation.
4. All certificates of nationality, certificates of air worthiness, certificates of competence and licenses, issued or rendered valid by any of the Allied or Associated Powers shall be recognized by Germany as valid and as equivalent to the corresponding certificates and licenses issued to the German air-craft.
5. As regards the internal commercial air traffic, the air-craft of the Allied and Associated Powers shall enjoy throughout Germany the treatment accorded to the aircraft of the most favoured nation.
6. Germany undertakes to adopt measures to ensure that every German air-craft flying about its territory shall comply with the rules for the air traffic on and in the vicinity of aerodromes, contained in the conventions relating to the international air navigation made between the Allied and Associated Powers.

○四月二十六日五大臣會議

一、日 時 四月二十六日午後三時

一、出席者

日 牧野全權

佛 「ビシヨン」

英 「ハルディング」

米 「ランシング」

伊國側ハ出席セス

二、議 長 「ビシヨン」

一、内 容

(甲) 獨逸領内容中自由通過問題 (承前、四月二十三日五大臣會議乙参照)

航空條約ニ加盟スル迄獨逸ハ聯合國ニ自國領内容中通過ノ自由ヲ承認スヘキ案ニ關シ「ランシング」ハ本案ハ獨逸ノ航空條約加盟ニ關シ明白ナル條項ヲ缺クノミナラス獨逸ニ片務的義務ヲ課シ且甚シク其商工業ヲ壓迫スルモノナリト述ヘ

英佛専門委員ハ本案ハ獨逸カ平時用ノ飛行機ヲ戰爭ノ目的ニ專用スルヲ妨ケムトスルニ出テタルコト獨逸カ航空條約ニ加盟スル迄過渡的規定トシテ必要ナルヲ説明シタルカ

「ランシング」ハ獨逸ハ國際聯盟ニ加入スルニ依リ又ハ其前聯合國ノ同意ニ依リ航空條約ニ加盟シ得ヘク千九百二十三年一月一日迄ニ加盟シタル(トキハ同日後本條項ノ制限ヲ免ルヘキヲ規定スヘシト云ヒ此趣旨ノ修正ヲ加フルコトトナレリ

(乙) 波蘭派遣委員ノ資格問題

波蘭派遣委員ハ既ニ其任務ヲ果シタルヲ以テ今後ハ單ニ個人トシテ波蘭問題委員會ノ議ニ加ハルコトトス

(丙) 「ガリシヤ」問題

「ガリシヤ」問題ニ關シ波蘭委員會ヨリ「レンベルク」地方ハ聯合國監督ノ下ニ自治國トスヘキヤ波蘭、「チエツク、スロ」一ツアツク、露國間ニ分割スヘキヤニ付五國會議ノ意見ヲ求メタルニ對シ同委員會ニ調査方ノ權限ヲ與ヘ案ヲ具シ報告セシムルコトトナリタリ

(丁) 露國人ヲシテ波蘭問題委員會ニ於テ露國關係問題ニ付意見ヲ述ヘシムル件

露國人ヲシテ波蘭問題委員會ニ於テ露國關係問題ニ付意見ヲ述ヘシムルハ差支ナカルヘキヤトノ波蘭委員會ヨリノ伺ハ差支ナキニ決ス

(戊) 波蘭人ト「リチユアニア」人トノ衝突防止問題

最近、ポルシエヴヰキ「軍」ニ對スル成功ニ依リ波蘭軍ハ「グロドノ」地方ニ進出シ豫テ同地方ヲ要求セル「リチユアニア」人ト衝突スルノ危機ヲ生シタルヲ以テ之カ防止方法ヲ「フオツシユ」元帥ニ一任セムトスル波蘭問題委員會ノ意見ニ對シ「ランシング」「ハルディング」ハ軍事上ノ措置ヲ執ルコトヲ避ケムトシ波蘭政府ヲシテ其軍隊ニ對シ適當ノ訓令ヲ發セシムル様且「グロドノ」地方問題ニ關スル聯合國ノ決定ハ軍事上ノ形勢ニ依リ左右セラレサルヘキコトヲ在巴里波蘭代表者ニ申入ルルコトトナレリ

(己) 獨逸人捕虜送還問題

獨逸人捕虜ニ關シ「ランシング」ハ捕虜ハ平和後速カニ送還スヘキモノニシテ佛國カ之ヲ勞役ニ服セシメムトスルハ捕虜ヲ奴隸トスルニ等シト論シ又條約案中獨逸將校ヲ人質ト爲サムトスル條項ニ反對シ英佛側ハ右條項ハ獨逸ヲシテ戰爭法規違反者ヲ引渡サシムル手段トシテ必要ナルヲ説明シタルモ尙其撤回ヲ求メ「ビシヨン」ハ右兩點ニ關スル「ランシング」ノ意見ヲ「クレマンソウ」ニ取次クコトトナレリ

(庚) 巴威食料供給問題

巴威食料供給問題ニ關シ五國會議ノ質問ニ對シ最高經濟會議ヨリ右ハ機宜ニ適セス又實行不能ナリトノ回答ハ其儘ト承スルコトナレリ

(辛) 獨逸植民地問題

獨逸植民地問題委員會ノ提出セル條約案ハ可決シタリ(條文未着)

○四月二十九日首相會議

一、日 時 四月二十九日午前十一時

一、場 所 「ウヰルソン」宿舍

一、出席者

日 牧野、珍田兩全權

米 「ウヰルソン」

英 「ロイド、ジョージ」、「バルフォア」

佛 「クレマンソウ」

伊國ヨリハ出席セス

一、内 容 山東問題討議(承前、詳細ニ就テハ第三六頁以下山東問題ノ經過參照)

○四月三十日首相會議

一、日 時 四月三十日

一、場 所 「ウヰルソン」宿舍

一、出席者

日 牧野、珍田兩全權

米 「ウヰルソン」

英 「ロイド、ジョージ」

佛 「クレマンソウ」

伊國ヨリハ出席セス

一、内 容

(甲) 山東問題討議、決定(承前、詳細ニ就テハ第三六頁以下山東問題ノ經過參照)

(乙) 新賠償委員會組織ニ關スル日本委員ノ抗議問題

○次ニ首相會議ニ於テ新賠償委員會組織ニ付白耳義ヲ加ヘ日本ヲ除キテ五人トナセシ點ニ付首相會議ニ抗議ヲ申込ミタル覺書ヲ提出シ置キタル處其結果ニヤ右首相會議山東問題解決後「ロイド、ジョージ」ヨリ賠償委員會ハ海上損害ノ問題ヲ除キ一般討議ニ付テハ原案ノ通白耳義ヲ加ヘ五人トナシ海上問題ニ付テハ日本委員之ニ代リ埃洪國問題ニ付テハ塞爾比カ白耳義ニ代ルコトスルノ案ヲ提出シ大統領モ之ニ關シ元來此委員ハ最少限度ニ限ル可シトノ方針ヲ確定シ被害ノ高ニ準シテ之ヲ指定シタル次第ナルヲ以テ日本ヲ入ルル時ハ白國ヲ除カサル可カラサル事情ヲ辯明シタリ

○我全權ハ日本ノ損害ハ海上ニ限ラサルカ故ニ右提案ノ範圍ヲ廣メ海上損害並日本ノ利害關係アル場合云々ト修正ヲ求メタルカ

○英首相ハ單ニ利害關係トスルトキハ範圍漠然トシテ適用上困難ヲ生スヘシトノ理由ヨリ原案ヲ支持シ

○我全權ヨリ支那ニ於ケル獨逸人私有財産處分ヲ規定セル財政條項第一三條ノ關係ヲ指摘シテ修正ノ必要ヲ説キタル結果海上損害及同第一三條ノ適用上日本ノ利害ニ關スル範圍ニ於テ日本委員ヲ加フルコトニ妥協決定セリ

(丙) 俘虜ノ費用要求權拋棄ニ關シ日本委員ノ抗議並讓歩

我全權ハ更ニ財政條項第一六條締盟國ハ敵ノ俘虜ニ關シ一切ノ費用ニ付テノ總テノ要求權ヲ相互ニ拋棄ストノ條項ヲ指摘シ日本ニ於ケル敵國俘虜ハ四、五千人ニ達シ歐洲ニ於ケルカ如ク之ヲ使用セス日本ノ費用ニテ給養セル敵國ニ日本俘虜殆ト無ク全ク一方の負擔ニ終レルモ他ノ國ニテハ雙方ノ俘虜數略ホ平均セルト異ナルコトヲ注意シタルニ英國首相ハ已ニ原則決定セル此際日本ノ爲ニ特ニ異リタル規定ヲ設クルトキハ他ニモ同一ノ境遇ニ在ルモノアリ現ニ我英國ノ如キモ彼我ノ俘虜ヲ比較スル時ハ五ト一ノ比例ナリ從テ之ニ對シ多額ノ費用ヲ支出シタリトノ事由ヲ詳説シ日本ノ爲ニ例外ヲ設クルノ不可能ナル所以ヲ力説シ到底會議ノ同意(脱)トナリタルヲ以テ已ムヲ得ス我全權ハ之カ爲メニ大ナル困難支障ヲ生スルトセハ日本ハ其ノ要求ヲ強イテ主張セサル可シト答ヘタリ大統領及首相ハ之ニ對シテ謝意ヲ表シ散會セリ

因ニ云フ右ニ關シ實ハ俘虜收容費ニ付テハ日本ニ對シテ公平ヲ缺ク點アリシモ差引勘定セハ歐洲諸國間ニハ敵ト味方ノ俘虜ノ人數ノ差ハ我俘虜以上ノ數ニ達シ更ニ抑留非軍人ヲモ加フルトキハ計算一層面倒ナルヘク遂ニ賠償問題財政問題ノ全體ニ根本的變更ヲ生シ且又他ノ國ヨリモ其ノ特殊事情ニ基キ特殊ノ除外例ヲ求ムルニ於テハ實際上條約案モ容易ニ纏ラサル可ク首相會議ニ於テモ我主張ニ對シテハ理ノ當然ナルモ頗ル當惑セル實情ナルヲ察シタルヲ以テ我全權モ前記ノ如ク一般決定ニ讓歩セル次第ナリ

○四月三十日五大臣會議

一、日 時 四月三十日午後三時

二、出席者

日 牧野全權
佛 「ビション」
英 「バルフォア」
米 「ランシング」
伊國ヨリハ委員出席セス

一、内容

(甲) 波羅的諸州問題延期

波羅的諸州問題ニ關スル聯合國ノ政策ハ成ル可ク速ニ解決ス可キ重要問題ナルカ英米共ニ尙研究中ナレハ本日ノ會議ニ於テハ之ヲ議セサルコトトシ

(乙) 「シユレスウイツヒ」ニ關スル國際委員會ノ構成問題

「シユレスウイツヒ」ニ於テ行政及衆民投票ノ監督ノ任ニ當ル可キ國際委員會ノ構成ニ關シ(丁抹ニ關スル條約第一條)聯合國ヨリ任命ス可キ三名ハ英、佛、米三國政府ヨリ各一名ヲ任命スルコト並諾威瑞典政府ニ各一其委員ヲ任命センコトヲ今ヨリ通告シ置クコトトシ同委員會ノ必要トスル兵力ハ海軍力ニ依リ海軍官憲ハ必要ノ場合ニハ陸軍官憲ノ援助ヲ求メ得ルコトトセリ

(丙) 「モナコ」公國繼承問題

「ビション」ハ一九一八年七月十八日佛國、「モナコ」公國間ノ條約ハ兩國特殊ノ關係ニ基キ殊ニ今回兩國政府ハ「モナコ」公國繼承問題ニ關シ獨逸カ「ウラツバ」(Urbach)家ノ獨逸血統ヲ推立セムトスル陰謀ヲ防クル必要ヲ認メ疑ニ「モナ

コ「公カ其孫「マドモアゼル、ド、ヴァランタンノア」Mademoiselle de Valeninoisヲ相續者トシタルヲ確認スルモノナルカ
之ヲ公表スルニ當リ豫メ獨逸ノ反對ヲ防ク爲メ講和條約中ニ右條約ヲ承認スルコトト致シ度シト述ヘ異議ナク可決ス
(丁) 海底電線問題

○海底電線問題ニ關シテハ「バルフォア」「ランシング」佛國委員「ルボン」提督間ニ稍々長時ニ互ニ議論アリ最初ハ三月二
十四日五國會議ニ於ケル「バルフォア」ノ提議ニ基キ聯合國カ切斷シ且ツ陸揚地ヲ變更シ他ニ轉用シタルモノハ之ヲ兩
獲スルニ一致セントシタルニ

○佛國ハ「モンロビア」Monrovia「ペルナンブ」Perambuco 線ハ元來佛國カ米國參戰前ニ正當ニ之ヲ占領シ既ニ他ニ
轉用シ得ル地位ニアリタルニ米國ノ申出ニ依リ他ニ轉用スルニ至ラザリシモノナルヲ以テ佛國ノ有ニ歸セシメントシ
「ランシング」ハ占領切斷ハ正當ナル交戦行爲トスルモ同線ノ所有權ハ獨逸人ニ屬スルモノトシ又英國ハ聯合國ハ切斷
點ヨリ新ナル陸揚地ニ至ル迄ノ線ノミナラス殘存線ヲモ聯合國ニ歸スルモノトシ米國ハ切斷點ヨリ陸揚地迄獨逸ハ
自己ノ費用ヲ以テ修理スルヲ得ヘク聯合國ハ陸揚地ニ關シ更ニ許可ヲ與フヘキヤ否ヤヲ決スル自由ヲ有スルモ殘存線ハ
獨逸ノ所有ニ屬スルモノトシ主義ノ見解ヲ異ニシタルヲ以テ更ニ首相會議ノ決定ヲ求ムルコトナリタルカ

○牧野全權ハ本件ハ日本ニモ利害關係アル問題ナレハ自分モ首相會議ニ列席シテ意見ヲ述フルコト、致シタシト述ヘ一
同之ヲ諒トセリ

(戊) 海底電線管理ノ爲「ヤップ」島ヲ國際委員會ノ行政ノ下ニ置カントスル米國ノ提案

○「ランシング」ハ更ニ海底電線問題ニ關聯シテ最近ノ機會ニ於テ提議シ度キコトアリ即チ一般通信ノ利益ノ爲メ海底電
線ノ集合中心タル「ヤップ」島ヲ國際化シ海底電線管理ニ關シ同島ヲ委員會ノ行政ノ下ニ置クヘキヤノ問題ナリト述ヘ
タルカ

○牧野全權ハ日本ハ現ニ同島ヲ占領シ居ルヲ以テ本件ニ關シテハ云フヘキモノ多シ同島ノ地位「ステータス」ニ關シテ

ハ協議濟ノ次第アリ然ルニ「ランシング」氏ノ提議ハ同島ノ地位ニ影響ヲ及ボスモノニシテ頗ル重大ノ問題ト云ハサルヘ
カラス自分ハ同島ノ地位ヲ確定スルコト先決問題ナリト思考スト述ヘ
○「ランシング」ハ獨逸植民地諸島ハ必スシモ皆同一ノ「ステータス」ヲ有セシムル必要ナルヘク「ヤップ」島ハ例外ノ場合
トスルヲ得ヘシト云ヒ

○牧野全權ハ重テ「ヤップ」島海底電線問題ヲ論スルニ先立チ同島ノ「ステータス」ヲ決定スルコト肝要ニシテ電線管理問題
ハ枝葉ノ問題ナルヲ説明セリ

○備考 米大統領ノ南洋諸島(「ヤップ」等)國際管理意見

四月二十一日我全權ト「ウキルソン」大統領ト山東問題ニ付會見ノ際端ナク委任統治問題ニ言及セシ際「ウキルソン」ハ
南洋諸島ニ付キ例ヘハ「ヤップ」島ノ如キ萬國電信線ノ集注點タル所ハ其性質上純然タル國際聯盟ノ「コントロール」ニ
委スルヲ得トストノ意見ヲ自分一個ノ考否寧ロ當路トシテ抱懷スルコトヲ語リタル處本件ハ何レ委任統治ノ委託國ヲ定メ
其管理方法ヲ議スル際充分反駁シ得ヘシト考ヘ此際山東問題ト同時ニ議論ヲ引起スハ得策ニ非スト信シ單ニ之ヲ開流シ置
キタルカ同大統領竝ニ米國側ニ「ヤップ」島ニ付キ別ニ考案ヲ有スルコトハ明カニシテ此點ニ付テモ米國ト論議スヘキ時
期近ク來ルヘシト思惟シ居タル處遂ニ本日ノ議題ニ上リタルナリ

○山東問題ノ經過

目次

- 第一、四月十五日ノ五國外相會議ニ於テ埃及摩洛哥問題討議ノ際山東ノ處分ニ言及セル「ランシング」ノ提議
- 第二、四月十六日以後ノ經過
- (一) 四月十七日ノ西園寺牧野兩委員ト「クレマンソウ」トノ會見
- (二) 四月二十一日附内田外務大臣ノ訓電
- (三) 四月二十一日ノ牧野珍田兩委員ト「ウヰルソン」トノ會見
- (四) 四月二十二日ノ首相會議

附

- A 號 首相會議ノ席上ニ於ケル牧野全權ノ陳述(日本ノ要求ノ理由ノ説明)(英文並譯文)
- B 號 我國提出山東ノ處分ニ關シ對獨講和豫備條約中ニ挿入スヘキ條約案(英文並譯文)
- (五) 四月二十二日米國大統領及英佛首相ノ支那委員引見
- (六) 四月二十六日午前ノ牧野珍田兩委員ト「パリンフォア」トノ會見
- (七) 四月二十六日夜珍田委員ト「ランシング」トノ會見
- (八) 四月二十九日ノ首相會議

附

- C 號 宣言發表ニ關スル「バルフォア」案(英文並譯文)
- D 號 宣言發表ニ關スル「ウヰルソン」案(英文並譯文)

(九) 四月二十九日ノ帝國全權會議

附

- E 號 宣言發表ニ關スル帝國側提出修正案(英文並譯文)
- F 號 日支條約及取極ノ解釋ニ關スル公表文案(英文並譯文)
- G 號 四月三十日ノ首相會議ニ於テ決定シタル山東問題ニ關シ講和條約中ニ挿入スヘキ條約文(英文並譯文)
- (十) 四月三十日ノ首相會議

第三、(參考)山東問題ニ關スル日支間ノ條約及交換公文一斑

- (甲) 山東省ニ關シ大正四年五月二十五日調印ノ日支條約ノ内容
- (乙) 膠州灣租借地還附聲明ニ關スル大正四年五月二十五日日支間交換公文ノ内容
- (丙) 山東省ニ關スル諸問題處理ニ關シ大正七年九月二十四日日支間交換公文ノ内容

内容

第一、四月十五日五國外相會議ニ於テ埃及摩洛哥問題討議ノ際山東ノ處分ニ言及セル「ランシング」ノ提議
 四月十五日午後ノ五國外相會議ニ於テ英佛カ埃及摩洛哥ニ關スル其ノ主張ヲ敵國ヲシテ承認セシムル爲之ヲ特殊ノ條項トシテ平和條約中ニ挿入スルノ件ヲ提案スルヤ米國委員「ランシング」ハ領土問題ヲ斯クノ如ク個々ノ條文ニテ規定スル代リニ一般的规定ヲ以テ獨逸ヲシテ自己固有ノ領土以外ノ領土權ヲ拋棄スル旨ヲ約束セシムルコト適當ナリト爲シ更ニ進ムテ此種ノ問題ハ單ニ摩洛哥、埃及ニ關スルモノノミナラス例ヘハ支那ニ於ケル獨逸領問題支那及暹羅ニ於ケル治外法權問題ノ如キハ全ク本件ト同一性質ノモノナリト思考ス

ト述ヘ牧野全權ヨリ山東ニ關スル帝國ノ主張ヲ説明スルヤ「ランシング」ハ重ネテ
 日本ハ受託者「トラスター」トシテ山東ヲ獨逸ヨリ讓受クル意思ト了解シテ可ナルニ於テハ同盟諸國カ「トラスター」トシ

ヲ受取ルコトト爲スモ差支無キニ非スヤ

ト反問シタル顛末ハ既ニ前調書ニ詳記シタル所ナリ(調書其六第一二頁丁參照)

第二、四月十六日以後ノ經過

其後講和豫備會議ノ會期モ漸ク終了ニ近ツキ愈々四月二十五日ニハ獨逸全權ヲ「ベルサイユ」ニ招致シ翌二十六日ニハ聯合側ノ條件ヲ提示スルコトニ決定セラレ從テ此ノ際急ニ五國會議ニ於テ右ニ關スル決定ヲ爲サシムル必要アルニ運レルカ諸般ノ情況ヨリシテ米國國務卿「ランシンク」カ支那ノ主張ヲ或ル程度迄支持スヘキハ殆ト疑無キニ至リ又四月十六日珍田委員カ英國外相「バルフォア」ニ會見シタルニ同氏ハ極秘トシテ米國カ少クトモ最初ハ支那ノ主張ヲ支持スルノ態度ヲ執ルヘク又「クレマンソウ」氏ニ於テモ日本カ還附ニ付提出スヘキ條件如何ヲ問題ト爲シ居ル旨ヲ内話シタリ

(一) 四月十七日ノ西園寺牧野兩委員ト「クレマンソウ」トノ會見

仍テ四月十七日西園寺委員牧野委員ト共ニ「クレマンソウ」ト會見シ

帝國カ青島ヲ支那ニ還附スルコトハ日本ノ對獨最後通牒ニモ言明シタル通ニシテ爾來帝國ハ其ノ意思ヲ變更シタルコト無ク右還附ニ關シテハ日支ノ間ニ條件ヲ明定シアリ

然ルニ支那ハ其ノ對獨宣戰ヲ理由トシテ支獨間及日支間ノ條約無效論ヲ提出シテ青島ノ直接還附ヲ請求シ居リ其ノ論據ノ不當ナルノミナラス本問題ニ關スル支那ノ態度ニ鑑ミ法理上ノ問題ヲ離レ日本ノ威嚴及名譽ニ關スル政事上重要ノ問題トナリ日本ニ於テ到底讓歩シ得サルモノナリ

ト説明シタルニ「クレマンソウ」氏ハ右ノ條件ニ付知ルコトヲ得ヘキヤト質問シタルニヨリ我委員ハ大正四年條約附屬公文記載ノ四條件ヲ示シタルニ「クレマンソウ」氏ハ第一、居留地ノ區域如何、第二、公文ニ記載セル其ノ他ノ條件トハ何ナリヤトノ二點ヲ質問セリ右ノ質問ハ固ヨリ我委員ノ豫期シタルモノニシテ當日會見ヲ求メタル主タル目的ノ一ハ右條件ニ關

スル疑懼ヲ一掃スルニ在リタルヲ以テ我ヨリハ直ニ居留地ハ支那領ノ一定地域ヲ指スモノニシテ決シテ無暗ニ廣大ナル地域ヲ得ムトスル趣旨ニアラス又其ノ他ノ條件トハ引渡ノ手續ニ關スル問題ニシテ特ニ新ナル要求ヲ提出スル趣旨ニ非サル旨ヲ最モ明確ニ返答シタリ

「クレマンソウ」氏ハ右ノ説明ヲ聽取シタル後自分ハ日本ノ友人トシテ打開ケタル話ヲ爲スヘシトテ同氏カ今迄個々ノ談話ニテ得タル感想ニ依レハ日本ハ本問題ニ付法理上困難ナル立場ニ在ルカ如ク若シ日本ニ於テ還附ノ條件ヲ確定シ明瞭ナル説明ヲ與ヘラルルニ於テハ大ニ本件解決ノ困難ヲ輕減スルコトヲ得可シト謂ヘリ

茲ニ於テ我委員ヨリ右法理上ノ困難トハ如何ナル點ヲ指スモノナリヤト反問シタルニ「クレマンソウ」氏ハ宣戰ニ因リ條約消滅スト云フ點ニ在リト答ヘタルヲ以テ右ニ對シテ我全權ヨリハ

宣戰ハ交戰國間ノ一切ノ條約ヲ消滅セシムルモノニ非ス殊ニ租借地ノ如ク領土ニ關スル條約ハ宣戰ニ依リ當然無効トナルモノニ非ス其ノ運命ハ講和條約ニ依リ始メテ確定スルモノナルコトハ學者ノ一般ニ認ムル所ナリ

又支那ハ宣戰ノ結果日支間ノ條約ヲ無効トナリタリト主張スレトモ日支間ニ於テハ千九百十五年ノ條約及千九百十八年ノ協定アリ假リニ前者ニ關スル支那ノ主張ニ付テハ之ヲ論議シ得ルトスルモ殊ニ後者ハ支那宣戰後ノ締結ニ係リ協定ノ效力ニ付議論ノ餘地ナク而シテ千九百十五年ノ條約及千九百十八年協定ハ互ニ相關聯シ而カモ其ノ一部ハ履行セラレ居

リ支那ハ一定ノ金額ヲ日本ヨリ受領シ居レリ
ト説明シ尙進シテ

支那ヨリ會議ニ提出セル覺書ニ對シテハ我專門家ニ於テ十分攻究ヲ遂ケ一々辯駁ヲ加ヘタル覺書ヲ作製シ居リ未タ外部ニハ出テサルモ參考ノ爲一部差上クヘシ

トテ之ヲ「クレマンソウ」氏ニ手交シタルニ同氏ハ
右日支協約ニ關スル説明ハ有力ナリト認メラルルニ付至急大國首相ニ送附セラレタシ

ト述ヘ尙繰返シテ

青島還附ニ關シテハ條件ヲ明確ニ限定シ會議ニ於テ之ニ關スル明瞭ナル説明ヲ與ヘラルルコト本問題ノ解決ニ必要ナルヘシ

ト言ヘリ (以上四月十八日巴里發電ニヨル)

(二) 四月二十一日附内田外務大臣ノ訓電

(松井大使宛四月二十一日發)

右ニ對シ内田外務大臣ハ四月二十一日左ノ如キ訓電ヲ發シタリ

青島ノ處分ニ關スル帝國ノ方針ハ曩ニ申進タル通無條件ニテ獨逸ヨリ獲得シタル上日支協約ノ條文ニ從ヒ之ヲ支那ニ還附スルニ在リ右ハ帝國政府最終ノ決定ニシテ何等ノ變更ヲ許ササル次第ナルニ付若シ右主張ニシテ其ノ儘貫徹セサルカ又ハ國際聯盟委任管理ノ制ヲ青島ニ關スル我要求事項ニ適用セラルルカ如キ場合ニハ國際聯盟規約ニ調印スルコトヲ見合サレ直ニ請訓セラレ度又萬一閣下等ニ於テ既ニ右帝國政府ノ決定ニ反シ何等「コミット」セラレタル所アリトスルモ帝國政府ニ於テハ面目上何等讓歩ノ餘地無キニ付其ノ御含ニテ最善ノ努力ヲ希望ス

右帝國外務大臣ノ訓電ニ對シ在佛帝國講和委員ヨリ直ニ左ノ通返電アリタリ (四月二十四日日本省着)

青島ノ處分ニ關スル我主張ノ容レラレサル場合ニハ國際聯盟規約ニ調印スルコトヲ見合スヘキ旨御訓令アリタル處聯盟規約ハ講和豫備條約ノ一部ヲ成スモノナルヲ以テ講和豫備條約ニ調印ヲ見合ハス儀ト解シ其ノ趣旨ニテ折衝シ居ルニ付御承知置アリタシ

(三) 四月二十一日ノ牧野珍田兩委員ト「ウキルソン」トノ會見

(四月二十二日巴里發電ニ依ル)

○山東問題ノ解決ニ關シテハ「ウキルソン」歸佛後我委員ヨリ累次該案件ノ附議ヲ要求シタルニ係ハラス首相會議ハ専ラ列國間確執ノ疏通ニ没頭シ居ル上ニ豫備條約案確定ノ時期愈々切迫セルヲ以テ我ニ於テハ「バルフォア」氏ヲ動シテ山東問題解決ノ緊急ヲ説カシメタル結果愈々本週勿々之ヲ討議スルコト、ナリタルニ付四月二十一日先ツ牧野珍田兩委員ハ「ウキルソン」氏ヲ往訪シ其私見ヲ求メタリ會談ハ一時間餘ニ互リ論點多岐ニ分レタルモ要領左ノ如シ

○我委員ハ冒頭帝國現内閣組織ノ特性其ノ外交方針殊ニ對支方針ノ大體ヲ説述シタル末山東問題ニ關スル帝國ノ要求ヲ主張シ同大統領ノ支持ヲ請ヒタルニ大統領ハ慎重ニ傾聽シタル後「自分ハ講和條約(脱)トシテ即チ恒久的世界平和ヲ確保セムト欲スルモノニシテ講和條件ヲ考量スルニ方リテモ敢テ列國目前ノ利害ヲ超脱シテ此根本義ヲ主張スル所以ナリトノ前置ヲ以テ第一ニ例ヲ「ヒューメ」問題ニ取り伊國ノ主張カ「スラヴ」人ニ壓迫ノ結果トナリ將タ將來ノ亂階ヲ貽スヘシトノ憂慮ヨリ反對ノ態度ヲ維持セサルヲ得ストノ事由ヲ彼説シタル後語ヲ轉シテ極東ノ平和ハ世界ノ平和ノ大局上最モ重大ナル所以ヨリ獨逸ヲ始メ諸外國カ支那ノ文弱ニ乘シ侵略的行動ニ出タル事蹟ニ言及シ「日支兩國ノ關係ニ付テハ支那カ日本ノ威力ヲ恐ルルト同時ニ其ノ意圖ニ關シ疑懼ノ念ニ支配サレ居ル情勢ナルカ如シ支那ノ人民ヲシテ斯ク不安ノ念ヲ懷カシメ置クハ決シテ大局ニ貢獻スル所以ニアラス隨テ獨逸ヲシテ放棄セシムヘキ領土ニ付テハ「ランシング」ノ考案ニ基キ之ヲ聯合國全體ニ對シテ一ト先ツ讓渡シセメ然ル後聯合國間ニ於テ其所屬ニ付熟議協定スルコトトセハ可ナラムト信ス」ト専ラ政治上將又理想上ヨリ述ヘタリ

○於是我委員ハ「山東ノ問題ハ他ノ獨逸領ノ處分問題ト異リ日支兩國ノ間ニハ千九百十五年ノ條約ヲ以テ既ニ處分方法ヲ協定シ且ツ支那ノ宣戰後千九百十八年ニ更ニ公文交換ニヨリ其一部ハ實行方法ヲ協定シ其協定條項ノ一部ハ實行セラレ居ル次第ニテ兩國ノ間ニ何等ノ疑義ナキ筈ナリ即チ山東問題ニ付テハ右條約ノ取極ヲ實行スルタケノコトナリ」トテ日支間ノ條約取極ヲ詳述シタル後「此等ノ條約ハ(脱)ヲ以テ公布セラレ日本國民ハ本件カ右條約ニ定ムル方法ニテ講和ノ際解決セラルルコトト信シ居レルニ講和會議ニ於テ右條約トハ全然異リタル方法ニ依リテ解決セラルルトセハ日本ニ於

テハ意外ノ感ニ打タレ民心ノ激昂ヲ來スハ勿論斯ノ如ク既ニ明白ニ定リタル條約ヲ無視シテ本問題ヲ全然別個ノ處分方法ニ委スルニ於テハ或ハ我全權カ豫備條約ニ調印スルコトヲ得サルニ至ルヤモ計リ難シ」トテ繰々日本ノ立場ヲ説明シ尙個人間ノ私見トシテ支那外務大臣カ講和會議出席ノ途次日本ニ立寄り我外務大臣ト會談シ講和會議ニ於テ日支兩國協和ノ歩調ヲ取り度ク殊ニ日本ノ援助ヲ受ケ度キ旨ヲ述ヘ我外務大臣ヨリ租借地還附ノ宣明ト協力援助ノ快諾ヲ聞キ喜ビ居リシ位ニテ日支ノ關係ハ融和協力ノコトト信シタルニ同全權等巴里着以來態度一變シ日本ニ關シテ盛ニ攻撃的ニ「プロバガンダ」ヲ爲シ全ク敵對ノ態度ニ出ツルニ至リタル事實ヲ指摘シ本問題ノ自體ニ加フルニ右様ノ曲折ヲ以テシタル結果本問題ハ今ヤ單純ナル一租借地ノ問題ニ止マラスシテ極東ニ關スル政治上ノ重大ナル問題ト化シタル事由ヲ說示セリ

○大統領ハ頗ル悟ル所アルカ如ク談ヲ改メテ鐵道問題ニ言及シ『若シ日本ニ於テ全然獨逸ノ權利ヲ繼承スルトセハ支那人ル限り獨逸國壓迫ノ當時ヲ繰ノ關ス返スニ過キサレヘシトノ疑懼ヲ抱クヘシ』ト述ヘタルニ付

○我委員ハ之ニ對シ山東鐵道ハ一九一八年取極ヲ以テ日支合辦ノコトニ決定シ且其延長線ニ付テハ日本ヨリ借款スルコトトナリ其詳細規定ニ付日本資本家ト支那政府ト交渉中ナルノミナラス其一部ハ既ニ實行ヲ見現ニ二千萬圓ノ前渡金ヲ供與シタル事實ヲ指摘シタルニ

○大統領ハ再ヒ『山東鐵道ハ初ヨリ獨支合辦ノ形式ナルニ拘ラス是全ク名ノミニテ其實純然タル獨逸ノ鐵道ナリ支那ノ權利ル所ハ日本カ全ク獨逸ノ地位ニ代リ獨逸ノ如ク合辦ト云フモ名ノミニテラサルヤトノ心配ヲ致スヘキヲ恐ル』ト説ケルヲ以テ

○我委員ニ於テハ日支間ニ於ケル幾多合辦事業カ滿洲及其他地方ニ於ケル林木公司ノ如キ現ニ名實共ニ立派ニ行ハレ居リ支那ニ於テ彼此疑念アルヘキ道理無キハ勿論元來山東鐵道タルヤ其性質上租借地ノ延長ト見做スヘキモノニシテ獨逸カ勢力ノ根底ヲ租借地ニ置キ之ヲ鐵道ノ經營ニ及ホシタル次第ナルカ故ニ支那ニ於テ大ニ憂慮スヘキ理由アリタルモ日本

ハ全然之ニ反シ租借地ヲ支那ニ還附スル以上右鐵道從來ノ政治的軍事的性質ハ消滅シ純然タル經濟的性質ヲ有スルノミナルカ故ニ名實共ニ日支合辦ノ成績ヲ舉クヘキハ疑ヲ容レス然ルニ右ニ拘ラス強テ五大國ノ名義ヲ以テ租借國ヲ還附スルカ如キハ日本ノ信義ヲ疑フ外何等ノ意義ヲ有セサル措置ニシテ日本國民ノ名譽威嚴ニ關スル重大問題ナルヲ以テ國民ノ斷シテ容認スルコト能ハサル旨ヲ説キタルニ

○大統領ハ日本ニ對シ何等疑念ヲ抱クモノニ非ストテ繰返シ辯明シ聯合國ト云フモ日本ヲ入レタル五大國ノ義ニシテ五大國ニ對スル讓渡ハ即チ日本ニ對スル讓渡ノ意義ヲ含ムモノナリ且既ニ南洋諸島其他ノ植民地ニ付テ委任統治ヲ認メタルト同一理由ニ基ケハ必スヤ(脱)ト論シタルヲ以テ

○我委員ハ植民地ノ如キハ全ク非文明ナル土民ノ將來ノ發達ヲ助成スル意味ニテ委任統治ヲ爲サントスルモノニシテ支那ノ如キ文明ノ域ニ達セル國ニ存スル領土ノ處分トハ全然其基礎ヲ異ニスルモノニシテ同一ニ論スヘカラサルコトヲ極力辯明シタル

○此間大統領ハ支那問題ニ關スル自己ノ理想論ヲ説キ列國ノ支那ニ對スル從來ノ外交政策ノ侵略的ナルヲ誤レリトシ引テ勢力範圍ノ撤廢ヲ考慮セル旨述ヘタルヲ以テ我委員ハ從來日本ニ於テモ各國ト等シク對外態度ニ關シ硬軟ノ二派有リ、對支政策モ亦右ニ派勢力ノ消長ニ依リテ硬軟ニ途ニ分レ來レルカ近來殊ニ這回ノ戰役末期頃ヨリ對支政策ニ付強硬論次第ニ衰ヘ所謂穩和派ト目スヘキ真ノ日支親善說勢力ヲ占メ現内閣ノ如キハ後者ニ屬シ日本ノ大勢ハ支那ニ對シテハ舊來ノ一派ノ硬論ヲ排シテ對支政策ノ一大變轉期ニ達セリト說明シ勢力範圍撤廢ノ問題ノ如キモ未タ確定訓令トシテ茲ニ言明シ得ザルモ政界ノ有力者並ニ現政府部内ノ有力者間ニモ大ニ之ヲ唱道スルモノ有ル程ニテ日本トシテハ眞ニ門戸開放機會均等ノ主義實行ヲ以テ満足スルモノナリ、又政府ニ於テモ場合ニ依リテハ治外法權ヲ撤回スルノ議ニ付テモ他ノ列國ノ同意ヲ條件トシテ支那ヲ援助シ之ヲ斷行セムトノ意有リ、現ニ其訓令ヲ受ケ居ル程ニテ進シテ此際支那ノ地位ノ昇進ヲ助成スルニ吝ナラサルモ何分支那側ノ講和會議殊ニ日本ニ對スル態度ノ敵對的ナルハ日本ノ意外トシ且ツ之ヲ

惜ムモノナリト述ヘタルニ

○大統領ハ日本ノ對支政策ノ説明ニ特ニ耳ヲ傾ケ、何レ此問題ニ付重ネテ意見ヲ交換スルノ時機有ルヘシト述ヘ鮮クトモ今日ノ會見ハ非常ニ有益ニシテ幾多ノ事實ノ經緯ヲモ知ルヲ得タリ何レニセヨ直ニ「ランシング」ニ會ヒ相談スヘシトテ分レタリ

○備考

我委員カ此日ノ會見ニ依リテ得タル感想ハ大統領カ全然日本ノ主張ニ同意シ又ハ好意ヲ有スルモノトハ言フヲ得サルモ、條約關係ト支那全權ノ態度ノ急轉ニ付テハ大ニ知ル所有リシ様見受ケラレ果シテ宣戰ニ依ル條約消滅説ヲ仄メカシタル法律家出身ノ「ランシング」、殊ニ支那側「プロバガンダ」ニ奔走セル英米新聞記者其他ノ有志ト連絡アリ支那最負ノ傾向アル同人ヲシテ其説ヲ變セシムル程大統領カ此會見ニ於テ我主張ヲ首肯セリトハ考ヘラレサルモ、我方ノ論據ヲ了解セシメ事實上ノ情報（「インフオートメーション」）ヲ與フルコトヲ得タリト思考セラレタリ

尙ホ別レニ臨ミ我委員ヨリ假條約決定前本問題ノ徹底的解決ノ極メテ緊要ナル事由ヲ説キタルニ大統領ニ於テモ充分之ヲ了セル旨ヲ答ヘタリ

(四)四月二十二日ノ首相會議

(四月二十三日巴里發電ニ依ル)

○首相會議ニ於テ愈々廿二日山東問題協議ノ旨通知アリタルヲ以テ同日午前十一時半「ウヰルソン」ノ宿舍ニ牧野珍田兩委員列席シタルニ米大統領「ロイド、ジョージ」、クレマンソーノ三名ノミニテ伊太利首相ハ出席セス因ニ云フ本會議ニ先立チ英佛首相ニ夫々本件ニ關スル兩國ノ公約ノコトニ付注意ヲ喚起スル様取計ヒ置キタルカ之カ爲ニヤ我委員等入室ノ際英佛兩首相ハ各書付ヲ手ニシ大統領ト會議中ノ模様ナリシカ右書付ハ英佛政府ノ日本支持ニ關スル公文ナルコトヲ後ニテ發見シタル所ヨリ察スレハ兩首相ニ於テハ我委員ノ出席ニ先チ大統領ニ對シ説得ヲ試ミタルコトハ想像ニ難カラス

○會議劈頭牧野委員ニ於テ附録A號ノ通り日本ノ要求ノ理由ヲ詳述シ附録B號ノ條約案ヲ配布シタルニ「ウヰルソン」ハ海底電線モ亦獨支間條約ニ依ル「コンセンション」ナリヤト質問シ我ヨリ然ル旨ヲ答ヘタル外案文ノ詳細ニ立入ルコト無ク暫時讓合ヒシ後英首相先ツ口ヲ開キ本問題ニ關シテハ英國政府ハ日本ヲ支持スヘキ旨公約アリトテ「グリーン」大使ノ公翰ヲ示シ佛伊兩國政府モ亦同様ノ公約ヲ爲シタリト記憶スト述ヘタル後我委員ニ向ヒ「茲ニ諮リ度キ一考案アリ他ニ非ス獨逸海外領土ヲ一括シ同國ヲシテ先ツ之ヲ拋棄セシメ終局ノ處分ハ之ヲ聯合國將來ノ協議ニ讓ルヘキコトハ曩ニ五國會議ノ決定シタル所ナリ此一般規定ヲ膠州灣問題ニ準用スルモ格別妨ケ無カルヘキヤニ考ヘラルルニ反シ若シ本問題ニ限り豫備條約中ニ特別條項ヲ設クルトセハ濠洲モ「ニュー、ジブラント」モ同様ニ其要求ニ付特別條項ヲ設クルコトヲ主張スヘク之ヲ拒否スル途無カルヘシ」ト述ヘタリ

○之ニ對シ我委員ハ右考案ヲ解剖スレハ

第一 本件ニ委任管理制ヲ適用スルコト

第二 本件ノ解決ヲ豫備條約以後ニ延期スルコト

ノ二段トナル處其前段ニ關シテハ南洋諸島ヲ委任統治ニ屬セシメタルト膠州灣租借地問題トハ全然其趣旨ヲ異ニスルモノナルコトハ前日「ウヰルソン」大統領ニ説明シタル通り(註)ニシテ兩問題ヲ同一基礎ニ於テ論スヘカラサルハ勿論(此間英首相ハ中言シテ同意ヲ表シ大統領及佛首相モ首肯セリ)

(註) 四月二十一日牧野珍田兩委員カ「ウヰルソン」大統領ニ會見シタル際大統領カ右ノ點ニ言及シタルニ對シテ我委員ハ「植民地ノ如キハ全ク非文明ナル土民ノ將來ノ發達ヲ助成スル意味ニテ委任統治ヲ爲サントスルモノニシテ

支那ノ如キ文明ノ域ニ達セル國ニ存スル領土ノ處分トハ全然其ノ基礎ヲ異ニスルモノニシテ兩者同一ニ論スヘカラサルコト」ヲ極力辯明シタリ

委任制ノ適用ハ日支條約上義務ノ履行ヲ不可能ナラシムヘキ事理ヲ説明シ其ノ後段ニ關シテハ本件ノ如キハ問題ノ性質

其ノ歸着點共ニ明白單純ニシテ特別調査ノ必要ナキ事情ニ鑑ミ毫モ遷延ノ理由ヲ見出スコト能ハサルノミナラス本件ノ満足ナル解決ヲ含マサル豫備條約ニ對シテハ我全權ハ其ノ帶有セル訓令ニ鑑ミルモ調印スルコト能ハサルヘキ旨ヲ明言シテ右考案峻拒ノ止ムナキ理由ヲ辨明シタリ

○「ウキルソン」氏ハ語氣態度共ニ前日ニ比シ一層溫柔和衷ノ色ヲ示シ「本問題ニ對シテハ英佛兩相ハ政府既定ノ方針ニ從ヒ一定ノ態度ヲ執ララルルニ反シ余ハ其ノ間ニ介在シ而モ獨裁シ得ル不幸ナル地位（國家ノ元首タル意味）ニ居ルヲ以テ本問題ノ解決ニ對シ責任ノ重荷ヲ感スルコト痛切ナリ」ト前提シタル後平和ノ確保、支那國民ノ疑懼不安、鐵道問題等ニ關シテ大體前日會談ノ趣旨ヲ敷衍シ諄々ト其ノ理想ヲ力説シ前日ト異ル點ハ更ニ「ランシング」案（四月十五日五國外相會議ト參照）ニ言及セサルト特ニ鐵道ニ關シ質問ヲ連發シタルトノ點ニアリ要スルニ大統領ノ長廣舌ハ日本ニ訴ヘテ何トカ支那國民ノ疑懼ヲ氷解スルノ途ヲ求メムトスルノ希望ニ出テタルモノト看取セラレタリ

○我委員ハ一般對支政策ニ關シ大統領ノ力論セル列國親睦不易ノ理想ニ對シ誠意賛成ノ趣旨ヲ縷述シ列國ノ對支外交政策ノ沿革ニ溯リテ其ノ一種特殊ナル趨勢トナリシ責任ハ暗ニ歐米先進國ニアルコトヲ仄カシ更ニ進テ前日ノ會談ヲ敷衍シ同且帝國議會ニ於ケル帝國外務大臣ノ演說ヲ引用シテ日本ノ對支政策ノ近時ノ傾向愈々和平協同的ナルコトニ言及シ現政府ハ場合ニ依リテハ領事裁判權及勢力範圍ノ撤廢列國守備軍ノ撤退團匪事件賠償金ノ免除ノ四大政策ニ付テモ支那ノ爲メ有利ナル解決ニ達スル様列國ト共ニ協議スルコトヲ辭セサル可キコトヲ宣明スルノ訓令ヲモ吾人ニ與ヘ居ル程ナリ不幸ニシテ支那全權カ最近日本ニ對シテ和衷協同ノ精神ヲ棄テ反テ反對ノ態度ニ出ツル結果之ヲ援助スルニ由ナキ事情ニ立テリト述ヘテ支那ニ對スル日本ノ根本政策ヲ此機ニ於テ披瀝シタリ

右牧野委員ノ演說ノ爲大統領ハ深ク印象ヲレタルカ如キ態度ニテ日本全權ノ口ヨリ公然之ヲ聽キ得タルニ付満足ノ意ヲ表セリ

○更ニ又鐵道ト鐵道トノ關係ニ付大統領ノ質問ニ對シテハ我委員ハ鐵道ハ鐵道會社ニ合併セラレ居ルコトヲ指摘シ一併合併ニ屬スヘキ旨ヲ答ヘ又非常ニ豐富ナル鐵道アリト傳聞スルカ果シテ如何トノ間ニ對シテハ鐵道ノ包積ニ關シテハ確タル統計ナキモ獨逸人カ充分ノ力ヲ採掘ヲ試ミナル事實ヨリスレハ格別有望ノ鐵道ニ非サルヘシト答ヘタリ

○次テ大統領ハ更ニ支那全權ヲモ招キテ更ニ本件ニ付討議スヘキヤ或ハ支那全權ノミヲ招キ單獨ニ其陳述ヲ聽クヘキヤ日本委員ノ意嚮如何ト質問シタルヲ以テ我委員ハ「本委員等ハ最早ヤ本問題ニ付テハ更ニ支那委員ト議論スルノ要ヲ認メス其陳述ヲ聽クハ何等妨有ルヲ見サルモ此ノ日本委員ハ本會議ノ一員タル資格ニ於テ列席ノ權利ヲ有スト信ス但シ支那ノ主張ノ如ク日支條約ノ效力又ハ可否ニ關シ本會議ノ判決ヲ求メ換言スレハ本會議ヲ裁判所ト爲サムトスルカ如キハ事態上本委員ノ斷シテ容認セサル所ナリ」ト答ヘタルニ

○英佛首相ハ單ニ協議スルノミニシテ裁判スルモノニ非サルコトハ勿論ナリト辯シ

○大統領ハ特ニ調停の口調ヲ以テ貴委員列席ノ權利ハ別問題トシテ支那委員ハ貴委員ノ手前ヲ憚リ腹藏ナキ陳述ヲ爲スコト能ハサルノ事情アルヤモ計ラレサルヲ以テ單獨ニ招致スルコト出來間敷キヤト相談シタルヲ以テ

○我委員ハ「支那全權ニ右様ノ感情アラハ本委員等ハ欣然列席ヲ避クヘシ」ト答ヘタリ

○備考

我委員ノ得タル感想ニ依レハ要スルニ此日ノ會議ハ我目的ノ貫徹ニハ何等徹底的ノ效果ヲ擧ケサルモ紋上ノ通り詳細ニ我立場ヲ闡明シタル結果大統領ノ反對ヲ緩和スルト同時ニ本件ニ對スル我態度ノ強硬ナル事實ヲ了解セシメタル利益ヲ收メタルヲ信シタリ又客觀的ニ觀察スルトキハ大統領及ヒ兩首相ニ於テハ何等條約ノ效力論ノ如キ議論ヲ提起セス唯タ一應獨逸領土處分聯合國委託論ヲ輕ク主張シタルニ留マリタル處ヨリ見レハ英佛兩國ハ誠意其公約ヲ履マムトスルノ態度ナルハ疑ヲ容レズ、但シ米國ノ反對ニ對シ如何ナル程度迄強硬ニ其態度ヲ維持スヘキヤハ尙ホ一疑問タルヲ免レサルト同時ニ問題ノ關鍵ハ懸ツテ此一點ニ存スト觀測セラレタリ

四月二十二日ノ首相會議ノ席上ニ於ケル牧野全權ノ陳述(日本ノ要求ノ理由説明)

In January 1st, I had privilege to present and explain before the Supreme Council Japan's claims which we deem as just and fair in the light of circumstances which led Japan to take part in the war and of the actual situations created or found in the regions to which the claims related.

I wish to take advantage of the opportunity now offered me to explain more fully that part of our claims which relates to the leased territory of Kiao-chou and Germany's rights in respect of Shantung Province.

As will be remembered, the Japanese Government sent an ultimatum to Germany on the 18th August 1914 inviting her to unconditionally hand over the territory to Japan which she intended to restore to China.

Germany failed to give answer within specified time limit and this obliged Japan to have recourse to military and naval forces.

In all these steps we acted in consultation and co-operation with England.

The German strongholds at Kiao-chou were captured November 7th 1914 and have, together with Shantung railway, remained to this day under Japanese occupation.

Looking to the eventual termination of the war, Japan approached China in January 1915 with a view to reaching beforehand an agreement as to basis of restitutions to China of the leased territory of Kiao-chou and of disposing other German rights in relation to Shantung Province, so that Germany might find no pretext to refuse acquiescence in Japan's demands at the final peace conference and that she might not find possibilities to recover henceforth influence in China, thereby becoming again grave menace to peace of the Far East.

As a result of the negotiations that ensued, a treaty respecting the Province of Shantung accompanied by the

exchange of notes, was signed may 25, 1915. In that treaty, China engaged to recognise all matters that might be agreed upon between the Japanese Government and the German Government, respecting the disposition of all rights, interests and concessions which Germany possessed vis-à-vis China in relation to Shantung Province, (不明) exchange of notes Japan declared to China her willingness, in case she acquired rights of free disposal of Kiao-chou, to restore it to China on the following conditions :

1. Opening of the whole of Kiao-chou as commercial port ;
2. Establishment of a Japanese settlement in the locality to be designated by the Japanese Government ;
3. Establishment, if desired by the Powers, of an international settlement ;
4. Arrangement to be made before the return of the said territory, is effected between the Japanese and Chinese Governments, with respect to the disposal of the German public establishments and properties and with regard to the other conditions and procedures.

These terms explain themselves, but a few words on some of the points may be found useful. The Japanese settlement or concession, whose establishment is provided for under the condition 2, refers to the only part of the urban district to be set apart for the settling of Japanese as well as other nationalities, including Chinese, under a special system and jurisdiction, that are found in many of the principal ports or marts of China.

In reference to the words "the other conditions and procedures," found in condition 4, I may (脱) that they refer to those minor words(?) conditions and procedures to be determined, and (脱) observed in effecting the restitution of the leased territory: to China.

Early in the year 1917, Japan began, in conjunction with her Allied Powers, to direct her efforts in inducement

of China to sever relations with, and if possible to declare war against Germany.

China severed her diplomatic relations with Germany on the 14th March 1917, and finally on the 14th August of the same year, she declared war against the latter, that was no more than but two years after the signing of the aforementioned treaty between two countries had taken place.

Later, on the 24th September 1918, more than one year after the declaration of war by China and more than three years after the conclusion of the agreement on the subject May 23 1915, the Chinese Minister in Tokio exchanged with the Minister for Foreign Affairs of Japan a series of notes, the translation of which has already been presented to the Supreme Council. The notes provide, among other things, for the withdrawal of the Japanese civil administration, the management of the Tsingtau-Chinan railway as a joint Sinito-Japanese undertaking upon determination of its ownership, and the guarding and policing of the railway.

The Chinese Minister also solicited the aid of the Japanese Government in the matter of arranging for loans for building two railway lines connecting with the Tsingtau-Chinan railway and practically coinciding with the lines (不附) Germany.

To this, the Japanese Government assented to.

The preliminary contract covering (?) these loans was made between the Chinese Government and the Japanese bankers, and the Chinese Government actually received from the bankers advance of ¥20,000,000 according to the terms of the contract.

From the aforesaid facts which I have attempted to lay out as possible, it will be seen:

First that Japan has undertaken to restitute Kiaochow to China on conditions, none of which can be regarded

in any sense as unjust or unfair, considering the part, Japan took in dislodging Germany from Shantung Province.

Secondly, that the declaration of war by China against Germany could have no relation whatever to the validity of the treaty and the appended agreement which were concluded between Japan and China about two years prior to declaration of war, nor could it alter or affect in any wise the situation in connection with which the aforesaid treaty and agreement were made.

Thirdly, that the articles of September 1918 which were made more than one year after China's declaration of war could not have been entered into without presupposing existence and validity of the treaty of May 1915. Some of the provisions formally dealt with (附) subject matter or furthered aims set forth in the latter. In fact the arrangements of 1918 were intended to be and are supplement and sequel treaty of 1915. It is to be noted that China has actually received advance of twenty million yen according to the terms of the above arrangement. To these summaries and deductions, I may add that between Japan and China there is a well defined course laid out for effecting the restitutions. Any other course would be against the definite arrangement which has been agreed to between the two Governments concerned. What Japan now seeks is to obtain from Germany the right of free disposal of the leased territory and Germany's rights, privileges and concessions in all Shantung Province for carrying out the provisions of the treaty of 1915 as well as the arrangements of 1918.

It is claimed that the declaration of war abrogates *ipso facto* treaties of lease of territory. Such a claim can not be regarded as warranted by the established rules of international law. From the very nature of the lease convention, which provides for the exercise by Germany of rights of sovereignty within territory, the lease of Kiaochow may be regarded as a cession pure and simple with exception of the time limit of 99 years. And it is a commonly accepted

principle that a declaration of war does not abrogate a treaty of cession or other territorial arrangement.

I feel firmly convinced that full justice will be done to the claims of Japan based upon her sacrifices and achievements and upon the fact of actual occupation, involving the sense of national honour.

I now beg to submit to you a draft containing clauses to be embodied in the preliminary Peace Treaty with Germany.

右譯文

去ル一月余ハ日本ノ參戰事情並ニ本件要求ニ關聯セル地方ニ於ケル實情ニ鑑ミ正當且公平ナリト認ムル日本ノ要求ヲ最高會議ニ提出シ之ニ關シ説明ヲ試ミル處アリタリ余ハ今回ノ機會ヲ利用シ膠州灣租借地並ニ山東ニ於ケル獨逸ノ權利ニ關スル我方ノ要求ヲ一層詳細ニ説明セントス

日本政府カ一九一四年八月十五日獨逸ニ最後通牒ヲ送り追テ日本ヨリ支那ニ還附ノ積リナル右地域ヲ無條件ニ日本ニ引渡サレムコトヲ求メタルコトハ尙ホ一般ノ記憶ニ存スル處ナリ

獨逸ハ一定期間内ニ回答ヲ與ヘス依テ日本ハ遂ニ武力ニ訴フルノ止ムヲ得サルニ至レリ日本ハ此等ノ措置ヲ執ルニ當リ常ニ英國ト協議シ協調ヲ保持シテ行動シタル次第ナリ

膠州ニ於ケル獨逸根據地ハ一九一四年十一月七日略取セラレ山東鐵道ト共ニ今日ニ至ル迄日本ノ占領スル處タリ

日本ハ戰爭結局ノ終熄ヲ見越シ一九一五年一月支那ニ對シ膠州灣租借地還附並ニ山東省ニ關スル獨逸ノ他ノ權利處分ノ基礎ニ關シ豫メ協定ヲ遂ケ置カムカ爲メ支那ニ交渉スル處アリタリ之畢竟獨逸ニ對シ最終平和會議ニ於テ日本ノ要求ニ應スルコトヲ拒絶スルノ口實ヲ與ヘス且獨逸ヲシテ今後更ニ勢力ヲ恢復シ極東平和ヲ侵迫スルカ如キコトナカラシメムカ爲メ外ナラス

其ノ後引續キ行ハレタル商議ノ結果一九一五年五月二十五日山東省ニ關スル條約並ニ之ニ附屬ノ交換公文調印セラレタリ

本條約ニ於テ支那ハ山東省ニ關シ獨逸カ支那ニ對シテ有セシ一切ノ權利利益及ヒ讓與ノ處分ニ關シ日獨政府間ニ協定セラレヘキ一切ノ事項ヲ認ムヘキヲ承認シ日本ハ交換公文ニ於テ獨逸ヨリ膠州灣自由處分權ヲ獲得シタル場合ニハ左記條件ノ下ニ之ヲ支那ニ還附スヘキコトヲ聲明シタリ

一、膠州灣全部ヲ商港トシテ開放スルコト

二、日本政府ノ指定スヘキ地域ニ日本居留地ヲ設クルコト

三、列國ノ希望トアラハ國際居留地ヲ設クルコト

四、右地域ノ還附ニ先テ獨逸公共營造物及ヒ財産並ニ他ノ條件及ヒ手續ニ關シ日支政府間ニ協定ヲ遂ケルコト

此等ハ凡テ自明ノ條件ナルカ或ル點ニ關シ茲ニ一言スルモ敢テ無用ノ業ニ非ルヘシ、右條件第二ニ規定スル日本居留地設置ノ義ハ支那多クノ重要開港又ハ開市場ニ見ラル、カ如キ特別ノ組織及法權ノ下ニ日本人並ニ他國民(支那人モ含ム)居住ノ爲メ特ニ區劃セララルヘキ市區ノ一部分ノミニ關スルコトナリ

條件第四ノ「他ノ條件及ヒ手續」ナル語ハ租借地ヲ支那ニ還附スルニ際シ決定進行セラレ、キ些細ノ條件及手續ヲ指ス

一九一七年ノ初葉日本ハ其ノ同盟國ト共ニ支那ヲシテ獨逸トノ外交關係ヲ斷タシメ出來得ヘクンハ之ニ對シ宣戰セシムルタメ德意方盡力スル處アリ遂ニ支那ハ一九一七年三月十四日獨逸ト外交關係ヲ斷テ同年八月十四日獨逸ニ對シ宣戰スルニ至レリ右ハ前記條約カ兩國間ニ締結セラレテ後二箇年ノコトナリ

其ノ後一九一八年九月二十四日即チ支那宣戰後一ケ年以上一九一五年五月二十五日本件條約締結後三ケ年以上ヲ經タルトキ在東京支那公使ハ日本外務大臣ト幾多ノ公文ヲ交換セリ右公文ノ翻譯ハ既ニ最高會議ニ提出セラレタリ、右公文ハ特ニ日本民政ノ撤廢膠濟鐵道ハ其所有者決定ノ上ハ日支合辦事業トシテ經營スルコト並ニ鐵道ノ守備及警察ノ事項ヲ規定シタリ

支那公使ハ又膠濟鐵道ニ連結スルニ鐵道線(電文不明ノ箇所アリ)ノ建設ニ關スル借款調達ノ件ニ關シ日本政府ノ援助ヲ求

メタルニ付日本政府ハ之ニ應シ其ノ結果支那政府ト日本銀行家間ニ此等借款ニ關スル豫備契約締結セラレ支那政府ハ契約ノ條項ニ從ヒ銀行家ヨリ既ニ二千萬圓ノ前渡ヲ受ケタリ

余ハ出來得ル限り明瞭ニ事態ノ説明ヲ爲サンカ爲メ前顯ノ事實ヲ述ヘタル次第ナルカ之レニ依ルニ

第一、日本カ或ル條件ノ下ニ膠州灣ヲ支那ニ還附スルコトヲ約セルコト右條件ハ何レモ日本カ山東省ヨリ獨逸ヲ驅逐スル爲盡シタル功績ニ鑑ミ何等不正或ハ不公平ト認メラル、モノナキコト

第二、支那ノ對獨宣戰ハ右宣戰ヨリ約二ヶ年前ニ日支間ニ締結セル條約其ノ附屬協定ノ效力ニ何等關係アルヘキ筈ナク且右宣戰ハ何等前記條約及協定締結ニ關聯シタル形勢ヲ動カシ且之ヲ變更シ得ルモノニアラサルコト

第三、支那宣戰後一ヶ年以上ヲ經過シタル後締結セラレタル一九一八年九月ノ協定ハ到底一九一五年五月ノ條約ノ存在及其效力認知ノ上ナラテハ締結セラレ得ヘキモノニ非ス現ニ一九一五年ノ條約規定ノ或ル仁項ハ後者規定ノ協定題目トナレルモノナリ即チ一九一八年ノ協定ハ一九一五條約ノ増補トシ其ノ續約タラシメムトノ積ニテ締結：ラレ實際前者ハ後者ノ増補續約タル次第ナリ且支那ハ現ニ上記協定條項ニ從ヒ二千萬圓ノ前渡金ヲ受ケ居レルコトハ特ニ留意スヘキ點ナリ

余ハ更ニ日支間ニ還附實行ニ關シ篤ト劃定セル方針ノアルコトヲ附言セントス、右方針以外ノ方策ハ兩國間ニ協定濟ナル確定的ナル協約ニ反スルモノナリ

日本ノ要求ハ一九一五年ノ條約及一九一八年ノ協定ノ條項實行上租借地及山東省ニ於ケル獨逸ノ權利特權及讓與ヲ獨逸ヨリ得ムトスルニアルコト明ナリ

宣戰ノ結果土地租借ニ關スル條約ハ直ニ消滅スルモノナリト主張スルモノアル處斯ル主張ハ國際法上確立セル法規ノ認容スル處ニ非ス租借地内ニ於テハ獨逸ノ主權ノ行使ヲ許シ居ル租借條約ノ性質ニ鑑ミ膠州灣ノ租借ハ九十九年ト云フ時ノ制限アルコトヲ除カハ純然タル割讓ト認メ得ヘシ而シテ宣戰ハ土地割讓條約或ハ其他ノ領土上ノ協定ヲ廢止スルモノナラサルコトハ一般ニ認ムル處ナリ

余ハ日本ノ拂ヒシ犠牲性及從來ノ功績並現在占領ノ事實ニ基キ國民ノ名譽ニ關聯セル日本ノ要求ニ對シテハ充分ナル満足ヲ與ヘララルルコト確信ス

余ハ茲ニ對獨豫備條約中ニ入レラルヘキ條項草案ヲ提出セムトス

B 號 我國提出、山東ノ處分ニ關シ對獨豫備條約中ニ挿入スヘキ條約案

Special conditions relative to Shantung Province.

ARTICLE I.

Germany renounces, in favour of Japan, all the rights, titles, or privileges——particularly those concerning the territory of Kiao-chow, railways, mines and submarine cables——which she acquired, in virtue of the treaty, concluded by her with China, of the March 6, 1898 and of all their arrangements relative to Shantung Province.

Tsingtau-Chinan Railway, including its branch lines, together with its accessories of all kinds, apparatuses, shops, fixed materials and rolling-stocks, mines, establishments and materials for exploitation of the mines, are, and shall remain, acquired by Japan, together, with the rights and privileges appertaining thereto.

The submarine cables of the State of Germany, from Tsingtau to Shanghai and from Tsingtau to Chefoo, with all the rights, privileges and properties appertaining thereto, shall equally remain acquired by Japan.

ARTICLE II.

The rights of movable and immovable properties possessed by the State of Germany, in the territory of Kiao-chow, as well as all the rights which she is entitled to claim concerning the works of any equipment set up, of the

especially (不明), or of the contracts concluded by her, either directly or indirectly, and concerning the territory (島), are, and shall remain, acquired by Japan.

右譯文

山東省ニ關スル特別條件

第一條 獨逸ハ山東省ニ關シ一八九八年三月六日支那ト締結セル條約並ニ其ノ他一切ノ協定ニ依リテ支那ヨリ獲得セル一切ノ權利權原若ハ特權(特ニ膠州灣、鐵道、鑛山及海底電線ニ關スルモノ)ヲ日本ノ爲メ拋棄ス
膠濟鐵道及其ノ支線ハ總テノ附屬物機械工場固定材料及運轉材料鑛山開發ニ關スル營造物並材料ハ之ニ關スル權利及特權ト共ニ日本ニ歸屬スヘキモノトス

上海青島間及青島芝罘間ニ於ケル獨逸國所有ノ海底電線ハ之ニ屬スル一切ノ權利特權及所有權ト共ニ等シク日本ニ歸屬スヘキモノトス

第二條 膠州ニ於ケル獨逸國有ノ動産及不動産ニ關スル權利ハ獨逸カ設備ヲ爲セル事業ニ關聯シ特ニ(不明)若クハ其ノ締結セル契約ニヨリテ直接間接ニ領土ニ關シ(脱)要求シ得ヘキ一切ノ權利ト共ニ日本ニ歸屬スヘキモノトス

(五) 四月二十二日米國大統領及英佛首相ノ支那委員引見

(四月二十三日巴里發電)

前記ノ如キ事情ニヨリ四月二十二日ノ首相會議ハ午後支那委員ヲ招請シ其ノ陳述ヲ聽ク所アリ其ノ内容ニ就テハ未タ之ヲ知ルニ由ナシ然ルニ其夜山東問題ハ一應他ノ領土問題ト同様聯合國全體ノ爲ニ獨逸ヲシテ放棄セシムルコトトシ其最終決定ハ後ニ協議決定スルコトニ同會議ニ於テ決定セル旨ノ風説外國新聞記者間ニ傳ハラレタルヲ以テ念ノ爲メ首相會議英國書記官「ハンケー」ニ確メタルニ同人ハ最後迄列席シ居リタルカ右様ノ決議ハ斷シテ聞カスト確言セリ尙各方面ヲ要

タルニ右ハ英國新聞係カ誤聞ノ結果輕卒ニ新聞者ニ漏シタル爲メ訛傳セルモノナルコト明白トナレリ

(六) 四月二十六日午前ノ牧野珍田兩委員ト「バルフォア」トノ會見

(四月二十八日巴里發電ニ依ル)

○「バルフォア」氏ヨリ我全權ニ會見ヲ求メタルニ付二十六日午前牧野珍田兩全權ハ同氏ヲ其ノ旅館ニ訪問シタル處頗ル打解ケタル態度ニテ山東問題ニ就キ懇談ヲナシ中途ヨリ極東部長「マツクレイ」モ來合セ一時間半ニ互リ會談シタルカ其要領左ノ如シ

○「バルフォア」氏ハ山東問題ニ就テハ同僚モ頗ル苦心シ總テヲ満足セシムル様ノ方法ヲ講シツ、アルカ(脱)本件ニ付キ英佛米ノ談合ノ結果何等カ妥協ノ途ヲ我全權トノ熟談ニ依リ見出サムトスルヤニ見受ケラレタルヲ以テ牧野全權ハ大體二十一日首相會議ニ於テ述ベタルト同様ノ趣旨ニテ本件ニ就テハ日支ノ間ニ千九百十五年ノ條約ヲ締結シ更ニ支那ノ宣戰後一年即千九百十八年前記條約ノ補足トシテ取極メ公文ヲ交換シ一切ノ點明瞭ニ規定セラレ居リ今ヤ只此ノ條約取極ニ依リ既定ノ權利義務ヲ履行セムトスルニ止マリ何等ノ疑義モ故障モナキ事件ナリ而シテ右ノ條約ハ公布セラレ日本國民ハ此等ノ既定ノ手續方法ニ依リテ本件カ決定セラルヘキコトヲ確信期待セリ此故ニ日本ハ其ノ要求通り本件ノ解決ヲ得ルハ必然ナリト信シ飽迄之ヲ主張スルモノナルコトヲ強硬ニ言明シタルニ「バルフォア」ハ「其點ハ好ク了解セリ即チ膠州租借權其ノ他ノ獨逸ノ權利ヲ日支條約通り日本ニ取得スヘク之ニ反シテ支那ニ直接還附スルコトハ日本國民ノ名譽ト威嚴ヲ損スル重大問題ナリト言フニ歸著セシヤ」ト尋ネタルヲ以テ我全權ハ然リト答ヘタリ

○「バルフォア」ハ尙『山東問題ニ就テハ首相會議ニ於テ獨逸ノ他ノ海外領土同様聯合國全體ニ包括移轉ノ論アリシモ自分ハ山東問題ハ南洋諸島トハ全然異リ日支間ノ條約モアリ處分ヲ異ニスト説キタル處別ニ反對モ無カリシカ自分ハ大體之

ニ同意セルモノト感シタリ』ト語レリ依テ我全權ハ兩者ヲ混合シテ同一ノ基礎ノ上ニ論スルハ誤レルコトヲ指摘シ山東問題ニ關スル限り日支間ノ條約及取極ノ一項ヲモ變更スルヲ許サスト斷言シタルニ

○「バルフォア」氏ハ之レヲ首肯シ話頭ヲ轉シ日本カ獨逸ノ山東省ニ於テ有スル權利特權ヲ一切讓受ケルト云ハルルモ日本カ支那ト協定シテ得タル權利ハ獨逸ノ有セシ權利以上ノモノヲ合マサト尋ネタルヲ以テ我全權ハ否ト答ヘ其レハ如何ナル權利ヲ指スニヤト反問シタルニ例ヘハ山東鐵道守備ノ如シトテ一九一八年ノ日支取極ニ於ケル青島濟南日本軍集中ノ條項ヲ指摘シタルヲ以テ之レ我鐵道占領軍ヲ沿線ヨリ引揚ケルコトヲ意味スルモノニシテ何等永久軍隊駐屯ヲ意味スルモノニ非ス講和成立租借地還附後ニハ云フ迄モナク引揚ケラルルモノナリト説明シタルニ然ラハ右ノ駐屯軍ニ關スル取極ハ單ニ過渡的取極 (transitional measure) ト解スヘキヤト尋ネタルヲ以テ我全權ハ然リト斷言セリ

○「バルフォア」氏ハ實ハ是等ノ點ニ付我同僚ニ於テモ十分了解セサリシ爲メ不安ノ念ヲ抱キ居リタル次第ナリ支那ノ恐ルル點モ斯ル點ニ在リシナリトテ大ニ安心ノ體ニ見ヘタリ蓋シ右取極中ニ膠濟鐵道合辦ノ如キ永久の規定ト共ニ沿線撤兵及民政撤廢支那人使用ノ如キ臨時過渡的規定アリ殊ニ鐵道守備軍ヲ青島濟南ニ集中(「コンセントレート」)スルコト、規定シアル爲メ之ヲ永久の軍隊駐屯ト誤解シ支那ハ固ヨリ英米側ニ於テモ大ニ不安ノ念ヲ抱キシモノト思ハル「マツクレイ」モ同様ニ我説明ヲ聞キ大ニ疑問水解セル旨ヲ語レリ

○「バルフォア」氏ハ其レヨリ租借地周圍五十基米地帯ノ權利モ亦日本カ依然保有スルノ積リナリヤト尋ネタルニ付右地帯ハ獨逸カ租借地ヲ保有シ軍事根據地トナセシヨリ必要ナリシ附帶ノ權利ナルモ日本ハ一部ノ專管居留地ヲ除ク外租借地ヲ支那ニ還附スルコトハ支那ノ主權ヲ此等ノ地方ニ確然ニ回復セシムルコトナルヲ以テ何等斯ル特權地帯ヲ設定スルノ必要ナシ大體日本ハ獨逸ヲシテ山東ニ關スル一切ノ權利ヲ拋棄 (renounce) セシムルモ自ラ其地位ヲ繼承(「サブスチチュート」)セントスルモノニアラス山東省ヲ支配(「ドミネート」)セムトスルモノニアラサルハ日支條約取極ヲ見レハ明白

ナリ租借地ヲ還附シ山東鐵道ヲ合辦トスルカ如キ皆獨逸ノ地位ト異ナルニアラスヤト説明シタリ

○「バルフォア」氏ハ更ニ合辦ノ性質ニ付質問シ「マツクレイ」ハ順德濟南及高密徐州線ニ關スル日支取極借款條件ニ付質問シ「バルフォア」ノ如キ右兩線ノ借款スヲ獨逸ノ既得權以外ノモノト誤解セル程ナリシカ我全權ハ右ハ獨逸ノ既得權ニモ同様ノモノアリ日支間ニハ之レヲ支那鐵道トシテ建設シ日本ヨリ借款スルコトニ約定成立シ既ニ前渡金トシテ二千萬圓ヲ交付シ日本資本家ハ右取極ニ基キ既ニ北京政府ト之レカ詳細取極交渉ヲ開始セルヲ以テ右借款ノ詳細條件ニ付テハ此ノ交渉ノ結果ヲ待タサル可ラス其以前ニ我等全權ノ間ニ於テ討議スル要ナシ尤モ獨支間ニハ右ニ關スル詳細ナル借款條件ヲモ協定セルヲ以テ其權利ハ此際獨逸ヲシテ日本ノ爲ニ放棄セシムルノ要アリト説明シタリ

○「マツクレイ」ハ進ンテ山東鐵道ノ所有權ハ日支何レノ國ニ屬スヘキヤ滬寧鐵道ノ如キハ支那ノ所有ニ屬スル鐵道ニシテ英國ハ之ニ出資シ技師監督者等ヲ出シ居ルニ山東鐵道ハ如何ト質問セルヲ以テ右ハ日支各資本モ經營モ協同ニスルモノニシテ純然タル「コーオペレーション」ナリ他ノ支那鐵道ニ對スル外國ノ借款トハ異レリトテ採木公司等合辦ノ例ヲ擧ケ尙鐵道其物ト其敷設セラルル土地トハ別ノ性質ヲ有スヘク土地其物ノ所有權ハ支那政府ニアリ鐵道其物ノ所有權ニ至リテハ今茲ニ明言スルヲ得スト雖モ夫ハ純然タル「ビジネス」ノ問題ニシテ出資ノ多キモノカ多クノ「ゾオイス」ヲ有スヘシト答ヘ置キタリ

○更ニ「バルフォア」氏ハ日支取極中鐵(脫)ヲ置クノ問題ナリ戰前獨逸モ警察顧問ヲ出セリト説明シタリ

○「マツクレイ」ハ轉シテ支那側ニ於テハ日本カ青島ノ港灣設置埠頭倉庫等ヲ悉ク其手ニ收メ青島市全部ヲ專管居留地トナスモノナリト考ヘ居レリトテ逐一質問セルヲ以テ我全權ハ列國ニ於テ必要ト認ムレハ我專管居留地ノ外ニ共同居留地ヲ設クルコトヲ規定セルニ見ルモ市街港灣全部ヲ日本ノ手ニ收ムルモノニアラサルコトハ明ナルヘシ即チ其地區ハ今茲ニ明確ニ言明シ難キモ其一部ヲ以テ之ニ充ツルモノナルヲ確言シ得ヘシト答ヘタルニ然ラハ此際專管居留地ヲ設クルコト

ナク凡テ共同居留地トセハ如何ト尋ネタルニ付專管居留地ヲ設クルコトハ條約取極上明定セル處ニシテ日本ハ條約明文ハ一字ト雖モ變更スルコトヲ許サスト斷言セリ

○其間「バルフォア」ハ此會談ノ要點ヲ自ら箇條書體ニ書キ誌シツ、アリシカ語ヲ更メテ

今日ノ會談ハ頗ル有益ナルモノニシテ日本全權ノ口ヨリ親シク種々ナル疑點ノ説明ヲ明白ニ聞クヲ得テ大ニ諒解シタリ
同僚モ實ハ暗キコトニ付十分諒解シ居ラサル點モアリシニ付自分ヨリ詳細説明スル積リナリ
ト云ヒ「バルフォア」ハ

第一、日本ハ獨逸ノ一切ノ權利ヲ讓受クルコトヲ飽迄主張スルコト

第二、日本ハ日支間ノ條約取極ハ一點モ變更ヲ許サ、ルコト

第三、日本ハ支那ノ主權ヲ尊重スルモノニシテ租借地ヲ還附シ結局日本ノ取得スルモノハ軍事的權利ニアラスシテ經濟的ノモノニ止マリ主トシテ鐵道鑛山權而カモ既設ノ鐵道ニ付テハ純然タル「コーラベレーション」未設ノモノニ付テハ借款權其他專管居留地等ナリト了解シテ差支ナキヤ
ト尋ネタルヲ以テ我全權ハ其通りナリト答ヘタリ

○要スルニ少クトモ英國側ハ日支條約及取極ノ條項ノ解釋ニ付多大ノ疑ヲ懷キ居リ支那通ノ「マツクレ」スラ誤解セル程ニテ思フニ支那側カ故意カ無意カ日支條約取極ヲ誇大ニ解釋シ英米側ヲシテ日本ノ野心ヲ疑ハシメムト企テタル結果ニヤ大ニ疑問ヲ懷キシ處此會見ニ依リテ日本ニ對スル疑念黑白トモ誤解ノ氷釋セル旨ヲ語レリ

○我全權ニ於テモ此點ヲ看取シタルヲ以テ努メテ專管居留地鐵道權ニ關シ具體的ニ説明シ從テ專管居留地及鐵道合辦ノ性質ニ付御訓電ノ通り漠然今後ノ日支協約ニ依ツテ決スヘシトノミ答ヘ得サリシ事情ハ充分諒察ヲ請フ然シ之カ爲メ列國ニ安心ヲ與ヘ支那側カ懸ユル如ク日本ノ要求カ何等軍事的政治的支配ノ野心ニ出ツルモノニアラサルコトヲ諒解セシ

メ好印象ヲ與ヘタリト思考ス

(七) 四月二十六日夜ノ珍田委員ト「ランシング」ノ會見

(四月二十八日巴里發電ニ依ル)

○膠州灣問題ニ關シテハ米國々務卿「ランシング」ハ頗ル重要ノ地位ヲ占メ或ハ支那支持ノ言動ナキニアラスヤト疑フヘキ節ナキニアラサルヲ以テ該問題ノ提議以來我委員等ハ累次同氏ニ接近ヲ試ミタルモ氏ハ其都度極メテ冷淡ナル態度ヲ以テ我ヲ迎ヘ本問題ハ相當ノ時期ニ於テ相當ノ方法ヲ以テ解決セラルヘキヲ信ストイフカ如キ不得要領ノ言ヲ以テ其意見ヲ韜晦シ更ニ協商ノ誠意ヲ示シタルコトナク最近ニ至リ外相會議ニ於テ獨逸植民地ヲ一括シテ聯合國ニ讓渡セシメントスル提案計議ノ際同氏ハ膠州灣問題ヲモ一併右規定中ニ包含セシメントヲ提議シタル等愈々支那支持ノ鋒銳ヲ顯ハスニ至リタル處四月二十六日突然珍田委員ニ對シ會見ヲ申込來リタルヲ以テ珍田委員ハ同夜九時往訪シタルニ同氏ハ支那通「ウヰリアム」氏ト共ニ應接シ會談長時ニ互リタルカ其光景ヲ摘録スレハ左ノ如シ

○「ランシング」ハ先ツ膠州灣問題ニ關シテ大統領ノ考慮ニ資センカ爲淡泊真情ニ雙方ノ意見ヲ交換シタキ旨ヲ述ヘ彼一流ノ露骨無遠慮ナル語調ヲ以テ斷絶的ニ說述シタル所ヲ綜合スレハ

(一) 山東省ニ於ケル獨逸ノ勢力及利權ハ畢竟暴力ノ上ニ扶植シタルモノナルヲ以テ今次世界平和ノ基礎タルヘキ十四點ノ根本義ニ照シ全然之ヲ掃蕩セサルヘカラス

(二) 日本ノ要求ハ山東省ニ於テ獨逸カ有シタル一切ノ權利特權等ヲ舉テ之カ讓渡ヲ受ケントスルニ歸着スルカ故ニ讓渡後ノ處分如何ニ依リテハ(一)ノ趣旨ニ悖ルノ結果トナル虞アルコト(脱)

(三) 日支條約中膠州灣租借地ヲ支那ニ還附スヘキコトヲ規定シアリト雖講和條約ニ之ヲ明記セサル以上ハ聯合國ノ關

スル限リ右還附ニ關シ何等率由スヘキ根據ヲ有セサルコト

(四) 日支條約ニ率由スルト假定スルモ還附實行ノ期限方法ニ付テハ條約中何等確的ノ規定ナン從テ實行遷延多年ニ互リ又新ニ過重ノ代償ヲ要求シ得ヘキ餘地アル等ノ事情ニ依リ自然不安ノ觀念ヲ懷カシムルノ恨アルコト

○珍田委員ハ大要左記ノ通り答ヘタリ

- (一) 山東省ニ扶植セラレタル獨逸勢力ノ解除ハ日本官戰ノ趣旨ニ照スモ彼我意見ノ一致スル所ナリ
- (二) 獨逸ヲシテ一切ノ權利ヲ擧ケテ拋棄セシムルノ要求ハ固ヨリ當然ノ主張ニシテ之レ以下ニ下ルノ要求ハ獨逸勢力ノ一部有續ヲ認ムルノ不都合ヲ生スルニ至ルヘシ而シテ日本ニ於テ獨逸權利ノ讓渡ヲ受クルコト、日本カ自ラ之ヲ繼承行使スルコト、ハ別箇問題ニ屬シ讓渡サレタル權利ノ主要部分ヲ支那ニ還附スヘキハ日支間條約取極ニ於テ既ニ規定スル所ナリ右ノ外假令條約ニ明記無キモ一律還附セラルヘキモノアリ租借地外五十基米ノ中立地帯ニ對スル獨逸ノ權利ノ如キ其一例ニシテ其租借地ト一併還附セラルヘキハ言ヲ俟タス又鐵道ニ對スル權利ノ如ク日本カ當然自ラ繼承スヘキモノニ關シテハ日本カ支那人ノ權利福祉ヲ重ニスル趣旨ヨリ彼我合辦ノ制ニ依ルヘキコト兩國取極ニ規定シタル所ニシテ權利ノ行使ハ精神ニ於テモ獨逸ノ當年ノ橫暴トハ全然其選ヲ異ニスルハ言ヲ俟タサル所ナリ
- (三) 講和條約ハ單純ニ對獨關係ヲ規定スヘキモノナルニ鑑ミ條約中ニ還附ヲ公約スルカ如キハ甚タ非理ナルノミナラス獨逸ヲシテ一種ノ條件ヲ附加セシムルノ形式トナリ條件附ノ讓渡ハ帝國政府ノ到底同意スルコト能ハサル所ナリ
- (四) 還附實行ノ期限ハ自然附帶條件ノ履行ト共ニ消長スヘキ問題ニシテ豫メ確定スルコト能ハスト雖モ右必要期間以外ニ遲延セラルヘキモノニアラス又附帶條件ニ關シテハ兩國ノ取極メ明瞭讀ンテ字ノ如シ其末段ニ所謂條件トハ官物ノ授受ニ伴フ必要ノ手續ニ關スルモノニ外ナラス右様ノ事實ナルニ拘ラス實行遲延又ハ新要求ノ追加ヲ云爲スルカ如キハ猜疑モ甚クシク結局帝國ノ信用ニ對スル不信ノ詮議タルヲ免レズ貴提案ニハ飽迄反對セサルヲ得ス

(五) 日支條約ノ可否又ハ效力有無ノ論議ニ關シテハ帝國政府ハ斷シテ他國ノ容喙ヲ容認スルモノニアラス抑々聯合列國カ自主對等ノ國家トシテ此處ニ會合シタルハ専ラ敵國ニ對スル講和條件ヲ議定セントスルノ目的ニ外ナラス此際狼リニ友邦間ノ條約ヲ審判セントスルカ如キハ平和會議ノ趣旨ニ背反セル企圖ニシテ帝國代表者ノ極力排斥セサルヲ得サル所ナリ

○右ノ外珍田委員ハ四月二十二日首相會議ニ於ケル(前掲甲號)牧野委員陳述ノ趣旨ヲ逐ヒ我對支方針ノ友好ナル事情ヲ說明スルト同時ニ内話トシテ支那代表者ノ執リ來リタル態度ニ言及シ其一意日本ノ讒譴排擠ニ腐心セル事實ヲ詳説シ要スルニ本案件ハ我威嚴榮辱ニ關スル重大問題トナリタル事由ヲ辯明シ此問題ニ對シ満足ナル解決ヲ含マサル講和條約ニハ日本委員等ニ於テ調印スルコト能ハサル旨ヲ聲明シ置キタリ

○「ウヰリアム」氏ノ支那負擔タルコトハ周知ノ事實ナル處支那問題ニ關シテハ大統領及國務卿ハ専ラ氏ノ進言ニ依賴シ居ル實況ニシテ現ニ此日ノ會談中國務卿ハ「ウヰリアム」氏ヲ指シテ支那問題ノ師傳(Mentor)ナリト推獎シタルニ依リテモ此間ノ消息ヲ窺フニ足ル可シ珍田委員カ特ニ支那委員ノ惡辣手段ヲ縷述シタルハ一ニハ「ウヰリアム」進言ノ效果ヲ減少セムトスルノ底意ニ出テタル次第ニシテ前記在米大使電報ノ如キハ國務卿ニ對シ尠カラス印象ヲ與ヘタルヤニ看取セラレタリ別レニ臨ミ「ランシング」氏ハ本夜ノ腹藏ナキ意見ノ交換ニ依リ尠カラス裨益ヲ得タリトテ速カニ大統領ニ具報スヘキ旨ヲ語レリ

○珍田委員カ右會談ニ於テ最モ痛切ニ感シタルハ國務卿カ全然我方ノ豫想ニ反シ條約消滅論ノ如キ法理論ニ言及セサルコト、獨逸ノ權利讓渡ニ對スル日本ノ意圖ニ關シ殆ト常識ヲ逸シタル(脫)抱懷シ居ルノ二點ナリ

(八) 四月二十九日ノ首相會議

(五月三月本省着電)

○前記四月二十六日午前ノ牧野珍田兩委員ト「バルフォア」トノ會見ノ結果「マツクレ」ハ右會見ノ要領ヲ覺書ニ作成シ持參シ牧野珍田兩全權ニ示シタルヲ以テ前電報告(前掲)四月二十六日午前ノ牧野珍田兩委員ト「バルフォア」トノ會見四月二十八日巴里發電參照)ト異ル點ニ付訂正シ急キ持歸リ「バルフォア」ニ示シタル處多少修正ノ點アリトテ其儘トナリ右覺書ノ寫モ我方ニ送り來ラサリシカ「バルフォア」ハ二十八日英佛米三首相ニ右會見ノ結果ヲ語リタルモノト見エ四月二十九日午前十一時「ウヰルソン」宿舎ニテ再ヒ首相會議ヲ開クコトトナレリ然ルニ「ウヰルソン」ヨリ右會議一時間前ニ我全權ニ會見ヲ求メ來リタルヲ以テ牧野珍田兩全權大統領ニ會見シタル處大統領ハ頗ル打解ケタル態度ニテ「山東問題」ニ付日本ハ膠州灣租借地ニ於ケル獨逸ノ租借權其他ヲ支那ニ還附シ只居留地ヲ留保スルノ租借地以外ニ於テ經濟的特權ヲ取得スルモノト了解シテ可ナリヤ』ト尋ネタルヲ以テ大體其通りナリト答ヘタルニ

大統領ハ然ラハ青島及濟南ニ日本軍ヲ置クコト及支那警察ニ日本ノ顧問ヲ置クコトヲ強制スル權ヲ取得セルハ如何ト突込ミ來リシヲ以テ

我全權ハ右日本軍駐屯ノ問題ハ戰時占領ニ基ク權利ニシテ講和成立租借地還附ノ上ハ兵ヲ撤退スルコト事ノ性質上言フ俟タサル處ナリ右ハ一時的過渡の規定ナリト言明シタルニ

大統領ハ警察問題ニ至リテハ租借地外ニ於テ獨逸カ支那ヨリ得居リタル權利以外ノ權利ニシテ經濟的ノ權利ニモアラスト思考ス且右ハ支那ノ主權ヲ害ストノ趣旨ニテ強硬ニ反對シ所謂二十一條要求ニ基ク日支條約ハ之ヲ認メサル趣旨ヲモ仄メカシタルヲ以テ

我全權ハ右警察教官ノ問題ハ何等支那ノ主權ヲ害スルモノニアラス單ニ支那警察訓練補助ニ止マリ鐵道ノ安全ヲ保護スル爲ニハ鐵道ノ關係上教官又ハ顧問ヲ支那鐵道警察ニ入レ置ク必要アルコトヲ極力辯明シタルニ

大統領ハ鐵道ニ付テハ日支共同ノ「コントロール」(管理)トナルヘキ筈ノ處警察ニ付テモ日本ノ政府ニ一種ノ管理權ヲ與フルモノナリ是實ニ支那ノ主權侵害ナリト論シタルヲ以テ

我全權ハ支那ニ於テハ中央政府ニスラ顧問ヲ入ル、コトハ他ニモ幾多ノ例アリ未タ之カ爲ニ主權侵害ノ非難アリシヲ聞カスト駁シタルニ

大統領ハ更ニ顧問教官ト稱スルモ近年獨逸カ土耳其軍港内ニ到處獨逸教官ヲ入レ實權ヲ握リ土耳其ヲ其意ノ如ク爲セシト同様ナル印象ヲ世界ニ與フルハ必然ナリトハ米國ノ輿論ニ鑑ミ默スルヲ得スト主張シ

○警察問題ニ其ノ討論未タ盡サ、ル折英首相及外相佛首相來會シ「ウヰルソン」ヨリ上記大統領ト我全權ト會談ノ要點ヲ說明シ愈首相會議トナリシ處

大統領ハ尙警察問題ニ強硬ニ反對セシヲ以テ

我全權ハ獨逸カ鐵道警察ニ關スル權限ハ治外法權ノ結果トシテ鐵道及獨逸人ニ對シテ支那ハ警察權ヲ及ホスヲ得ス即チ鐵道其ノ物ハ獨逸ノ鐵道ニシテ支那ノ支配權外ニ存スルコトニアリト説明シタルニ

「バルフォア」及「ウヰルソン」ハ我主張ハ獨逸カ支那ヨリ鐵道ノ讓與(コンセツション)ト同時ニ鐵道地帯ニ治外法權ヲ取得セリ從テ警察權ハ其ノ内ニ含ムト誤解セルニヤ兩氏ハ盛ニ鐵道上ニ治外法權ナキコトヲ主張シテ止マス

依テ我全權ハ實際上獨逸ノ鐵道會社及獨逸人其ノモノニハ治外法權ノ結果トシテ支那ハ何等ノ權力ヲ及ホスヲ得ス從テ鐵道警察ニ付テモ之ヲ支那ニ任カスルモ事實上痛痒ヲ感セス進ンテ支那人ヲ警察官トシテ任用シ重要ナル獨逸官吏ノ教官トシテヨリハ寧ロ忠告者トシテ支那警察内ニ入レ警察ノ實權ハ事實上其ノ掌中ニ在リタルナリ然ルニ日本ハ單ニ「イノセントラクター」(教官)トシテ之ヲ支那鐵道警察内ニ入ル、モノニシテ獨逸ノ行使セシヨリ少ナキ權利ヲ要求スルニ過キスト辯シタルニ其ノ誤解漸ク解タルモノ、如ク

大統領ハ轉シテ日本カスル警察ニ關スル權利ヲ要求スルコトハ意トセサルモ其ノ反對スルハ斯ル日本人ヲ警察内ニ入ル、

權利ヲ日本政府カ支那ニ強要スル (Impose) 點ニアリ獨逸カ事實上如何ナル權利ヲ有セシヤヲ問フニアラス日本カ繼承セムトスル警察ニ關スル權利ハ支獨間ノ如何ナル條約取極ニ基クヤト云フ點ニアリト述ヘ

「バルフォア」モ亦二十六日ノ會見ニ言及シテ獨逸ノ警察權ナルモノカ支獨合辦ノ鐵道ナルコトヨリ當然發生ストハ信セスト述ヘ

我全權ハ獨逸カ事實上享有セシ權利ニ基クモノニシテ日支間ニ協定シ支那カ任意ニ與ヘタルモノナリト説明シタルモ

「ウヰルソン」ハ容易ニ承認セス討論稍々行詰ノ姿トナリシニ

「ロイド、ジョージ」比ハ調停ノ態度ニテ英國ニテハ鐵道又ハ「ドック」ニテハ其警察ハ會社ノ手ニアルノ例乏シカラス此警察ハ會社ノ取締役ノ手ニ任ス本件モ鐵道會社ノ取締役ヲ通シテ支配スルモノトセハ必スシモ支那ノ主權ヲ害セサルハ尙ホ倫敦「ノースウエスターン」鐵道ノ警察カ英國ノ主權ヲ害セサルト同様ナルヘシト「サジエスジョン」ヲナシタルニ

「ウヰルソン」氏ハ英國鐵道ハ本件ト異リ外國政府ノ所有スルモノニアラス米國ニモ之ニ類スル例アレトモ法理上ハ鐵道警察權ハ地方政府又ハ中央政府ニ屬スル分ノ(脱)反對スルハ結局本件ハ外國政府カ鐵道會社取締役ノ多數ヲ通シテ支那ノ警察ヲ「コントロール」スルコト又警察ニモ外國人ヲ用フルト云フ點ニアリト論シ

我全權ハ鐵道警察ニ日本警察官ヲ入ル、コトハ畢竟鐵道ノ安全ヲ保護スル爲メ支那ノ如キ國柄ニテハ必要ナルコトニシテ用心(「ブレコーション」)ノ問題ナリト説明シタルモ

「ウヰルソン」ハ我二十一ヶ條要求中ノ警察顧問ノコト(註)ヲ引出シテ本件モ其一變形タルモノニシテ米國トシテハ飽迄支那主權侵害トシテ反對セタルヲ得スト息巻キ辭色稍々昂奮ノ態ナリシヲ以テ

(註) 所謂日支交渉ノ二十一箇條要求中ニ左ノ一條アリ(第五號ノ三、)

從來日支間ニ警察事故ノ發生ヲ見ルコト多ク不快ナル論爭ヲ醸シタルコトモ尠カラサルニ付此際必要ノ地方ニ於ケル警察ヲ日支合同トスルカ又ハ是等地方ニ於ケル警察官廳ニ日本人ヲ僱聘シ以テ一面支那警察機關ノ刷新確立ヲ圖ルニ

資スルコト

我全權ハ二十一ヶ條中ノ顧問ハ支那ノ廣キ地方全部ニ互ル問題ナルモ本件ハ一鐵道沿線ノ狹キ地帯ノ問題ニシテ性質全然異ル所以ヲ辯シ警察教官ナルモノハ何等政治的問題ニ及フモノニアラス獨逸ハ或ハ之ヲ濫用シテ政事の干渉ニ至リシヤモ計ラレサレトモ日本ノ關スル限リハ純然タル鐵道安全ニ關スル一取極ニ過キスト述ヘタルニ

「ウヰルソン」ハ稍ク本問題ヲ離レテ支那問題ニ關スル米國ノ輿論ニ説及ホシ日本ノ要求カ獨逸ノ既得權利ヨリ大ナルニ之ヲ承認セリト思ハルルニ於テハ自分ノ立場ノ困難ナルコトヲ述ヘ

○「ロイド、ジョージ」ハ飽迄調停者ノ地位ニ立テ日米間何等カ妥協ノ途ヲ見出ス爲メ曩ニ「サツジエスト」(德意)セシ例ニ倣ヒ本件鐵道警察ヲ會社ノ取締役ノ手ニ歸シ支那モ亦右警察組織ニ參加スルトコトシ日本ノ教官ノ使用選定モ亦會社重役ニ委ネテハ如何スクセハ日本モ其欲スル所ヲ得支那ノ面目モ立ツヘシト述ヘシヲ以テ

我全權ハ右ハ日支取極第四項警察官使用ニ關スル條項ヲ變更スルコトナク其解釋トシテ將又其手續ノ問題ニ過キサルヲ以テ反對スルノ要ナシト認メタルヲ以テ右ノ方法カ日支取極ヲ變更スルモノニアラサル限リ同意スヘキ旨ヲ答ヘタリ

「バルフォア」氏ハ後掲C號ノ案ヲ作り我ニ示シ

「ウヰルソン」氏ハ後掲D號ノ案ヲ示シ尙「バルフォア」案ノ(一)(二)(三)ト自分ノ案トヲ併合セムコトヲ希望シ何レノ途是等宣言ヲ發表セムコトヲ求メ

我全權ニ於テ斯ル宣言ヲナスコトニ不同意ヲ唱ヘタルニ

「バルフォア」ハ單ニ誤解ヲ防クノ趣旨ニテ新聞記者ノ會見談トシテ右ノ旨ヲ發表シテハ如何ト唱ヘ

「ウヰルソン」モ右ニ同意シ兎ニ角右案(不明)ナラハ同日夜迄ニ電話ニテ返事ヲ請フコト並ニ右ニ修正ヲ要ストセハ翌二十日再ヒ會議ヲ開クヘシトテ懇々兩人ヨリ我全權ノ同意ヲ求メタルヲ以テ一應引取リ熟考ノ上回答スルコトトシ散會セリ

〇〇號

宣言發表ニ關スル「バルフォア案」
Balfour's Proposal.

1. The declared policy of Japan is to hand back to China at the earliest date the sovereignty of Shantung Peninsula and to retain only the economic privileges possessed by Germany.
2. The intention of the clauses relating to police on the railway is merely to give the owner of the railway security for traffic and will be used for no other purpose.
3. Such Japanese instructors as may be required to assist in policing the railway may be selected by the company.

右譯文

「バルフォア」氏提案

- 一、日本ノ聲明セル政策ハ速ニ山東半島ノ主權ヲ支那ニ還附シ獨逸ノ有シタル經濟的特權ノミヲ保有スルニアリ
- 二、鐵道警察ニ關スル條項ノ趣旨ハ單ニ鐵道所有者ニ對シ運輸ノ保障ヲ與フルニアリ同警察ハ何等他ノ目的ノ爲ニ使用セラルルコトナシ
- 三、鐵道警察補助ノ爲必要ナルヘキ日本ノ教習ハ會社ニ於テ之ヲ選定スルヲ得

〇〇號

宣言發表ニ關スル「ウキルソン」案

President Wilson's Proposal.

Surrender to China of all rights of sovereignty and retention with regard to the railway and the mines only of the economic rights of the concessionaire; to retain however privilege of establishing a non-exclusive settlement at Tsintau.

(右譯文)

大統領「ウキルソン」ノ提案

支那ニ一切ノ主權ヲ還附シ鐵道並ニ錫山ニ關スル特權享有者ノ經濟上ノ權利ノミ保有シ併セテ青島ニ於ケル獨占的ナラサル居留地ヲ設クル特權ヲ保有ス

(九) 四月二十九日ノ帝國全權會議

(五月二日日本省著電)

茲ニ於テ四月二十九日ノ首相會議後我全權會議ヲ開キ先ツ「ステイトメント」(公表文)ヲ爲スノ可否ニ付協議シタルカ大體「バルフォア」案ノ趣旨ハ第一、租借地還附及鐵道鑛山海底電線等ニ關スル我獲得權ハ日支條約及取極ヲ一點變更スルコトナク其ノ解釋トシテ專管居留地警察問題ノ外ハ皆經濟的權利ナルコト自ラ明白ニシテ日本ハ是カ爲ニ支那ノ主權ヲ侵害セムトスルモノニアラサルハ明白ノコトナルヲ以テ大體此ノ趣旨ヲ以テ世ノ誤解ヲ防ク爲之ヲ宣明スルハ何等差支ナク第二、警察問題ニ付テモ亦日支取極ヲ變更スルコトナク其ノ解釋ノ範圍ニ於テ日本人採用ノ手續ヲ詳細ニセル丈ナレハ何等妨ケナシ之ニ反シテ「ウキルソン」案ハ其ノ記述方法全體カ阿等カ日支條約及取極ヲ制限スルノ觀アリ殊ニ Concessionaire (特權享有者)ノ權利ト限定セルハ面白カラサルニ付之ヲ採用セサルコトトシ別紙E號ノ通「バルフォア」案ヲ基礎トシテ修正案ヲ作り我委員ハ二十九日午後七時「バルフォア」ニ會見ヲ求メ

大體右ノ案ノ如クシ之ヲ日支條約及取極ノ解釋トシテ首相會議ノ席上英佛米等ノ首相ヨリノ再質問ニ對シテ日本全權カ回答セルモノトシテ新聞記者ト會見談ノ形ニテ發表スルナラハ日本ハ同意スヘシ尤モ右「ステイトメント」カ何等日支條約取極ノ變更ヲ爲セルモノニアラサルコトヲ了解セラレタシ

ト述ヘ右ニテ首相會議取極ノ方盡力ヲ依頼シタルニ

「バルフォア」氏ハ即夜直ニ英佛米三首相ニ手紙ヲ以テ照會スヘシトテ別レタリ
然ルニ三十日朝山東問題ニ關スル第三回首相會議ニ赴カムトスル前「バルフォア」ヨリ特使ヲ以テ「ウヰルソン」ヨリ日本ノ
修正案ニ對スル再修正案ヲ送り來レル處右ハ大體ノ趣旨ニ於テ日本ノ案ト何等ノ變更ナク唯二三辭句修辭ノ變更アルニ止
マリ唯條約取極ヲ引用セスシテ各員ノ一致セル政策ノ宣明ノ形式トナリ居ルモ實質上何等日本ノ政策ノ變更及日本ノ權利
及日本國民ノ威嚴ヲ損スル所無キニ付此際之ニ同意シ全講和ノ圓滿ニ解決ヲ請フコトヲ切望セル旨ヲ述ヘ別紙F號ノ如キ
「ステートメント」公表文案ヲ送附シ來リシヲ以テ我ニ於テハ更ニ全權會議ヲ開キ之ヲ考究シタル結果右ハ大體ニ於テ辭句
ノ修正ニ止マリ我原案ト實質上何等異ル所ナキヲ見此際強ヒテ條約取極ヲ援用シ米國ヲシテ日支間ノ條約取極ヲ承認セシ
ムル形式ヲ採ルモ却ツテ紛爭ヲ惹起スヘシト思考シ右ニ同意スルノ決心ヲ以テ牧野珍田兩全權ヲシテ首相會議ニ臨マシメ
タリ

○E號

宣言發表ニ關スル帝國側提出修正案

1. The declared policy of Japan is to hand back to China in full sovereignty of the Shantung Peninsula and to retain only the economic privilege possessed by Germany as well as that of establishing of Japanese settlement at Tsingtao.
2. The mention of the clauses relating to the police on the railways is merely to give the owner of the railway security for traffic and will be used for no other purpose.
3. Such Japanese instructors as may be required to assist in policing the railway may be selected by the company but appointed by the Chinese Government.

(右譯文)

一、日本ノ聲明セル政策ハ山東半島ヲ支那ノ完全ナル主權ニ之ヲ還附シ獨逸ノ有シタル經濟上ノ特權並ニ青島ニ於ケル日本居留地設立ノ權利ノミヲ保有スルモノトス

二、鐵道警察ニ關スル條項ノ趣旨ハ單ニ鐵道ノ所有者ニ對シ運輸ニ關スル保障ヲ與フルニアリ決シテ他ノ目的ノ爲ニ使用セララルモノニアラス

三、鐵道警察補助ノ爲必要ナル日本教習ハ會社之ヲ選定スルコトヲ得但シ支那政府之ヲ任命ス

○F號

日支條約及取極ノ解釋ニ關スル公表文案

帝國側提出ノ修正案ニ對スル「ウヰルソン」ノ再修正案

In reply to the questions by President Wilson, the Japanese Delegates declared as follows.

The Policy of Japan is to hand back the Shantung Peninsula in full sovereignty to China, retaining only the economic privileges granted to Germany and the right to establish a settlement under the usual conditions at Tsingtao.

The owners of the railway will use special police only to insure security for traffic.
They will be used for no other purpose.

The police force will be composed of Chinese, such Japanese instructors as the directors of the railway may select will be appointed by the Chinese Government.

(右譯文)

日本全權委員ハ「ウヰルソン」大統領ノ提起セル質問ニ對スル答辯トシテ左ノ通り聲明セリ
日本ノ政策ハ山東半島ヲ支那ノ完全ナル主權ノ下ニ還附シ獨逸ニ許與セラレ居リタル經濟上ノ特權並ニ一般行ハレ居ル條件ノ下ニ青島居留地ヲ設定スル權利ノミヲ留保スルニ在リ

鐵道所有者ハ運輸ノ安全ヲ保障スル爲メニノミ特別警察官ヲ使用スヘシ此等警察官ハ此レ以外ノ目的ノ爲メ使用セラレルコトナシ

警察隊ハ支那人ヲ以テ組織シ支那政府ニ於テ鐵道會社ノ取締役カ選擇スル日本人教習ヲ任命ス

○G號 山東問題ニ關シ講和條約中ニ挿入スヘキ條約文(四月三十日ノ首相會議ニ於テ決定)

Special conditions relative to Shantung Province.

ARTICLE I.

Germany renounces, in favour of Japan, all her rights, titles or privileges, particularly those concerning the territory of Kiao-chou railways, mines and submarine cables which she acquired in virtue of treaties concluded by her with China on March 6, 1898 and of April 28 arrangements relative to Shantung Province.

All German rights in the Tsingtau-Chinan rail-way, inclusively its branch lines together with its accessories of all kinds, stations, shops, fixed materials and rolling-stocks, mines, establishments and materials for exploitation of the mines are and shall remain acquired by Japan together with rights and privileges appertaining thereto.

Submarine cables of the State of Germany from Tsingtau to Shanghai and from Tsingtau to Chefoo with all rights, privileges and properties appertaining thereto shall equally remain acquired by Japan free of all charges and encumbrances.

ARTICLE II.

Rights of movable and immovable properties possessed by the State of Germany in the territory of Kiao-chou as well as all rights which she is entitled to claim in consequence of works or equipments set up or of the expenses disbursed by

her, either directly or indirectly, and concerning the territory (?) are and shall remain acquired by Japan free of all charges and encumbrances.

(右譯文)

山東省ニ關スル特別條件

第一條 獨逸ハ山東省ニ關シ一八九八年三月六日支那ト締結セル條約並ニ其他一切ノ協定ニ依リ支那ヨリ獲得セル一切ノ權利權原或ハ特權(特ニ膠州灣、鐵道、鑛山及海底電信線ニ關スルモノ)ヲ日本ノ爲メ拋棄ス

膠濟鐵道及其支線ニ關シ獨逸ノ有スル一切ノ權利並ニ各種ノ附屬物停車場工場固定材料及運轉材料鑛山並鑛山開發ニ關スル營造物並ニ材料ハ之ニ關スル權利及ヒ特權ト共ニ日本ニ歸屬スヘキモノトス

上海青島間及青島芝罘間ニ於ケル獨逸國所有ノ海底電線ハ之ニ屬スル一切ノ權利特權及財產ト共ニ何等ノ負擔及債務ヲ負フコトナク日本ニ歸屬スヘキモノトス

第二條 膠州ニ於ケル獨逸國有ノ動産及不動産ニ關スル權利並ニ獨逸カ同地域ニ於テ設立セル工事又ハ設備或ハ之レカ爲直接間接支出シタル費用ニ對シ要求シ得ル一切ノ權利ハ何等ノ負擔及債務ヲ負フコトナク日本ニ歸屬スヘキモノトス

(十) 四月三十日ノ首相會議

(五月二日日本省著電)

四月三十日首相會議ニ於テ山東問題ハ我要求通り最終的ニ決定シG號(前掲)ノ條約文ヲ講和條約中ニ挿入スルコトナレリ尙日支條約及取極ノ解釋ニ付F號(前掲)ノ通單簡ナル「ステートメント」ヲ發スルコトナレリ同日ノ會議ノ真相左ノ如シ

(五月二日巴里發電)

○四月三十日山東問題ニ關スル第三回首相會議ヲ「ウヰルソン」ノ宿舍ニ開キ我ヨリハ牧野珍田兩全權出席シタルカ出席者ハ前回ト同様「ウヰルソン」、「ロイド」、「ヂョーシ」及「クレマンソウ」ナリ

米國大統領ハ我カ全權ニ對シ同大統領修正案(前掲F號)「ステートメント」公表文ノ件ニ付我方ノ同意ヲ切ニ希望セル旨懇談セルヲ以テ前電(前掲九)參照ノ理由ニ基キ我カ條約案ニ全然同意スルコトノ諒解ニ於テ且ツ「ウヰルソン」大統領ト日本全權トノ間ニ於ケル應答ノ體ニテ之ヲ新聞ニ發表スルコトニ我方ニ於テ同意ノ旨ヲ答ヘタルニ英佛首相モ本件ノ圓滿解決ヲ喜ヒ満足ノ態ニテ山東問題ニ付キテハ我要求通り決定シタリ

○去リ乍ラ警察問題ニ關シテハ「ウヰルソン」ノ底意不明ニシテ殊ニ本件ニ關スル日支取極ノ規定ヲ支那ニ對シテ拘束力有ラシム(脱)米國カ如何ナル態度ニ出ツヘキヤ此點ヲ突出メ置ク必要アリト認メタルヲ以テ我カ全權ハ

右「ステートメント」(公表文)ニ掲ケタル警察取極メヲ支那側ニ於テ實行セサル場合例ハ支那カ警察力ノ構成又ハ日本人教官ノ使用ニ助力セサル場合ニ於テハ日本政府ハ一九一八年ノ取極ニ立歸ル(ツウ、フオール、バック)權ヲ留保スルモノナルコトヲ玆ニ言明シ置ク

ト述ヘタルニ

「ウヰルソン」ハ

既ニ國際聯盟成立シ日支共ニ之ニ加入シ日本ハ其ノ執行委員會ニ代表者ヲ出シ居ルモノナレハ斯カル場合ニハ日本ハ之ヲ同盟執行委員會ノ考量ニ委スル意無キヤ

ト問ヒシヲ以テ

我全權ハ

斯カル問題カ右委員會ニ送ラルルコトアリトスルモ日本ハ尙ホ最後ノ決定ニ際シ其ノ權利ヲ日支ノ特別取極ノ基礎ニ置クノ權ヲ留保セサルヲ得ス支那カ忠實ニ行動セハ問題ナキモ之カ實行ヲ拒絕スル場合ニハ日本ノ頼ル可キ唯一ノ途ハ特

別取極ヲ楯トスルニ在ルヘシ

ト主張シタルニ

「ウヰルソン」ハ

一九一五年ノ條約モ一九一八年ノ取極モ共ニ其ノ根據ヲ二十一ヶ條要求ニ有スルモノナルカ米國政府ハ右要求ニハ痛ク惱ミタル關係アリ從ツテ今回ノ協定ト右要求トノ關係カ薄キ程好都合ナリ余ハ日本ハ最近數年ノ交換公文ヲ引證セサラムコトヲ望ム故ニ本問題ヲ國際聯盟ニ持出ス場合ニモ戰爭ノ威嚇ヲ以テセス唯タ友好的協議ノ爲メニシ聯盟執行委員會ニ於テ支那ニ必要ナル請求ヲ爲スコトトシ度シ

ト述ヘタルカ

我全權ハ

斯カル場合ノ起ラサルコトヲ切望スルモ日本ノ關スル限リ支那トノ取極ヲ無視スルヲ得ス「ウヰルソン」大統領ハ右取極ノ效力ヲ「アドミット」セス日本ハ之ヲ爲ス點ニ於テ難關ヲ生スルモ日本トシテハ右取極ヲ楯トセサルコトノ德義上ノ拘束ヲ受ケサルモノナルコトノ事實ヲ言明スルニ在リ

ト答ヘタルニ

大統領ハ

淡泊ニ謂ハハ余ノ述ヘタル處ハ何等日支間ニ交換セラレタル取極公文ヲ承認スルモノト認メラルヘカラスト主張セサルヲ得ス

ト述ヘ

我カ全權モ

日支取極ヲ楯トセサルコトノ道義上ノ效力ヲ除去スル爲メ如上ノ陳述ヲ爲シ置クモノナリ

ト答ヘ以テ本件ハ之ニテ打切リトナレリ

○次ニ「ウヰルソン」ハ

日本全權ハ新聞記者會見ノ方法ニテ最初ノ本會議ニテ宣明セル其ノ政策ヲ公表スルコトニ同意セラレタルカ余自身モ自
己ニ最關係アル右宣明ノ全文ヲ公表ノ爲メ利用スルノ自由ヲ有ス

ト述ヘタルヲ以テ

我全權ハ

右公表ノ決議カ強制セラレタルモノナリトノ印象ヲ世間ニ與ヘサルコトニ最モ重キヲ置クモノナリ右ハ單ニ日本ノ山東
省還附政策ニ對スル日本全權ノ「インタープリテーション」(解釋)ヲ進シテ表明セシモノナルコトヲ茲ニ明白ニシ置キタ
シ

ト述ヘ

○尙大統領ハ青島要塞カ日本ノ專管居留地内ニ入ルヤ否ヤヲ尋ネタルヲ以テ

我全權ハ「合マサルヘシ」ト回答シ尙鐵道沿線ノ日本軍ハ As soon as practicable (出來得ル限り速ニ)ニ撤兵スヘキコトノ
保障ヲ與ヘタリ

○次テ我全權ハ我カ條約案文ニ就キ最初提出ノモノト異ナル點ニ付説明ヲ與ヘ置キタルカ其ノ要點ハ

「條約案第一條第三項及第二條ニ「何等ノ負擔及債務ヲ負フコトナク」トノ文句ヲ加ヘタルハ帝國政府ノ訓令ニ於テ獨逸
官公有財産ハ無償無條件讓渡ヲ要求スヘキコトヲ命シタルニ依リ財政條項第九條(獨逸ノ割讓領土内ノ官公有財産ハ讓
受國ニ於テ取得スルモ賠償委員ニ於テ評價シ之ヲ共同賠償資金ニ獨逸政府ノ勸定ニテ加算スルコトノ條項)ノ適用ヨリ
除外スル趣旨ナルコト次ニ第一條第二項鐵道嶺山ニ就キ有償無償ト規定セサル所以ハ日本政府ハ之ヲ以テ一ノ公有財産
ト認ムルモ獨逸側ニ於テハ之ヲ私有財産ナリト主張スルコトアルヘク右ノ爭點私有財産ト決スル上ハ日本ハ之カ爲メニ

支拂フノ意ナク從テ目下ハ有償ナリヤ無償ナリヤノ問題ハ未定ナルニ依ル」

ト云フニ在リ

○茲ニ於テ右條約案可決起草委員會ニ送付スルコトニ決定シタリ

第三、(參考)

○山東問題ニ關スル日支間ノ條約及交換公文一斑

(甲) 山東省ニ關シ大正四年五月二十五日調印ノ日支條約ノ内容ハ左ノ如シ

第一條 支那國政府ハ獨逸國カ山東省ニ關シ條約其ノ他ニ依リ支那國ニ對シテ有スル一切ノ權利利益讓與等ノ處分ニ付
日本國政府カ獨逸國政府ト協定スル一切ノ事項ヲ承認スヘキコトヲ約ス

第二條 支那國政府自ラ芝罘又ハ龍口ヨリ膠濟鐵道ニ接續スル鐵道ヲ敷設セムトスル場合ニ於テ獨逸國カ煙濰鐵道借款
權ヲ拋棄シタルトキハ支那國政府ハ日本國資本家ニ對シ借款ヲ商議スヘキコトヲ約ス

第三條 支那國政府ハ成ルヘク速ニ外國人ノ居住貿易ノ爲自ラ進ミテ山東省ニ於ケル適當ナル諸都市ヲ開放スヘキコト
ヲ約ス

第四條 本條約ハ調印ノ日ヨリ效力ヲ生ス

(乙) 膠州灣租借地還附聲明ニ關スル大正四年五月二十五日日支間ニ交換セラレタル公文ノ内容左ノ如シ

日本國政府ハ現下ノ戰役終結後膠州灣租借地ニシテ全然日本國ノ自由處分ニ委セラレル場合ニ於テハ左記條件ノ下ニ該
租借地ヲ支那國ニ還附スヘシ

- 一 膠州灣全部ヲ商港トシテ開放スルコト
- 二 日本國政府ニ於テ指定スル地區ニ日本專管居留地ヲ設置スルコト

- 三 列國ニシテ希望スルニ於テハ別ニ共同居留地ヲ設置スルコト
 - 四 右ノ外獨逸ノ營造物及財産ノ處分並其ノ他ノ條件手續等ニ付キテハ還附實行ニ先チ日本國政府ト支那政府トノ間ニ協定ヲ遂クヘキコト
- (丙) 山東省ニ關スル問題處理ニ付大正七年九月二十四日日支間ニ交換セラレタル公文ノ内容ハ左ノ如シ
- 一、膠濟鐵道沿線ノ日本軍隊ハ濟南ニ一部隊ヲ殘留スル外總テ之ヲ青島ニ集中スルコト
 - 二、膠濟鐵道警備ハ支那國政府ニ於テ巡警隊ヲ組成シテ之ニ當ルヘキコト
 - 三、膠濟鐵道ヨリ右巡警隊ノ經費ニ充テムカ爲相當ノ金額ヲ提供スルコト
 - 四、日本國人ヲ右巡警隊本部及樞要驛並巡警養成所ニ聘用スルコト
 - 五、膠濟鐵道從業員中ニ支那人ヲ採用スルコト
 - 六、膠濟鐵道ハ其ノ所屬確定ノ上ハ日支兩國ニ於テ合辦經營スルコト
 - 七、現下施行ノ民政ハ之ヲ撤廢スルコト

○伊太利全權委員ノ巴里引揚事件經過

目次

- 甲、四月二十二日巴里發電
- (一) 「アドリアチック」沿岸ニ對スル伊國ノ態度

(二) 右ニ關シ米國大統領ノ意見

乙、同日發別電

伊國首相ノ牧野男ヘノ内話(二十一日)

丙、四月二十四日發電

伊國ノ要求ニ對スル「ウヰルソン」大統領ノ陳述書公表(二十三日)

丁、四月二十五日發電

「ウヰルソン」大統領ノ陳述書ニ對シ伊國首相ノ二十三日附佛國首相宛書簡同首相ヨリ西園寺侯ヘ送付(四月二十四日)

戊、四月二十五日發電

「ウヰルソン」大統領ノ陳述書ニ對スル伊國首相ノ陳述書發表(二十四日)

己、四月二十四日發電

伊國委員ノ歸國決定

庚、同日發別電

伊國委員歸國

辛、四月二十七日發電

伊國委員歸國ノ目的

壬、四月二十八日發電

(一) 伊國委員ノ歸國事情

(二) 英佛新聞紙ノ論調

(甲) 四月二十二日發電

(一) 「アドリアチック」沿岸ニ對スル伊國ノ態度

「アドリアチック」沿岸ニ對スル伊國ト「ユーゴスラブ」トノ間ノ一難關ヲ爲セル模様ニ付キテハ三月十一日ノ講和打合會(丁)ニ於テ記載セラレタル通ナル處其後四總理會議ニ於テ密ニ協議ヲ重ネ居ルカ本問題ノ經過ニ付新聞紙其他ニ漏レタル處ヲ綜合スルニ伊國ノ立場ハ一九一五年四月二十六日ノ倫敦條約ヲ楯トシテ「トレンチノ」「トリエスト」「ダルマチヤ」沿岸並ニ右條約ニ於テ豫想無キ「フューメ」港ヲモ得ムトスルニアルモノノ如ク對之、佛英ハ右條約調印者タル關係モアリ全然伊國ヲ支持セサル迄モ十分ノ好意ヲ表シ居レリト云フモ右條約ト沒交渉ナル米國ハ當ニ伊國カ「フューメ」港ヲ併合スルヲ欲セサルノミナラス「ダルマチヤ」沿岸ノ併合ニモ反對ノ態度ヲ示シ一方伊國全權ニ於テハ同國輿論ノ沸騰ト相呼應シテ極力其ノ主張ノ貫徹ニ努メツツアルカ如キモ右米國ノ反對ハ頗ル強固ナルモノアル如ク結局昨今一ツノ折衷案トシテ伊國ハ「レチナ」(Ricina) 河右岸ニ在ル「フューメ」市及同港ノ重要ナル部分ヲ得ヘク對之、「ユーゴスラブ」ニハ同左岸ナル「ツェツェ」及「フューメ」ノ附屬港ヲ與フルコトトシ「ダルマチヤ」沿岸問題ハ右「フューメ」問題ノ解決ヲ看ルニ至ル迄之ヲ考慮セサルヘシトスルノ解決方法ハ有望ナリト傳ヘラレサルニ非ルモ未タ何等ノ最終的決定ヲ看ルニ至ラスト云フ

(二) 米國大統領ノ意見

然ルニ本月二十一日牧野、珍田兩全權米國大統領ト會見ノ際他ノ問題ニ關聯シテ同大統領ハ伊國カ倫敦條約ヲ超越シテ過天ノ要求ヲ提出シ然カモ讓ル處ヲ知ラス爲メニ問題解決殆ト行惱ミノ姿ニ在ル旨ヲ述ヘ(脱)

乙、四月二十二日發電

伊國首相ノ牧野男ヘノ内話(四月二十一日)

四月二十一日牧野委員伊國首相「オルランド」氏ニ會見ヲ求メ山東省ニ關スル我要求近ク會議ノ問題トナルヘキニ付此際我主張ヲ支持セムコトヲ希望スル旨申入レタルニ同氏ハ毅然タル態度ヲ以テ全然友人間ノ機密トシテ左ノ通り内話セリ

伊國ハ(一)「アルプス」ニ依ル國境(二)「フューメ」「ダルマチヤ」ニ關スル要求ヲ提出セルモ會議ノ容ルルトコロトナラス殊ニ米國ノ態度ニ就キテ最不滿ヲ抱カサルヲ得ス右ハ國民の要求ナルヲ以テ會議ノ態度斯ノ如クナル以上伊國ハ講和會議ヲ脱退スルノ他ナク之カ爲最困難ナル立場ニ陥ルモノハ伊國自身ナルコトハ充分之ヲ考量セサルニ非ラスト雖國民カ其ノ存在ノ根本ニ關スル希望ヲ容レラレサルニ於テハ寧ロ滅亡ヲ賭スルノ優レルニ如カス就テハ直ニ伊國委員ノ會議ヲ開キ去就ヲ決セムトス從テ日本ノ要求ノ論セラルヘキ會議ニハ伊國委員ハ列席セサルコトトナルヤモ測ラレスト

右伊國ノ要求ハ講和會議ノ最困難ナル問題ノ一ニシテ數回ニ互リ懸案トナリ今ヤ全ク行詰ノ形勢ニ在リテ「オルランド」モ談話中非常ノ(不明)ヲ以テ語リ充分決心ヲナシタルモノノ如ク見受ケタリ尤モ伊國ノ脱退ハ講和會議全體ニ容易ナラサル結果ヲ來タスヘキニ付何等カノ折合ヲ見ルヘシト考フルモ本問題ハ目下極メテ不安ノ状態ニ在リ

丙、四月二十四日發電

伊國ノ要求ニ對スル「ウヰルソン」大統領ノ陳述書(四月二十三日)

四月二十三日午後「ウヰルソン」大統領ハ自己ノ署名ノ下ニ左ノ陳述書ヲ公表セリ

關係諸問題ノ頗ル重大ナルニ願ミ之カ解決ニ關スル事態ヲ出來得ル限リ明瞭ナラシムル爲メ余ハ左記ノ陳述ニ依リ決定的輿論ノ構成並ニ満足ナル解決ニ幾分貢獻スル所アラムコトヲ希望ス

抑モ伊太利參戰ノ際同國ハ英國並ニ佛蘭西ト今日一般ニ倫敦協約ト稱スル適確ナル了解ヲ内容ニ取結ヒ以テ戰爭ニ參加シタリ爾來一般ノ情勢ハ局面全然轉回シ大小多數ノ諸國ハ何等前記内密協定ノ存在ヲ知ラスシテ參戰スルコトトナレリ當時歐洲ノ敵トシテ戰勝ノ曉ニハ前記倫敦協約實行上當ノ標的トセラレタル奧國帝國ハ今ヤ全然崩壞シ既ニ其ノ存在ヲ失ヘ

管ニ之レノミナラス同帝國數個ノ部分ハ獨立國家トシテ樹立セラレ最近吾人ノ敵タリシ國ト與セヌ却テ伊國竝ニ自由獲得ヲ目的トセル大戰争ニ於テ伊國ト其運命ヲ共ニシタル諸列國ト共ニ國際聯盟ニ加入セムトシツツアルコトハ伊國竝ニ其ノ友邦ノ共ニ認ムル所ナリ、吾人ハ吾人ノ自由竝ニ是等諸國ノ自由ヲ確固タルモノタラシメムトス是等諸國ハ遂ニ小國家ノ班ニ列セラルヘキカ其ノ利害關係ハ將來最強國ノ利害關係同様最モ嚴重ニ擁護セラルヘキモノトス

吾人ハ獨逸ニ對シ休戰及ヒ平和ノ締結ヲ提唱シ以テ大戰ノ終了ヲ見タル次第ナルカ右平和ハ明瞭適確ナル主義ヲ基礎トシ權利及ヒ正義ニ基ク新組織ヲ建造スル底ノモノタラサルヘカラス吾人ハ是等ノ不義ノ下ニ對獨講和問題ヲ考慮シ且ツ決定スル所アリ且ツ是等ノ主義ニ依リ平和ノ實現ヲ計ラムトス從テ吾人ハ列強ニ對シ前記方針ニ反スル主義ノ下ニ地地利ト平和ヲ締結シ且ツ從來塊洪帝國ヲ構成セシ諸國竝ニ巴爾幹諸國ニ於テ獨立竝ニ正義ノ新基礎ヲ設立セムコトヲ要求スルコト能ハス、否吾人ハ此等方面ニ於ケル歐洲問題ノ解決ニ關シテモ獨逸ニ對スル講和問題ニ適用シタル同様ノ主義ヲ適用セサルヘカラス抑モ平和提唱ノ試ミラレタルモ畢竟是等ノ主義ヲ明カニ是認セルカ爲メニ外ナラス從テ平和ノ大業モ是等主義ヲ基礎トシテ築キ上ケラレサルヘカラス

若シ是等ノ主義ニシテ格守セラルルモノトセハ「フューメ」ハ當然同港ノ北竝ニ東北ニ於ケル諸國即チ洪牙利、「ボヘミヤ」「ルーマニア」及「ユーゴ」、スラブ諸國ノ商業ノ出入口タルヘク決シテ伊國商業ノ出入口タルヘカラス「フューメ」ヲ伊太利ニ割當テムカ吾人ハ故意ニ是等諸國カ地中海ニ出口ヲ求メムトセハ主トシテ據ラサルヘカラサル同港ヲ何等其ノ構成分子タラサル國ニ之ヲ與ヘ且ツ同港關係地方ノ商業並工業ニ執リテハ必然無關係少クトモ之ハ同化スルモノト認メラレサルカ如キ主權(若シ同港ニ對シスル主權行使セラルルコトトナラハ)ノ下ニ同港ヲ置キタリトノ感想ヲ惹起スルニ至ルナラム蓋シ「フューメ」カ倫敦協約中ニ包含セラレスシテ却テ明カニ「クロアチヤ」人ニ割當テラレタルモ必ス前顧ノ理由ニ基クモノナリ且ツ倫敦協約ニ於テ「アドリアチック」海ノ東岸及ヒ同海ニ向テ最モ開放セラレ居ル「ダルマシア」沿岸諸港近傍ノ多數ノ島嶼ノ一併處分ヲ定メタルハ單ニ此處彼處ニ於ケル島嶼或ハ此處彼處ノ海岸ニ於テ伊太利人ノ血ヲ分チ之レト特別ノ關係アル人民カ居住セルカ故ノミナラス主トシテ伊國カ塊洪國ノ海軍攻撃ニ對シ自國ノ海岸ノ安全ヲ計ラムカ爲メニハ東部「アドリアチック」海ニ自己ノ根據地ヲ有スルコト必要ナリト認メラレタルカ故ナリ然ルニ塊洪國ハ既ニ其存在ヲ失ヒ今ヤ塊國政府カ同地方ニ築造セシ砲壘ハ永久的ニ破壊シ去ラレムトスルニ至レリ

而シテ同地方ニ建立セラルヘキ新國家カ他ニ對シ到底攻撃ヲ試ムルコト能ハサル程度ノ軍備制限規定ヲ受諾スヘキコトハ國際聯盟ヲ中樞トスル歐洲新組織計畫ノ一部分ヲ爲スモノニシテ人種上竝ニ國民上小數者タルモノニ對シテモ平等公平ノ待遇ヲ與フルコトハ國際協定ノ下ニ適當ナル保障ヲ與ヘラルヘキ次第ニ付同地方ニ於ケル伊國人民ノ集團カ何等不公平ナル待遇ヲ受クルカ如キ懸念ノアルヘキ筈ナシ之ヲ概言スルニ前記解決方法ニ關聯セル一切ノ問題ハ伊太利カ多大ノ生命財產ヲ犧牲トシ贏チ得タル正義ノ勝利其ノ者ニ依リ新色彩ヲ帶フルニ至レリ

吾國ハ他ノ四大強國ト共ニ自ラ誠意盡瘁シテ設立シタル新組織ノ重ナル管理人ノ一員トナレリ而シテ同國ノ北方竝ニ東北ニ於テ同國ノ自然的境界ハ「アルプス」山ノ全腹ニ涉リ西北ヨリ東南ニ至リ「イストリア」半島ノ尖端ニ達スル迄全然恢復セラシ「トリエスタ」及「ボロー」ヲ包含スル一體ノ水面ヲ合セ且ツ羅馬カ七岳ノ上ニ建設セラレタル以來數世紀ニ亙リテ人口ニ增長セル史譚ヲ生シ「ラチン」人種ノ歴史的生命ヲ發展ヒシメタル同半島ノ方向ニ面セル一切ノ地域ヲ包含スルコトトナレリ

斯クシテ同國昔時ノ統一ハ恢復セラレ同國ノ境界ハ其自然的防護線タル大障壁ニ至ルマテ擴張セラレタリ勿論同國カ其ノ友邦ニ圍繞セラレ「アドリアチック」海對岸ニ於テ新タニ自由ヲ得タル人民ニ對シ偉大、寬恕及ヒ義俠ノ崇高ナル德竝ニ利害ヲ棄テテ正義ニ赴ク精神ヲ表彰スルハ同國ノ任意トスル所ナルモ伊國ト聯盟セル國民、倫敦宣言或ハ今回ノ大戰争開始當時ニ於ケル其ノ他特別ノ協定ノ存在ヲ知ラズト雖單ニ國民の利益或ハ防禦地帶ヲ得ムトスルニ非ス眞ニ世界ノ確定的平和ノ樹立セムカ爲メ伊國ト同様最大ノ犧牲ヲ拂ヒタル諸國ハ茲ニ協同シテ伊國カ歐洲ノ新組織ニ於テ確然タル主導者ノ地

位ヲ持セムコトヲ慫慂スルモノナリ

米國ハ伊國ノ友邦タリ現ニ米國人中數百萬ノモノハ秀麗ナル伊國ノ田舎ヨリ來レリ斯クシテ米國ハ血並ニ愛情ニ於テ伊國人ト相密接セルモノニシテ斯ル連鎖ハ決シテ斷絶セラルルコトアラサルヘシ且ツ米國ハ其ノ盟邦ノ認諾ノ下ニ平和問題ヲ開議スルノ特權ヲ得タリ吾人ハ將ニ米國カ提唱シ余カ代辯ノ勞ヲ取リタル條件ノ下ニ平和ノ大業ヲ完成セムトス

米國ハ是等ノ主義ノ下ニ其ノ關係スヘキ一切ノ決定ヲ正律セサルヘカラス米國ハ此ノ外何事ヲモ爲シ得ス米國ハ伊國ヲ信ス從テ伊國ハ此等神聖ナル義務ト兩立セサルカ如キモノハ之ヲ要求セサルヘシト信ス

今ヤ問題トナレルハ利害ノ關係ニアラスシテ新舊國家國民ノ權利及自由ヲ得タル國民並ニ從來正義ヲ以テ遇セサル統御者ノ治下ニ在リシ國民ノ權利如何ノ問題即チ之ナリ殊ニ平和並ニ之ヲ確保スル様利害問題ヲ解決スルコトニ對スル世界一般ノ權利之レナリ今回ノ大戰ニ米國カ健闘ヲ營ミタルモ畢竟此等ノ主義擁護ノ爲ニ外ナラス米國ハ此等主義ノ下ニ於テノミ平和ノ締結ニ同意シ得ル次第ニシテ是等ノ主義ノ下ニ於テノミ米國ハ伊國人民カ米國ニ對シ平和ノ締結ヲ要請セムコトヲ希望シ且ツ信スルモノナリ

(764)

◎丁、四月二十五日發電

「ウヰルソン」大統領ノ陳述書ニ關シ伊國首相ノ佛國首相宛書簡(四月二十三日)

二十四日伊國首相「オルランド」氏ハ能々使者ヲ以テ西園寺全權宛要領左記ノ如キ同氏ヨリ佛國首相宛ノ書簡寫ヲ差越シタルニ付其ノ厚意ヲ深謝スルト同時ニ此際何等カ解決方法ヲ見ルニ至ラムコトヲ切望スル旨ヲ回答シ置ケリ

然ルニ其際右使者「フェランテ」氏ノ談ニ依ルニ伊國全權ハ本日午後二時當地ヲ引揚クル筈ナルカ只「オルランド」首相ハ「ロイド、ジョージ」首相ト會見中ニテ果シテ如何ニ成行ヘキカト悲觀ノ態ナリキ

尤モ當方ニ於テ内密探查スル所ニ依レハ伊國全權ノ引揚ケハ實現セサルモノノ如クナルカ一方伊國皇帝ヨリ同國全權宛

「オルランド」氏今回ノ態度ニ付皇帝ニ於テ充分支持セラルル處ナル旨ノ親電ヲ發セラレタル趣確ナル筋ヨリノ情報アリ尙本件ノ成行ハ精々注視中ナリ

伊國首相ヨリ佛國首相宛四月二十三日附書翰要領

今ヤ伊國ノ領土的要求問題ハ種々ノ解決方法中妥協ノ一路ヲ尋スルノ域ニ達シ本日午後伊國全權ハ英、米、佛三國間ニ問題解決ノ爲メ急ニ協議中ナル旨ノ通報ニ接シ次テ「ロイド、ジョージ」氏ヨリ右通報ノ内容ニ付若干ノ説明ヲ聽クコトヲ得同時ニ伊國全權ニ於テハ之ニ對シ送ルヘキ回答ニ付正ニ協議中ナリシカ本日夕刊紙ハ大統領「ウヰルソン」ノ覺書ナルモノヲ發表セリ余ハ之ニ對シ兎角ノ批評ヲ加フルヲ好マサルモ此際少クトモ貴國トノ間ノ同盟條約及之ヨリ生スル權利義務ニ訴ヘサルヲ得ス況ンヤ最近閣下ニ於テ此條約ヨリ生スル全權利ヲ伊國ニ(脱)セラレタルニ於テヤ右條約關係ノ(不明)此行詰リノ今日伊國全權ニ於テ今後講和會議ニ列席スルヲ得サルノ事情諒察ヲ請フノ外ナシ獨逸トノ講和條件ハ大要決定セラレタルモノト見ルヲ得ヘク從テ伊國々境ニ關スル講和條件ニシテ同時ニ決定ヲ見ンカ余ハ直チニ我與國ト共ニ右對獨條件ニ調印スルヲ得ヘシ蓋シ一九一五年四月二十六日ノ倫敦宣言及協約ニ依レハ其ノ調印者ハ同時ニ一般講和條約ヲ締結スヘキコト明瞭ナレハナリ余ハ同時ニ之ト同文ノ書翰ヲ「ロイド、ジョージ」氏ニ送り又此事ニ付西園寺侯爵ニ通報ス

(765)

◎戊、四月二十五日發別電

「ウヰルソン」大統領ノ陳述書ニ對スル伊國首相ノ陳述書(四月二十四日)

四月二十三日米國大統領ノ陳述書ニ對シ伊國首相「オルランド」氏ハ二十四日大要左ノ陳述書ヲ發表セリ

米國大統領ハ昨日伊國講和委員ノ英國首相ヨリ回附セラレタル伊國要求解決案ヲ討議シツツアル際「ステートメント」ヲ出シ本問題ニ關スル其ノ意見ヲ發表シタリ直接國民ニ向ヒ意見ヲ發表スルコトハ國際關係ニ新機軸ヲ出シタルモノナル

カ此方法ハ國民ノ國際問題ニ關スル發言權ヲ從來ニ比シ一層高メタルモノニシテ余ノ贊成ヲ惜マサル所ナリ然レトモ此種發表カ其ノ對象タル國民ノ政府ヲ除外シ又ハ其政府ニ反對シテ爲ナルルコトハ從來只敵國ニ對シテノミ行ハレタル處ニシテ聯合與國ノ位地ニ對シテ此手段ノ行ハレタルハ今回ヲ以テ嚆矢トナス而カモ右發表カ與國政府間ニ一重要案件ノ交渉進行中ニ行ハレタルコトハ慨嘆ニ堪ヘス若シ夫レ右ノ方法ニシテ伊國政府ト伊國(脱?)ト離間スヘキ手段トシテ行ハレタルモノナリトセハ伊國民ノ民主的發達ヲ無視スルモ甚シク余ハ之ニ對シテ大ニ抗議セムト欲ス抽象の原則ハ極メテ複雑又多方面ナル具體的問題ニ適用スル場合各種ノ困難ニ遭遇スヘキハ經驗ノ示ス處ナリ故ニ余ハ大統領カ自己ノ原則ヲ伊國ノ要求ニ宛嵌メントスルコトハ必シモ正當ナリト信セス埃匈帝國ノ瓦解ハ伊國ノ要求ヲ制限スヘキ事實ナリトノ斷定ニ對シテハ疑ヲ懷カサルヲ得スシテ余ハ却テ之レ伊國ノ要求カ十分ニ解決セラルヘキナリト信ス大統領ハ其ノ「ステートメント」ニ於テ伊國カ其ノ自然ノ要塞ナル「アルプス」ヲ回收シ得ヘシト云ヘルモ「アルプス」ノ東腹及「モンテネグエツ」ノ分水嶺ヲ得ルニアラスンハ「イストリア」半島ノ政治的歴史の經濟的統一ヲ破棄スルモノナリ國民自決權ヲ世界ニ示シタル大統領ハ又之ヲ「フューメ」ニ認メサルヲ得サルヘシ「フューメ」カ小團體タルノ故ヲ以テ之ニ自決權ヲ否認スルハ國家ニ對スル正義ノ標準ヲ其領土ノ廣狹ニ依リテ左右セムトスルモノナリ又「フューメ」ノ國際港ナルヲ以テ之ヲ否認セムトセハ「アントワープ」「ゼノア」「ロツテルダム」ニ關シテモ亦同様ノ議論ヲ生スヘシ數世紀ヲ通シ伊國ノ文化ヲ受ケタル「ダルマティア」諸島ヲ伊國ニ屬セシメントスルニ何ノ不自然アリヤ云々

◎己、四月二十四日發電

伊國委員ノ歸國決定

四月二十三日「ハバース」社ハ左ノ通信ヲ配布セリ

Signor Orlando addressed M. Clemenceau and Mr. Lloyd George a letter in which he informs them that as

the result of President Wilson's statement Italian delegation decided to leave Paris Thursday at 2 p.m.

◎庚、四月二十四日發電

伊國委員歸國

「オルランド」「サルバゴラギ」「バルチライ」ノ三全權及「ゼネラル、デアアツ」ハ二十四日午後八時半愈々當地ヲ引揚ケ羅馬ニ向ヒタルカ「ソニン」ノ「ダケ」ハ當地ニ殘リタリ

◎辛、四月二十七日發電

「アドリアチツク」問題ニ關シ伊米間ニ重大ナル確執ヲ生シタレトモ今後伊太利カ經濟的援助ヲ米ニ俟ツコトノ急ナルモノアルヲ以テ「オルランド」首相ノ歸國ハ事件ヲ議會ニ「サブミット」(提示)スル爲ト聲言セルノミニテ講和會議ヨリ撤退セル次第ニ非サルノ事實ニ鑑ミ尙何等時局收拾ノ見込ナキニ非サルヘシトノ感想ヲ懷クモノナキニアラス

◎壬、四月二十八日發電

(一) 伊國委員ノ歸國事情

伊太利ハ倫敦條約取極ノ地方以外「フューメ」ヲ要求シ「ウキルソン」ハ「ユーゴスラヴ」建國ノ將來ヲ慮リ直ニ伊太利ノ要求ヲ肯セス且埃ノ瓦解ニ因ル事態ノ變更ヲ理由トシテ倫敦條約ヲモ認メサラントスルノ色ヲ示シ本件ハ條約調印國間ニ於テ先ツ協議ヲ了スヘシトテ四月二十一日以來四國會議ニ出席セス二十三日ニ至リ是非ヲ直接一般並伊國々民ニ問ハムトスルノ態度ニテ突然其ノ主張ヲ公表書「ステイトメント」ヲ以テ公表セルヨリ伊國側ノ憤激ハ英佛ノ調停ヲ無効ナラシメ全權委員ハ翌二十四日同シテ對抗公表書「カウンター、ステイトメント」ヲ以テ其ノ意見ヲ發表スルト共ニ伊國議會ニ附議スル爲ト稱シテ同日夕伊國首相先ツ引揚ケ次ヲ外相以下委員ノ多數ハ巴里ヲ去レリ

(二) 英佛新聞紙ノ論調

英國新聞紙ハ「ウイリソン」氏ノ態度ヲ支持シ頻リニ伊國ノ反省ヲ促シ佛國新聞紙ハ其ノ説分レ居ルモ主ナル新聞紙ハ大

聯合與國總會議

○四月二十八日第五回聯合與國總會議

一、日 時 四月二十八日午後三時

一、出席者 伊國委員ハ出席セス

一、内 容

甲、國際聯盟規約討議

一、「ウヰルソン」ノ聯盟規約案説明並ニ其ノ實行ニ關スル動議提出

先ツ「ウヰルソン」大統領ヨリ國際聯盟委員(脫)會ニ關スル報告ヲ爲シ委員會決定最終規約案(後別紙參照)ヲ提出シ
曩ニ二月十四日ノ第三回總會議ニ提出シタル案(謄書其三第六一頁以下參照)トノ相違ノ點ヲ極メテ簡單ニ説明シタル
後

(一) 國際聯盟書記長トシテ「サー、イリツク、ドラモンド」(全權公使「バルフォア」氏書記官)ヲ任命セシコト

(二) 規約第四條第二項末段ノ規定ニ依リ不取敢實行委員會ニ代表者ヲ出ス可キ國ハ白耳義、ブラジル、希臘、西班牙
トスルコト

(三) 實行委員會ニ委員ヲ出スヘキ九箇國ヨリ夫々代表者ヲ任命シ聯盟ノ組織ニ關スル詳細ノ事項、聯盟所在地ニ於
ケル諸般ノ設備及第一回聯盟會議召集ノ準備及議題ヲ決定セシムルコトヲ動議シタリ

二、人種差別待遇撤廢問題ニ關スル牧野全權ノ陳述

次ニ牧野委員ヨリ附録(B)ノ如キ演說ヲ爲シ

三、聯盟規約案第八條及第九條ニ對スル佛國ノ修正案提出

次テ佛國委員「レオン、ブルジョア」氏ヨリ規約案第八條及九條ニ對スル修正案ノ趣旨ヲ詳細ニ説明シ「ビション」氏ヨリ佛國ハ聯盟規約ニ賛成スヘク右佛國ノ修正案ハ規約修正ノ形式ヲ執リ最近ノ機會ニ提出スヘキコトヲ述フ
四、聯盟規約案第五條ニ對スル「ウヰルソン」ノ修正提議

更ニ「ウヰルソン」大統領ヨリ規約案第五條九字目 covenant (規約)ノ次ニ or by the terms of this treaty (或ハ本條約ノ規定ニ依リ)ノ字句ヲ挿入スルコトヲ提議シ規約案修正ノ動議何レモ異議ナク可決セリ
乙、勞働原則ニ關スル條約案可決(詳細ハ第一二九頁ニ在リ)

附 錄 (A)

(770)

○四月二十八日ノ第五回聯合與國總會議ニ提出セラレタル國際聯盟委員會決定最終聯盟規約案
國際聯盟委員會ヨリ四月二十八日ノ總會議ニ報告セラレタル聯盟案ハ既掲ノ分(講和會議ニ關スル調査其六第三一頁參照)ニ比シ更ニ左記ノ諸點ニ於テ修正ヲ加ヘタルモノナリ、尙ホ「アネツクス」ヲ第二十六條ノ次ニ附加セリ

(一) 左記ノ箇所ハ state 若ハ states ノ代リニ member 若ハ members of the League ト訂正ス
第四條中五箇所

第八條 後段第五項 to the necessity of those 4 which are not able トノ間

第十五條 in regard thereto, any 4 represented on the Council トノ間

第二十六條 第一項中 when ratified by the 4 whose representative 4 トノ間

(二) 左ノ箇所「ニュー、バラングラフ」トス

第十三條中 they will submit the whole subject to arbitration. ノ次 Disputes 〇

同條 which are generally suitable for submission to arbitration. ノ次 For the consideration of 〇

第十五條 前段 for a full investigation and consideration thereof ノ次 For this purpose 〇

(三) 第十五條後段第九項

and Council may in any case under this Article refer 4 dispute to the Assembly. トノ間ノ “this” ヲ “the” ト訂正ス

第二十六條 第二項中 Any member of the League which signifies its ノ次ノ “dissement” ヲ “dissent” ト訂正ス

(四) Annex of Covenant. (第二十六條ノ次ニ附加ス)

1. Original Members of the League of Nations.

Signatories of the Treaty of Peace:

United States of America, Belgium, Bolivia, Brazil, British Empire, Canada, Australia, South Africa, New Zealand, India, China, Cuba, Czechoslovakia, Ecuador, France, Greece, Guatemala, Haiti, Hedjias, Honduras, Italy, Japan, Liberia, Nicaragua, Peru, Poland, Portugal, Armenia, Serbia, and Siam and Uruguay.

States invited to accede to Covenant:

Argentine Republic, Chili, Colombia, Denmark, Netherlands, Norway, Paraguay, Persia, Salvador, Spain, Sweden, Switzerland and Venezuela.

2. First Secretary General of the League of Nations.

附 錄 (B)

(771)

(四月二十八日聯合與國第五回總會議ノ席上)

余ハ最初二月十三日國際聯盟委員會ニ文化ノ程度進ミ聯盟員トシテ充分資格ヲ有スルモノト認メラルル國家ノ人民ニ對シテハ其ノ人種或ハ國籍ノ如何ヲ論セス均等公平ノ待遇ヲ與フルコトノ主義ヲ包含セル聯盟規約修正案ヲ提出セリ、當時余ハ人種問題ハ常ニ苦情ノ種トナリ何時緊急危險ノ問題トナルヤモ計リ難キモノナルニ付之ニ關スル條項ヲ聯盟規約中ニ設クルコトハ極メテ望マシキコトナル旨同委員會ノ注意ヲ喚起セリ勿論右主義ノ實行ニ關シ多岐多様ノ困難之ニ伴ヘルコトハ充分承知シ居リタル次第ナルモ各國民間ノ誤解ハ時ニ制シ切レサル程度ニ達スルコトアルヘク事頗ル重大ナルヘキコトニ想到セハ此等困難モ敢テ打克テ得サルコトモアラサルヘシ依テ嘗テハ不可能ト認メラレタル事モ將ニ完成セラレムトスル今日ノ如キ機會ニ於テ本件ヲ處理セムコトヲ希望セル次第ナリ尙余ハ本問題カ極メテ機妙且ツ錯綜セル問題ニシテ深甚ナル感情ノ發動之ニ伴フモノナルニ付此際直ニ理想的平等主義ノ實現ヲ計ラムトスルモノニ非ス茲ニ提議セル條項ニ於テハ單ニ右ノ主義ヲ闡明シ其ノ實際運用ニ至テハ關係各政府ノ意嚮ニ之ヲ一任セムトスルモノナル旨明確ニ説明スル處アリタリ換言スレハ該條項ハ關係各政府及ヒ人民ニ於テ一層詳細ニ誠意本問題ヲ考查シ公平順應ノ精神ヲ以テ其ノ解決方法ヲ案出スルニ至ラムコトヲ德慮セムトスル一ノ勸告ノ積ニテ提議セルモノナリ且ツ余ハ國際聯盟ハ云ハハ戰爭ニ對スル世界ノ保障ノ組織ナルヲ以テ攻撃ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ防禦スルニ好適ノ地位ニアル國民ハ同僚聯盟員ノ領土ノ安全及ヒ政治上ノ獨立ヲ防護スルノ覺悟ヲ要スヘキコトニ關シ注意ヲ喚起シ置キタリ、右ハ即チ聯盟員國家ノ人民ハ共同目的ノ爲メ軍費ヲ負擔シ必要ノ場合ニハ其ノ生命ヲ犠牲ニスルノ覺悟ナカルヘカラサルコトヲ意味ス斯ノ如ク自己ノ所屬國カ聯盟加入ノ結果其ノ國民ハ此等ノ新ナル義務ヲ負擔セサルヘカラサル事實ニ鑑ミ國民各自ニ於テハ自己ノ生命ヲ賭シテ迄モ防禦セムトスル人民ハ均等ノ立場ニ置カレムコトヲ希望シ且ツ之ヲ要求スルハ蓋シ當然ノ數ナリ然レトモ吾人ノ提唱セシ修正案ハ遂ニ委員會ニ於テ採用セラレサリキ、翌日即チ二月十四日ノ總會議ニ於テ我カ修正案ヲ包含セサル聯盟規約報告

(772)

セラレタル際余ハ世界ノ永久的平和ノ基ヲ作り之ヲ確保スル一切ノ計畫ニ對シテハ全幅ノ同情ヲ以テ進シテ最善ノ貢獻ヲ爲スヘキコトヲ述ヘ同時ニ日本ノ提議ハ不遠再ヒ會議ニ提出セラレヘシトノ留保ヲ爲シ置キタリ

越ヘテ四月十一日委員會ニ於テ各國民ノ平等ヲ認メ茲ニ其所屬各人ニ對シ公正ナル待遇ヲ與フル主義ヲ認ムル一旬ヲ聯盟規約ノ前文ニ挿入センコトヲ提議シタル處多數ノ贊同ヲ博シタルモ全會一致ノ贊成ヲ得ルコト能ハス遂ニ同提案モ亦採用セラレサルコトナレリ右改訂修正案ハ委員會ニ於テ充分説明シ置キタル如ク吾人ノ要望ヲ満足セシムル底ノモノナラザリシト雖各國ノ異ナル見解ヲ調和セムトシテ努メタル結果之ヲ提出スルコトナリタルナリ然ルニ委員會ニ於テハ右改訂修正案スラ聯盟規約草案中ニ挿入セサルコトニ決定セラレタルニ付テハ余ハ此際最初ノ提案ニ復歸シ本件ニ關スル吾人ノ立場ヲ明ニ聲明シ置カサルヘカラス將來國民間ノ關係ニ於テ吾人カ之ニ基キ行ハレムコトヲ要望スル主義トシテ最初ノ修正案ニ於テ提議セル處左ノ如シ

「國民平等ノ主義ハ國際聯盟ノ基本的綱領ナルニ鑑ミ締盟國ハ聯盟員タル總テノ國家ノ人民ニ對シ其ノ人種及ヒ國籍ノ如何ニ依リ法律上又ハ事實上何等ノ區別ヲ設クルコトナク一切ノ點ニ於テ均等公平ノ待遇ヲ與フヘキコトヲ約ス」
抑モ聯盟ノ大業タル時々變更スル各國政府ノ措置ニ依ルヨリモ寧ろ關係各國民カ同組織ニ包容セララルル高尚ナル理想ヲ誠意受入レ忠實ニ之ヲ遵奉スルニ依リ其ノ恒久的成功ヲ博シ得ル次第ニシテ民本主義ノ今日ニ於テハ人民各自右大業ノ管理者ナリトノ感念ヲ有セサルヘカラス而シテ斯カル觀念ハ誠意ナル協調並ニ相互信頼ノ確實ナル保障ヲ得テ初メテ之ヲ抱懷スルヲ得ヘキナリ

或ル國民ニ對シテ平等公平ノ待遇ヲ與ヘサルコトナラムカ其ハ其ノ國民ノ性質及ヒ立場ニ對シ異様ノ感想ヲ與フルコトトモナリ遂ニハ將來聯盟各員ノ國際關係ヲ律スル標準タルヘキ正義公平ノ主義ニ對スル彼等ノ信念ヲ動搖セシムルニ至ルヘシ斯カル心的狀態ハ目下考慮中ナル聯盟唯一ノ確乎タル基礎タルヘキ戮力協調ニ對シ最も有害ナルモノナルヘク吾人カ前顯ノ提議ヲ敢テシタルモ畢竟好意公平並ニ道理ノ健實確固タル基礎ノ下ニ國際聯盟ノ建設セラレムコトヲ希望セルカ故

ニ外ナラス然リト雖吾人ハ敢テ此ノ機會ニ於テ我カ提案ヲ採用ヲ迫ルモノニ非ス
終リニ臨ミ余ハ日本政府及ヒ人民ハ永年不斷ノ不滿ヲ解決セムコトヲ目的トシ深甚ナル國民的確信ニ基ケル公平ナル主義
ノ主張カ委員會ニ於テ採納セラレサリシコトニ對シテハ頗ル遺憾トスル處ニシテ將來聯盟ニ於テ同主義ヲ採用セララルニ
至ル様其ノ努力ヲ繼續スヘシ

備考 (一)

總會議ニ於ケル牧野委員宣言ノ次第

(四月二十九日巴里發電ニ依ル)

人種平等案ヲ國際聯盟規約前文中ニ挿入セシムルノ案ハ四月十一日夜ノ最終委員會ニ於テ遂ニ否決セララル、ニ至リタル次
第ハ前陳ノ通ナル處(講和調書其六第四三頁以下參照)更ニ總會議ニ提出シテ兎モ角一般ノ投票ニ付スルコトハ必スシモ不
可能ニ非サルモ既ニ英米兩國ノ反對アル以上本案ノ成功絕對ニ望ナキノミナラス最終委員會ニ於テ我カ提案ニ賛成セル諸國
殊ニ小國中ニハ英米ノ強硬ナル反對ニ鑑ミ總會議ニ於テ其態度ヲ豹變スルモノアルヘキハ諸般ノ形勢ニ顧ミ想像ニ難カラ
サル處ナリ從テ投票ノ結果ハ委員會ニ於ケルト反對ニ極メテ少數ノ賛成者ヲ得ルニ過キササルノ不利ヲ見ルノ悞アルノミナ
ラス投票ヲ求ムトスレハ從來ノ行懸リ上前文挿入ノ案ニ依ルノ外ナキ處右ハ妥協ヲ求ムルカ爲ニ極度ノ讓歩ヲナシタル不
満足ノ案ナル(脫語)地步ヲ確保セムカ爲ニハ寧ロ從前ニ溯リ當初ノ提案ヲ繰返シテ單ニ我方趣旨ノ存スル所ヲ充分明白ナ
ラシムルノ措置ヲ採ル方有利ナリト認メタリ依テ今回ノ總會議ニ於テハ四月一日發貴電(註一)ノ御趣旨ニ基キ三月三
十日發貴電(註二)所載ノ三案中何レカニ妥協スヘキ處貴電第一案及第二案ハ四月五日發往電(註三)ヲ以テ具報シ置キタル
カ如キ事情ニテ實行不可能ナルニ付已ムヲ得ス第三案ニ依リ前顯ノ如キ演述(不明)其全文ヲ「プロトコール」ニ載録セシム
ルコトニ取扱ヒタル次第ナリ

○(註一) 外務大臣ヨリ巴里全權委員宛四月一日發電

『規約前文中ニ「國際聯盟加入國民ハ總テ平等ナルノ主義ヲ是認シ」ナル文句ヲ挿入スル貴案ハ其ノ貫徹スル様閣下等最
善ノ御盡力ヲ希望スルト同時ニ該案ニシテ幸ニ通過スルモ右ノミニテハ或ハ日本ハ聯盟各國ハ人種又ハ國籍ノ理由ニ基
ク法律上又ハ事實上ノ差別的待遇ヲ他ノ聯盟國々民ニ加フルコトヲ避クヘシトノ主張ヲ讓リタルモノナリト解セラル、
ノ虞アルヲ以テ

(一) 右貴案ヲ通過スルト共ニ尙ホ三月三十日附訓電(註ニ參照)第一案中ニ記載スル宣言ヲ會議録ニ記入セシムルコト
ニ致シタク

(二) 若シ萬一右記入方同意ヲ得難キ場合ニハ前記貴案ニ係ル文句ヲ規約前文中ニ挿入セシムルノミニテ調印セラレ差
支ナシ

(三) 將又不幸ニシテ右規約前文中挿入ノ案モ遂ニ採用セラレサル場合ハ總テ三月三十日附訓電ノ通御措置相成リタクシ
前記何レノ場合ニ於テモ本規約最終確定案カ講和豫備會議ノ議事ニ上ル際ニハ閣下等ハ三月三十日附訓電第一案中ニ記
載スル宣言案ノ趣旨ヲ敷衍シテ帝國ノ地位ヲ明瞭ニ宣明セラレタシ』

○(註二) 外務大臣ヨリ巴里全權委員宛三月三十日發電

『人種の差別待遇撤廢ヲ期セムカ爲メニハ閣下等ニ於テ此上共極力御盡力アリタク尙ホ右ニ不拘會議ノ形勢上我カ提議到
底成功シ難キ場合ニハ閣下等ノ裁量ニ依リ左記三案ノ一ニ從ヒ可然御措置相成度ク若シ左記三案中ノ第三案ニシテ尙成
功シ難キ場合ニハ乍遺憾聯盟規約調印方一時御見合ノ上直ニ詳細ノ成行ヲ具シテ請訓セララル、様致シタクシ

左記

第一案 「本日國際聯盟規約ニ調印セムトスルニ當リ日本全權委員ハ聯盟各國ニ於テ特ニ國際聯盟ノ根本主義ニ顧ミ人
種又ハ國籍ノ理由ニ基ク法律上又ハ事實上ノ差別的待遇ヲ他ノ聯盟國々民ニ加フルコトヲ避クヘキヲ切ニ期待スル旨ヲ

宣言ス」ノ如キ宣言ヲ聯盟規約ノ附屬トシテ添附スルト共ニ該宣言ニ對シ列國委員ヲシテ了承ノ旨ヲ言明セシムルコト

第二案 單ニ宣言ヲ規約ノ附屬トシテ添附スルニ止ムルコト

第三案 該宣言ヲ會議録ニ記入セシムルコト

○(註三) 巴里全權委員ヨリ外務大臣宛四月五日發電

四月一日發電(註一參照)ニ關シ

「國際聯盟加國人民ハ總テ平等ナル主義ヲ是認シ」ナル文句ヲ規約前文中ニ挿入スルコト能ハサル場合ニハ三月三十日發電(註二參)照所載ノ三案ヲ試ムヘキ旨御訓令ノ次第敬承御趣旨貫徹ニ付キテハ引續キ精々努力中ノ處萬一ノ場合ヲ慮リ一應申進置度キハ前記貴電所載三案ノ義ニ有之即チ第三案及第二案ノ如ク宣言ヲ規約ノ附屬トシテ添附スルコトハ「ブランドル、アクト」セシムルト否トニ拘ハラズ結局規約ノ一部分ヲ成スコト、ナリ之ヲ提議スルモ殆ント成功ノ見込ナク且成否ノ如何ヲ問ハス是ヲ提議スル場合ニ前以テ主ナル委員ト交渉ヲ遂ケ置クコト絶對ニ必要ナルモ目下前文中ニ一定ノ字句ヲ挿入スルコトニ付是等委員ト交渉ヲ爲シツ、アル際更ニ右附屬書ニ付交渉スルトキハ我方ニ於テ前文ノ問題ヲ讓歩シタリト認メラル、嫌モアリ旁々實行頗ル困難ナリト認ム第三案ハ元ヨリ可能ノコトニ屬スルモ左ノ如キ事情ナルニ付豫メ御承知置キアリタシ即チ今回ノ會議ニ於テハ總會議ハ勿論委員會ニ於テモ各委員ノ發言ハ如何ナル事項ニテモ希望ヲ表明スルニ於テハ左シタル困難ナク夫々議定書(「プロトコール」)若ハ會議録(「プロセヴェルバル」)ニ記入セラレ居ル次第ニシテ其ノ採否ニ付キテ別ニ討議スル義ニ非ス從テ最後ノ場合總會議ニ於テ前記貴電第一案中ノ宣言ヲ朗讀シ且ツ其ノ趣意ヲ敷衍シテ帝國ノ地位ヲ明瞭ナラシムルノ演說ヲ爲スニ於テハ右ノ宣言及演說ハ共ニ議定書「プロトコール」ニ記入セラルル從テ別ニ前記貴電末段記載ノ如キ成功不成功ノ問題ヲ生セサルノミナラス「プロトコール」ナルモノハ例ヘハ日清滿州善後談判會議録ノ如ク特ニ拘束力ヲ有スルモノニ非ス右爲念申進ス

備考 (一)

國際聯盟案ニ對スル巴里新聞紙ノ論調

(五月二日發電ニ依ル)

四月二十八日第五回豫備總會議ニテ可決セラレタル國際聯盟案ニ對スル當市諸新聞論調ハ一般ニ悲觀的ニシテ特ニ世界平和ニ眞ニ貢獻スヘキ重要修正案ノ通過セザリシヲ遺憾トシ聯盟成案ニ對シ一般ニ不滿ノ意ヲ漏シ居レリ

イ、「エコー、ド、パリ」ハ最モ激烈ノ口調ヲ以テ國際聯盟ハ自然ニ終レリト云ヒ
ロ、「マタン」ハ二十八日ノ會議ニ於ケル聯盟案討議ハ「ウイルソン」ノ成功トナシ日白ハ讓歩佛ハ降服ナリト論シ特ニ佛國修正案ノ採用セラレザリシヲ遺憾トシテ吾人ハ此ノ如ク纖弱強風ニ堪エサル建築ヲ豫期セシモノニアラスト説キ
ハ、「ラ、グイクトアール」ハ聯盟規約ニ北米合衆國ノ「モンロー」主義ノ一項ノ加ヘラレタルニ拘ラス日本ノ平等待遇要求ノ修正案否決ハ不都合ナリトシ成案ニ依ル國際聯盟ノ(不明)ハ賈物ナリト云ヒ
ニ、「ジュールナル、デ、デバ」ハ眞ニ世界平和ノ保持ニ付其決定ヲ尊重セシムルニ足ルヘキ實力アル國際聯盟實現ノ期待ハ全ク破レタリ今ヤ吾人ハ暫ク忍ンテ國際聯盟ノ成熟ヲ俟ツノ外ナク其間諸國ノ政府ノ方針並ニ輿論ニモ亦自カラ變化アルヘク四月二十八日ノ條約ニ幾多改正増補ノ時機到來ヲ希望スルノミナリト述ヘ

ホ、「ルタン」ハ極メテ婉曲ニ總會議ノ情況ヲ論評シ特ニ日本ノ要求ニ對シ深甚ノ同情ヲ表スルト共ニ何レノ日ニカ日本ノ正當ナル主張ヲ尊重スヘキ解決ニ至ルヘキヲ疑ハスト論シタル後斯ヲ聯合諸國ハ平和確保ノ爲國際聯盟ヲ構成セリ吾人ハ此際敢テ多言ヲ用セサルヘク只今後不言實行吾人理想ノ實現ニ努力スルヲ要スヘキヲ云ハンノミ云々ト述ヘタリ

損害補償委員會

○損害補償委員會第二分科會第三十二次會合

(四月十九日發電ニ依ル)

一、日 時 四月十八日

一、内 容

決定事項左ノ通り

(甲) 敵國所有河川用船舶要求ノ件

(イ) 一九一四年八月三日以後敵國又ハ其屬國ノ占有ニ歸シタル内地航行用船舶及其附屬器具ニシテ現ニ敵國ニ存在スルモノハ平和豫備條約調印後三箇月以内ニ聯合國ニ返還スヘキコト

(ロ) 右ノ外聯合國被害船舶總額ニ達スル迄敵國船舶ノ一部ヲ聯合國ニ引渡スコト但シ一九一八年十一月十一日現在ノ敵國所有數ノ二割ヲ超エサルコト

(乙) 獨國造船所ヲシテ聯合國ニ引渡スヘキ船舶ヲ建造セシムル件

獨國造船所ニ於テ五ヶ年間左ノ條件ヲ以テ商船ヲ建造セシメ之レヲ聯合國ニ引渡サシムルノ案可決ス

(イ) 平和豫備條約調印後三箇月以内ニ聯合國ハ獨逸政府ニ對シ上記三箇月後二箇年ニ互リ獨國造船所ニ於テ起工スヘキ毎年ノ總噸數ヲ通知ス

(ロ) 平和豫備條約調印後二箇年內ニ聯合國ハ獨國政府ニ對シ前項二箇年經過ノ(脱)三箇年ニ互リ起工スヘキ毎年

ノ總噸數ヲ通知ス

- (ハ) 每一箇年起工ス可キ船舶ハ總噸數貳拾萬噸ヲ超過セサルコト
 (ニ) 右船舶ノ種類引渡ノ條件價額其他ノ問題ハ聯合國カ指名スル委員ニ於テ決定スルコト
 (丙) 船舶取得ノ件

本件ニ關シ左ノ事項可決セリ

- (イ) 獨逸政府ハ戰時中聯合國ノ承認ナクシテ中立國ニ讓渡シタル船舶並讓渡手續中ノ船舶所有權取得ニ關シ聯合國政府ノ指示ス可キ一切ノ方法ヲ執ルコト
 (ロ) 獨逸政府ハ獨逸船舶ノ抑留、使用、喪失損害ニ關シ聯合國政府及人民ニ對シ一切ノ要求權ヲ聯合國政府ノ爲ニ放棄スルコト

- (ハ) 獨逸政府ハ聯合國政府又ハ人民カ所有者備船者保險者等トシテ利害關係ヲ有スル船舶又ハ貨物ニシテ戰爭行爲ニ依リ沈没ノ(脱) *Unrecovered* セラレタルモノニ對シテハ獨逸カ沒收ノ宣告ヲナシタル場合ト雖モ一切ノ要求權ヲ聯合國政府ノ爲ニ放棄スルコト

- (ニ) 獨逸政府ハ平和豫備條約調印後三箇月以内ヨリ本條實施ニ必要ナル一切ノ立法及行政上ノ方法ヲ執ルコト

(丁) 獨逸生産染料要求

本件ニ關シ聯合國ハ左ノ割合ヲ以テ獨逸ヨリ引渡ノ「オプション」ヲ要求スルコトニ決議セリ

- 現在有高一部並ニ全部(但シ聯合國委員會ノ承認ヲ要ス)
 一九二〇年乃至一九二一年生産分二十五「パーセント」
 一九二二年乃至一九二三年生産分二十「パーセント」
 一九二四年乃至一九二五年生産分十五「パーセント」

(戊) 第二回報告書作製

第二分科會第二回報告作製議決書本委員會ニ報告セリ

○損害補償委員會(?)

(四月二十二日發電ニ依ル)

(註)

補償本委員會ノ第十五次(四月八日)ト第十六次(四月十九日)トノ間ニ本日ノ本委員會アルハ疑問ナリ、或ハ前顯第二分科會第三十二次會合ノ記事ノ追補ニハ非サルカ

一、日 時 四月十八日

一、内 容 財政委員會ヨリ移牒セラレタル左記問題ヲ可決ス(但獨逸以外ノ敵國ニモ適用スル旨附記)

(一) 獨逸政府ハ本條約調印後三箇月以内ニ

(イ) 帝國銀行其他ノ保有金銀

(ロ) 獨逸及獨逸以外ニ在ルモノニシテ獨逸政府及人民ノ所有ニ係ル外國證券外國銀行券紙幣各種手形

(ハ) 外國ニ在ルモノニシテ獨逸政府及人民ノ所有ニ係ル動産不動産現金商品各種債券

ノ現在高ニ關スル明細書ヲ聯合國ニ提出スヘキコト

(ニ) 獨逸政府ハ前項ノ財産ヲ取得シ之ヲ聯合國ニ引渡スニ必要ナル手段ヲ取ルヘキコト而シテ聯合國ハ引渡スヘキ財産ヲ指定シ前項報告ノ日ヨリ六ヶ月以内ニ引渡ヲ履行スヘシ

右引渡財産ハ聯合國財政委員會ニテ評價シ獨逸賠償支拂ノ一部トナス

既ニ聯合國ニテ差押ヘ居ル獨逸政府又ハ人民ノ財産及獨逸領地ニ於ケル財産ニ就テハ此協定ヲ適用セサルコト

○損害補償委員會第十六次會合

(四月二十二日發電ニ依ル)

一、日 時 四月十九日

一、内 容 第二分科會第二回假報告可決

本日ノ會議ニ於テ第二分科會第二回假報告ノ可決ヲ爲ス、其報告ノ要點ハ第二分科會ニ關スル三月三十日發電(講和調書其第五八頁)及同分科會第二十六、二十七、二十八、三十二次記事及(不明)報告ノ通ナルカ尙此左記二項ヲ可決シ之ヲ第二分科會第二回假報告中ニ包含セシムルコトトナリタリ

(一) 經濟委員會ヨリ第二分科會ニ移牒セラレタル問題

一九一四年八月一日以後獨逸カ其國內ニ於テ埃尙勃土國民ニ賦與セル特權特惠ハ聯合國ノ定ムル條件ニ準據シ本條約施行ノ日ヨリ之ヲ聯合國ニ移スヘキモノトス獨逸ハ右特權特惠ノ移轉ヲ妨クル如キ賣買讓渡其ノ他ノ行爲ヲ取消スコトヲ約シ又必要ナル保存行爲ヲ爲スヘキモノトス而シテ聯合國ハ之ヨリ生スル要償ニ關シテハ其ノ責ニ任セス

(二) 船舶専門家ヨリ第二分科會ニ提出セラレタル問題

獨逸國ヨリ聯合國ヘ引渡サルヘキ船舶及財産ニ對シ聯合國政府人民カ請求權ヲ有スル場合ニ獨逸カ之ヲ完済セサル時ハ分配其ノ他ノ手續前ニ聯合國ニ於テ之ヲ考慮スヘシ而シテ本問題ニ關シ聯合國政府人民ノ適法公平ナル利益ヲ保護セムカ爲メニ講和條約中ニ一條項ヲ挿入セムコトヲ適當ト認ム

(782)

○損害賠償問題其後ノ狀況

(四月二十八日巴里發電ニ依ル)

甲、四頭會議決定事項日本委員ヘノ通知

賠償第一分科會ハ當時報告ノ事情ニ依リ四月一日及四月二日開會後遂ニ開會セス從來ノ決議ヲ以テ四月七日ノ補償本委員會ニ報告シ本委員會ハ其儘之ヲ最高會議ニ提出セリ其報告ハ要償ノ計數ニ觸レス如何ナル形式ニ於テ獨逸ニ要償スヘキヤノ問題ハ全然最高會議ノ考量ニ移リ委員會ノ手ヲ離レタルヲ以テ本邦委員ハ其解決ノ方針ニ付テハ何等窺知シ得サル地位ニアリタリ尤モ四月二十二日牧野珍田兩全權大國首相ニ會見ノ際米國大統領及英國首相ハ賠償ニ關シ新ニ委員會ヲ組織シテ考量中ナルヲ以テ日本側ヨリモ代表者ヲ出サレ度キ旨申出アリ仍テ森委員ヲシテ代表セシムル考ナリシ處其後何等通知ニ接セザリキ

(783)

然ルニ四月二十四日突然米國委員ヨリ臨時參集ヲ要求シ來レリ當日森委員病臥セルノミナラス其事第二分科會ノ殘務ニ屬スルモノト推測スヘキ理由アリシヲ以テ罷委員出席セル處參會者ハ英、米、佛委員ニシテ米國委員ヨリ告ケテ曰ク賠償問題ニ關シ四頭會議ハ専門家ノ意見ヲ徵シ略ホ左ノ如ク決定セルヲ以テ一兩日中ニ日本全權ノ參會ヲ請ヒ確定スル答ナルカ豫メ日本委員ニ通知ス

(一) 領土縮少外國貿易減退ニ鑑ミ獨逸ニ巨額ノ支拂能力ヲ期待スルノ無理ナルコト仍テ獨逸ニ對シ要求スヘキ損害ハ千九百十八年十一月四日聯合國ノ宣言ニ基キ聯合國々民ノ蒙リタル直接損害即チ

一、對人損害

(A)、戰爭行爲ニ依ル非軍人ノ被害及其遺族ノ損害

(B)、非軍人ノ虐待ニ依リ生シタル損害及其遺族ノ損害

- (C)、占領地又ハ敵國ニ於テ非軍人ノ健康勞働能力若クハ名譽ニ受ケタル損害
- (D)、(脱)待ニ依リ生シタル損害
- (E)、陸海軍々人ニシテ死傷疾病等戰爭ノ犠牲トナリシモノ及其ノ家族ニ對スル恩給及其種ノ補給ハ聯合國々民ノ損害トシテ要償スルコトヲ得但シ本條約調印ノ日ニ於ケル佛國現行ノ率ニ依リ換算シタル金額トス
- (F)、聯合國カ其ノ俘虜及家族ニ與ヘタル補償ノ實額
- (G)、動員及軍隊勤務者ニ對シテ與ヘタル支給但シ戰爭中各歷年ニ於ケル佛國ノ支給率ニ依ル計算額
- 二、非軍人ノ正當ノ報酬ナクシテ強制シタル勞役ニ關スル損害
- 三、所在地ノ何レヲ問ハス聯合國及其ノ國民ニ屬スル財產(軍事上ノ性質ヲ有セサルモノ)ニ對シ敵ノ行爲ヲ以テ掠奪押收毀損若クハ破壊ニ依リ生シタル損害若クハ戰爭行爲ニ依リ直接ニ生シタル損害
- 四、非軍人ニ對シ敵ノ課シタル賦課罰金其他此種ノ徵收
- (二) 平和條約中ニハ賠償第一分科會ノ決議シタル損害種目ヲ右趣旨ヲ以テ修正セルモノヲ挿入シ以テ敵國ニ承諾セシメ賠償ノ實額ハ一九二一年五月一日以前ニ算出シ通知ス
- (三) 賠償ノ要求及領收ニ關シ米、英、佛、伊、白ノ五國委員ヲ以テ組織スル聯合國委員會ヲ設置シ要求ヲ審査シ、又獨逸ニ辯明ノ機會ヲ與フヘシ尤モ他ノ聯合國モ其關係問題ニ就キテハ參加スルヲ得但シ投票權ナシ
- (四) 獨逸賠償支拂方法ハ

- (A)、二百億金貨(馬克)一九二一年五月一日前償還無利子ノ無記名證券ヲ交付ス、此ノ證券ニ對シ獨逸ハ金銀(不明)證券船舶等賠償第三分科會ノ調査セル即時支拂ノ方法ニ依リテ支拂ヲ爲ス但シ聯合國ノ占領費及食料供給代金ハ此ノ支拂金ニ對シ先取權ヲ有ス其ノ額ハ八十億馬克ト假算スレハ賠償トシテ受領スル額ハ百二十億トナルヲ以テ不足分八十億馬克ハ次項(E)ノ公債ヲ以テ支拂ハシム

- (B)、四百億金貨馬克三十年期限無記名式公債一九二一年乃至一九二六年間ハ二分五厘其後ハ五分ノ利息ヲ附シ他ニ一部ノ減債基金ヲ加フ
- 前二項ノ公債ハ調印後直チニ交付セシム
- (C)、將來前記聯合國委員會ノ適當ト認ムル時期ニ於テ更ニ五分利附四百億馬克ノ無記名式公債證書ヲ請求ス爾後賠償金ノ全額ニ達スル迄逐次公債ヲ發行セシム

- (五) 然レトモ聯合國カ將來或時期ニ於テ或條件ノ下ニ賠償金ノ一部又ハ殘額ヲ免除スルコトアルヘキモ果シテ如何ナル形ニ於テ條約文ニ挿入スヘキヤハ未定ナリ
- (六) 條約調印前豫メ獨逸ヨリ受領スヘキ賠償金ノ聯合國ニ配分スヘキ割合ヲ協定ス
- 以上ノ説明ニ對シ罷委員ハ右ハ四頭會議ニテ確定セル案ナリヤト質問セル處米國委員ハ然リト答ヘ英國委員「オームナ」Annex 卿ハ本案ニ對シテハ日本政府ノ賛成アルニサラサレハ英國政府モ同意セサル筈ナリト述ヘタリ

乙、講和條約文トナルヘキ確定案觀測

- (不明) 中條約文トナルヘキ確定案ハ目下英米兩國ニ於テ整理中ナル故原文ヲ受領セサレトモ損害種目ニ關シ米國專門家ノ語ル所ニ依レハ第一分科ノ決議セル損害種目(調書其六第五二頁以下參照) 中第二部國家ノ損害ハ恩給補給費(第二十四條乃至第二十七條)ヲ除外全部四頭會議ニテ削除セラレタルカ如シ
- 第一部個人損害ノ部ニ於テモ大削減ヲ行ヒ本邦ニ關係アル部分ニ付見レハ第九條(F)即チ船舶(不明)總利得ノ準則モ削除セラレタルカ如シ尤モ第二部國害損害中俘虜收容費ノ削除ニ付テハ今尙異論アルカ如シ又對露貸付金ハ賠償金中ヨリハ削除セラレヘキモ目下英佛間ニ此ノ問題ニ關シ内議進行中ニテ獨逸トノ平和條約中露國ノ爲ニモ賠償ヲ請求シ其ノ受領金ヲ以テ聯合國對露貸付金ノ返償ニ充當セシムルコトヲ考案中ナル由ナリ
- 丙、最高會議ニ於ル賠償問題ノ大勢

以上ノ事實並四月一日第一分科會流會トナレル際伊國委員「クレスビー」ノ森委員ニ語レル所(講和調書其六第九頁第一分科會記事(二)參照)及爾來新聞紙ノ所報ヲ綜合シテ考フルニ最高會議ニ於テハ形式上佛國ノ主張勝ヲ制シ條約中賠償額ヲ明記セス損害種目ノミヲ挿入シテ敵國ニ抽象的債務ヲ負擔セシムルコトトシ實質的ニハ米國ノ說勝ヲ制シ戰費ヲ排斥セルノミナラス其他損害種目ノ大削除ヲ行ヒ以テ四ヶ國間ノ協調ニ達シタルモノト信セラル

但シ前顯甲、(六)ノ如ク調印前豫メ聯合國間分配ノ大體ノ割合ヲ決定スルノ議アル次第ニ付當方現在ノ材料ニテ計數修正表(講和調書其四第五頁參照)ノ調製中ナルモ貴方御決定ノ要償額就中船舶積荷ノ損害大至急電報相成タシ

責任委員會

○戰爭責任ニ關スル條約案文

(四月二十一日巴里發電ニ依ル)

講和會議起草委員會ニ於テ立案セル戰爭責任ニ關スル條約文左ノ通ナリ尙ホ英國側ハ裁判手續ニ關スル規定ノ挿入ヲ希望シ居ル由

第一條 獨逸政府ハ戰爭ノ法規慣例ニ關スル罪ヲ犯セル者ノ處罰ヲ確認セザリシニ依リ此種犯罪者ハ聯合國ノ軍事裁判所ニ依リ審理セラルヘク其ノ有罪ノ場合ニ於テハ聯合國軍事法規カ共通ニ規定スル刑罰ニ處セラルヘシ犯罪カ聯合國中一箇國(脫)爲サレタル場合ニ於テハ右犯人ハ關係國軍事裁判ニ依リ審理セラルヘク其ノ數箇國ノ臣民ニ對シテ爲サレタル場合ニ於テハ各關係國軍事裁判所職員ニ依リ構成セラルヘキ軍事裁判所ニ依リ審理セラルヘシ

右何レノ場合ニ於テモ被告ハ自ら其ノ辯護人ヲ選定スル權利ヲ有ス

第二條 聯合國ハ前獨逸皇帝ヲ刑罰法規上ノ罰ヲ犯シタルモノトセス國際道德及條約ノ神聖ナル權威ニ對スル極端ナル違反ヲ行ヘルノ故ヲ以テ告訴スヘシ

右被告ヲ裁判スル爲メ日、英、米、佛、伊ノ各國ニ於テ任命セル合計五名ノ裁判官ヨリ成ル特別裁判所ヲ組織スヘク被告ハ辯護ノ權利ニ關スル保障ヲ享有スヘシ

右裁判ハ嚴肅ナル義務及國際的約束並ニ國際道德ノ尊重ヲ確保スル目的ヲ以テ國際政治ノ最高ノ原則ニ遵據シテ裁判ス(五語不明)決定スルモノトス

聯合國ハ前獨帝ヲ裁判セムカ爲メ之ヲ聯合國ニ引渡サムコトヲ和蘭政府ニ要求スヘシ

交通委員會附「キール」運河聯合委員會

交通委員會第二十四、五、六次會合

一、日 時 四月二十二、二十三、二十四日

一、內 容

港、河川、鐵道ニ關スル講和條約挿入事項修正増補

四月五日ノ委員會ニテ議定ノ條款議決報告ノ後更ニ其修正増補ノ必要ヲ認メ四月二十二日交通委員會ヲ開キ英國委員提出ノ修正案ヲ討議シタルカ二十三日二十四日會議ヲ繼續シ大體ニ於テ原案ノ通り可決シ二十五日其議定案ニ各國委員一名宛署名ノ上之ヲ講和會議々長ニ提出セリ其重要事項左ノ通り

一、講和條約署名後二十五日以内ニ於テ聯合側利害關係國カ「ライン」、「ダニューブ」連結運河開鑿ヲ決定シタル場合ニハ獨逸國政府ハ右利害關係國ノ設計ニ從テ之ヲ開鑿スルノ義務アルモノトス
若シ獨逸國政府ニシテ此工事ヲ實施セサル場合ニハ聯合側利害關係國ハ之ニ代ツテ該工事ヲ實施スルコトヲ得ルモノトス

二、獨逸國ハ聯合側諸國間ニ締結セラルヘキ通過ノ自由、國際河川、自由航行及鐵道ノ國際的管理制度ニ關スル一般條約ニ加盟スル義務アルモノトス

三、講和條約實施ノ日ヨリ五ヶ月ヲ經過シタル後ハ各締約國ハ相互條件付ニアラサレハ本條約ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

四、聯合國側諸國ハ本諸條款ノ規定ヲ確實ニ而カモ其實施ヲ容易ナラシムルカ爲ニ必要ナルモノト認ムル追加條約ヲ講

和本條約中ニ挿入スルコトヲ得

五、本條款ニ於テハ敵國ニ課スヘキ條項ヲ一括規定セルヲ以テ今一々之ヲ敵國ニツキテ分割スルハ至難ナルカ故ニ本確定條款ハ凡テ各講和條約ノ附録トシテ之ヲ添附シ各敵國ヲシテ其自國ニ關スルモノヲ施行セシムルモノトス

○「キール」運河ニ關スル海軍交通聯合委員會第一、二次會合

(注) 本委員會ノ成立

「キール」運河ニ關シ交通委員會ハ三月十一日同運河委員會ヲ開キ講和調書其四第八四頁ニ記載セルカ如キ議定ヲ爲シタルモ四月十六日首相會議ハ同議定ノ意義精密ヲ缺クノ故ヲ以テ之ヲ海軍専門家及交通委員會ノ或委員トノ聯合委員會ノ再議ニ附スヘキ旨ヲ議定セリ

之ニ基キ四月十八日同委員會成立セリ

一、日 時 四月十八日及十九日

一、出席者

日、英、米、佛、伊五國ノ海軍士官

交通委員會委員

一、内 容 「キール」運河ニ關スル講和條約案討議

(一) 自由航行、國旗均等、運河使用料

各國委員ハ第一條乃至第六條(後掲條文參照)ニ規定スル同運河ノ自由航行及國旗均等ノ原則ニ關シテハ滿場一致ヲ以テ可治セリ唯、第三條ニ規定スル同運河使用料ニ關シテハ米國委員ハ同運河ハ獨逸國內ニ在ル人工的(artificial)ナルヲ以テ獨逸國ハ同運河使用料ヲ規定スルニ當リ同運河ノ維持費以外ニ同運河開鑿費ヲモ標準トシテ相當ナル(不明)ヲ主張シテ同條項ニ留保ヲ爲セリ

(二) 佛國委員ノ「キール」運河國際管理提議

佛國委員ハ同運河ヲ獨、英、佛、波蘭、丁抹五國ノ代表者ヨリ成ル國際委員會ノ管理ニ附スヘキコトヲ提議シ是カ必要ヲ力說シタルモ英米兩國委員ハ同運河ハ依然之ヲ獨逸國管理ノ下ニ置キ獨逸國カ本條約ノ規定ニ違背シ若クハ本條約ノ規定ノ解釋ニ關シテ爭議ヲ生スル場合ニ於テハ各國ハ國際聯盟ノ裁判所ニ起訴スルコトヲ得ヘク同運河ニ關スル小事件ニ關シテハ獨逸國ハ利害關係國ハ領事ノ提出スル爭議ヲ受理スル爲メ地方的機關ヲ設置スヘキ旨ヲ提案シ日伊兩國委員之ニ贊成セリ

(三) 砲臺撤去及新設禁止

第八條ニ規定スル「キール」運河及「エルベ」河口ニ存在スル砲臺ノ撤去及新設禁止ニ關シテハ日英米三國ノ委員ハ最高軍事委員會ノ議決シタル海軍條款第三十六條及第三十七條中既ニ之ヲ規定セルヲ以テ更ニ本條約案ニ此規定ヲ設クル必要無シト主張シ佛伊兩國ノ委員ハ前述ノ海軍條款ノ規定ハ「キール」運河及「エルベ」河畔ノ全砲臺ヲ包含スルモノニ非ルヲ以テ本條ノ規定ヲ存置スルノ有益ナル旨ヲ強説セリ

○「キール」運河ニ關スル海軍交通聯合委員會第三次會合

一、日 時 四月二十四日

一、出席者 五國委員

一、内 容 報告書及議案送達

前回委員會ノ報告書及議案ノ辭句ニ付テ修正ヲ施シタル後其確定書類ニ各國委員一名署名シ之ヲ講和會議議長ニ送達シタリ

Draft Articles Concerning the Kiel Canal for Insertion in the Preliminary Treaty of Peace with Germany.**ARTICLE 1.**

The Kiel Canal and its approaches shall be maintained free and open to the vessels of commerce and of war of all the nations at peace with Germany on terms of entire equality.

ARTICLE 2.

The national property and vessels of all states shall, in respect of charges, facilities and in all other respects, be treated on a footing of perfect equality in the use of the Canal, no distinction being made to the detriment of the national property and vessels of Germany or of the most favoured nation.

No impediments shall be placed on the movement of persons or vessels other than those arising out of police, customs, sanitary, emigration or immigration regulations and those relating to import or export of prohibited goods.

(262)

Such regulations must be reasonable, uniform and must not unnecessarily impede traffic.

ARTICLE 3.

Only such charges may be levied on vessels using the Canal or its approaches as are intended to cover in an equitable manner the cost of maintaining in a navigable condition, or of improving, the Canal or its approaches, or to meet expenses incurred in the interests of navigation, together with interest on the capital cost of the Canal not exceeding that earned in the last complete year before the War.

The schedule of such charges shall be calculated on the basis of such expenses, and shall be posted up in the ports.

These charges shall be levied in such a manner as to render any detailed examination of charges unnecessary,

except in the case of suspected fraud or contravention.

ARTICLE 4.

Goods in transit may be placed under seal or in the custody of customs agents; the landing, unloading of goods, and the embarkation and disembarkation of passengers, shall only take place in the ports specified by Germany.

ARTICLE 5.

No charges of any kind other than those provided for in the present regulations shall be levied along the course or at the approaches of the Kiel Canal.

ARTICLE 6.

Germany shall be bound to take suitable measures to remove any obstacle or danger to navigation, and to ensure the maintenance of good conditions of navigation.

(263)

Germany shall not undertake any works of a nature to impede navigation of the Canal or its approaches.

ARTICLE 7.

(British, American, and Italian proposal.)

In the event of violation of any of these conditions, or of disputes as to the interpretation of the present Convention, any interested State can appeal to the jurisdiction instituted for the purpose by the League of Nations, and can demand the formation of an International Commission.

In order to avoid reference of small questions to the League of Nations, Germany will establish a local authority at Kiel to deal with disputes in the first instance and to give satisfaction as far as possible to **complaints which may** be presented through the consular representatives of the interested Powers.

(French proposal)

The Kiel Canal and its approaches shall be under the control of an International Commission, which shall include :

- two representatives of Germany ;
- one representative of Great Britain ;
- one representative of France ;
- one representative of Poland ;
- one representative of Denmark.

This International Commission shall meet within three months from the signature of the Preliminary Peace Treaty and shall proceed immediately to prepare a project for the revision of the existing regulations. This project shall be drawn up in conformity with the general convention on international navigable water ways, should the convention have been previously concluded ; in the absence of such convention, the project for revision shall be in conformity with the provisions of the preceding Articles.

ARTICLE 8.

(French and Italian proposal.)

The following shall be demolished or suppressed under the direction of the Allied and Associated Powers :—All fortified works situated within 50 kilom. of either bank of the Canal or of the mouth of the Elbe, and all means of obstruction the object or effect of which will be to interfere with the liberty and the entire security of navigation.

Germany shall be prohibited from erecting any new fortifications, from installing any battery within zones specified above and from placing any obstruction in the approaches or in the Canal.

航空委員會

○航空委員會

(五月一日發電ニ依ル)

(一) 會議ノ性質並參列委員

三月十二日五國會議ニ於テ獨逸ニ課スヘキ軍事條件中航空問題ノ審議ニ際シ英國ノ提議ニ基ツキ左ノ二事項ヲ討究セシムル爲航空委員會成立米英佛伊日ヨリ各二名及講和會議ノ指定スル小國中ヨリ各一名ノ委員ヲ參列セシム

一、講和豫備會議ニ關聯スル一切ノ航空問題

二、平時國際航空條約

即本委員會ハ講和豫備條約中ニ編入スヘキ航空條件ニ關スル高等軍事會議ノ諮詢機關タルト同時ニ戰後國際間ニ成立スヘキ國際航空會議ノ基礎タルヘキモノトス

帝國委員トシテ陸軍省田中國重海軍省參事官山川端夫ヲ參列セシム

(二) 三分科會ノ成立

尙委員會ノ常務ニ關聯シテ專門ノ事項ノ審議ニ任スル爲軍事分科法政通商經濟分科並技術分科ノ三分科會成立ス

(三) 議事

◎(第一) 本委員會

甲、講和豫備會議ニ關聯スル航空問題建議

イ、敵國ノ民間飛行及航空機製造業ニ對シテ軌ルヘキ處置

本委員會ハ三月二十四日第一回ヲ開キ先ツ高等軍事會議ノ諮詢案タル講和豫備條約調印後ニ於ケル獨逸其他ノ敵國

ノ民間飛行及航空機製造事業ニ對シテ執ルヘキ處置ニ關シ審議シ高等軍事會議ニ建議セリ
然ルニ本建議案ハ五國會議ノ採用スル所トナラス講和豫備條約調印後尙此ノ種ノ制限ヲ獨逸其ノ他ニ課スルノ主義
ヲ否決シタルヲ以テ委員會ハ三月三十一日ノ會議ニ於テ獨逸ノ平時航空事業ヲ間接壓迫スルノ目的ヲ以テ獨逸製ニ
係ル航空機(脱)ニ於ケル航空事業ニ獨逸ノ方法及經營ヲ禁止スルノ案ヲ可決シ(米國留保)之ヲ高等軍事會議ニ建議
シ

ロ、敵國領空飛行機ニ關スル件

更ニ四月十五日ノ會議ニ於テ獨逸其他ノ敵國カ國際聯盟及國際航空條約ニ加入ヲ許可セラル、時期迄聯合國ハ自由
ニ敵國ノ領空ヲ飛行スルノ權ヲ有シ敵國ハ聯合國ノ指定スル敵國內ノ諸地點ニ飛行場ヲ設備シテ之ヲ聯合國ニ開放
シ其ノ他國際航空條約各締約國ノ負擔スヘキ一切ノ義務ヲ片務的ニ敵國ニ賦課スヘキコトヲ講和豫備條約中ニ規定
スヘキコトヲ建議セリ

乙、平時國際航空條約問題

條約案討議

本委員會ノ第二任務ナル平時國際航空條約ニ關シテハ三月十八日ノ會議ニ於テ其基礎トナルヘキ諸原則ヲ講究シ之ヲ
基礎トスル國際航空條約案ノ起草ノ法制分科委員會ニ附託シ四月十五日及十六日ノ總會議ニ於テ該分科委員會ノ報
告セル條約案(附錄A記載)ヲ討議シ之ヲ可決セリ但其確定條文ハ更ニ推歳ノ上五月五日以後ニ於テ審議スル等ナリ

◎(第二) 分科委員會

甲、軍事分科委員會

三月十九日其第一回會議ヲ開キ獨逸ニ課スヘキ航空條件ニ關スル高等軍事會議諮詢案及空中國境航空通路及飛行地帯
ノ諸問題ヲ審議シ爾後法制分科委員會ト合同ス

乙、國際法制通商經濟分科委員會(山川參事官出席)(脱)

三月十九日以降四月十七日ニ互ル期間ニ於テ軍事又ハ技術各分科委員會ト協同シ若ハ單獨ニ二十七回ノ會合ヲ重ネ高
等軍事會議諮詢案及國際航空條約案ヲ審議セリ

丙、技術分科委員會(田中館博士出席)

三月十九日以降四月二十七日ニ互ル期間ニ於テ二十二回ノ會合ヲ重ネ國際條約案中關係事項及本條約ト同一ノ效力ヲ
有スル附錄(航空機ニ附スヘキ記號下降航空技術證明書航空機備付書類信號及航空規定著陸地規定航空地圖氣象統計
及觀測ノ交換等)ヲ討議シ其確定條文ヲ五月五日日本委員會ヲ提出スル等ナリ

了、航空關稅委員會

國際航空條約案第三十五條(附錄A參照)ニ關聯シ同條約附則(第三十八條參照)タルヘキ航空關稅條約案附議ノ爲
メ航空委員會法制分科會ノ小委員會トシテ航空關稅委員會成立シ日本ヨリハ青木大藏省事務官出席四月十二日十四日
十五日ノ三回開催右條約案ヲ議シ其結果ヲ四月十七日開催ノ法制分科會ニ報告シ討議ノ結果多少修正ヲ經タル原案附
錄B記載ノ如シ

尙右航空關稅條約案討議ニ關シ參考トナルヘキ點次ノ如シ(附錄Bノ條文參照)

第二條中航空地圖ハ各締約國之レヲ作製スルモノナリ

第四條中最近ノ警察又ハ關稅官署トアルハ原案ニ警察及關稅官署トアリシヲ本邦委員ノ提議ニ依リ又ハト改正シタリ

蓋シ本邦關稅法第三十九條ノ五ト類似ノ場合ナリト認メタルニ依ル

第六條積荷目録及申告書ノ様式ニ關シ本邦委員ハ是等ノ式ハ國際協約ヲ以テ一定スル必要ヲ認メ述ヘタル處原案
起草者佛國委員ハ右様式ニ定ムル事項ハ必要ナル最少限度ニシテ何レノ國カ様式ヲ定ムルモ之レヲ缺クコト能ハサル
ヘシト述ヘタルニ依リ本邦委員ハ然ラハ各國ハ必要ナル事項ヲ追加スルコトヲ得ヘキヤトノ問ニ佛國委員ハ然リト答

へ英國委員ハ然ラハ其意義ヲ協約中ニ明記スルヲ可トスト述ヘタル結果本條第三項ヲ追加スルニ至レリ
 第七條第五項ニ關シ本邦委員ハ第一回會議ニ於テ關稅定率法ヲ改正スルニアラサレハ實行スルコトヲ得ナルヲ(?)理
 由トシテ贊成ヲ留保シタルカ第二回會議ニ於テ本邦委員ハ凡ソ外國船舶ニ登録シ陸揚セサル貨物ニハ關稅ヲ課セサル
 コト本邦關稅行政ノ原則ナルカ外國航空機ニ搭載シ荷卸セサル貨物ニモ關稅ヲ課スル主義ヲ以テ本協約案ハ起草セラ
 レタルカト質問シタル處佛國委員(大藏省關稅局長)ハ然ラス全ク船舶ノ場合ト同一アリト答ヘタルヲ以テ然ラハ第七
 條第五項ハ當然ニシテ無用ノ規定ニアラスヤト反問シタル處佛國委員ハ燃料カ航空ニ必要ナル數量ヲ超過セサル時關
 稅ヲ課セサルコトヲ主眼トシテ規定シタルニアラス必要ナル數量ヲ超過スル時ハ荷卸セラルモ課稅スルコトヲ主眼ト
 シテ規定シタルモノナリト答ヘタルヲ以テ本邦關稅定率法ニ抵觸スル處ナシト思惟シ前回爲シタル留保ヲ撤回シタリ
 第九條第二項ニ關シ本邦委員ハ關稅免除又ハ稅金供託ノ制度ヲ選擇スル權利ハ政府ニアリヤ又輸入者ニアリヤト質問
 シタル處佛國委員ハ政府ニアリト答ヘタリ

第十五條佛國提出原案ニ於テハ郵便物ヲ除クノ外飛行中ノ荷卸及揚荷ハ稅關航空停留場ニ於テノミヲナスコトヲ得
 トアリタル處英國委員激烈ニ反對シ飛行中ノ荷卸及揚荷ハ絕對ニ之ヲ禁止スト改メタリ尤モ佛國委員タル大藏當局モ
 亦贊成ニシテ原案ハ佛國飛行家ノ要求ニ依リ不明ナカラ提出シタルモノナリト述ヘタリ然ルニ第三回ノ小委員會ニ於
 テ伊國委員ハ締約各國ハ飛行中ノ荷卸及揚荷ヲ禁止スル權利ヲ留保ストノ改正案ヲ提出シ全員之ニ贊成シタルカ法制
 分科會ニ於テ飛行家ノ反對ヲ受ケ本案ノ如ク決定シタリ第三回小委員會ニ於テ本邦委員ハ飛行中ノ揚荷及荷卸ヲ絕對
 ニ禁止スル必要アリト思料セサルモ之ヲ許容スルコトヲ國際協約ニ依リ協定セラルルヲ好マストノ意見ヲ言明シタ
 リ

◎備考

一、附錄記載ノ條約案ハ凡テ五月五日開會ノ航空委員會ニテ最高協議會提出ノ議案トナル筈ナリ

二、航空郵便並衛生ニ關シテハ別ニ特別規定ヲ設ケス航空條約中ニ規定ナキモノニ付テハ一般原則適用ノコトニ決定
 セリ

附 錄 (A)

國際航空ニ關スル條約案

(四月十五日及十六日ノ航空委員會ニテ可決シタルモノ)

第一章 總 則

第一條 締約國ハ各國カ其ノ領土及領水上ニ在ル空域ニ對シ完全且排他的ノ主權ヲ有スルコトヲ承認ス
 第二條 各締約國ハ本條約ニ於テ定メタル條件ヲ遵守スル限リ他ノ締約國ノ航空機ニ對シ其ノ本國領土及領水並其ノ屬領
 植民地保護國及勢力範圍ノ領土領水上ニ於ケル無害通過ノ自由ヲ平時ニ於テ許與スルコトヲ約ス
 締約國ニ於テ其ノ領土内ニ於ケル他ノ締約國ノ航空機ノ入國許可ニ關シ制定スル一切ノ法令ハ國籍ノ區別ナク之ヲ適用
 スヘシ

第三條 各締約國ハ軍事上ノ又ハ公安上ノ理由ニ依リ他ノ締約國ノ航空機ニ對シ其ノ法令ニ定メタル罰則ヲ適用シ且自國
 所有航空機トノ間ニ本項ニ關シ何等區別ヲ設ケサルノ條件ヲ以テ自國領土内ノ一定ノ地域ニ於ケル飛行ヲ禁止スルノ權
 能ヲ有ス

締約國ニ於テ前項ノ權能ヲ行使スル場合ニハ禁止地帯ノ設置及範圍ヲ公示シ且豫メ之ヲ他ノ締約國ニ通告スヘシ

第四條 禁止地帯ニ航入シタル一切ノ飛行機ハ其ノ事實ヲ覺リタルトキハ直ニ附則(d)規定第十七條ニ定メタル救難信號
 ヲ爲シ且成ルヘク速ニ該禁止地帯以外ニ於ケル最近ノ被通過國飛行場ノ一ニ著陸スルノ義務ヲ有ス

第二章 航空機ノ國籍

第五條 各締約國ハ締約國ノ一ノ國籍ヲ有セサル航空機ニ對シ自國領土上ニ航空スルコトヲ許可セサルモノトス但特別臨時ノ許可ヲ與フル場合ハ此限ニアラス

第六條 航空機ハ其登記簿ノ屬スル國ノ國籍ヲ有ス之カ登記ニ付テハ附則(a)(b)(c)規定ノ定ムル所ニ準據スヘシ

第七條 航空機ハ其全部カ締約國ノ一ノ國民ニ屬スル場合ニ限リ當該國ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ得

會社ハ航空機ノ登記セラレタル國ノ國籍ヲ有シ社長及三分ノ二ノ取締役カ之ト同一國籍ヲ有シ且各國ノ法令ニ依リ定メラルヘキ他ノ一切ノ條件ヲ遵守スル場合ニ限リ航空機ノ所有者タルコトヲ得

第八條 航空機ハ一國以上ニ於テ之ヲ有效ニ登記スルコトヲ得ス

第九條 締約國ハ前月中ニ其登記簿ニ記入シタル新登記及削除ノ寫ヲ毎月互ニ交換シ且之ヲ國際交通委員會ニ通報スヘシ

第十條 一切ノ航空機ハ國際航空ヲ爲ス爲メニ附則(a)規定ニ準據スル其國際記號及登記記號及所有者名ヲ表示スヘシ

第三章 下降證明書及伎倆證明書

第十一條 一切ノ航空機ハ國際航空ヲナスニ當リテハ國籍ヲ有スル國ニ於テ附則B規定ニ準據シテ下附シ又ハ公認セル下降證明書ヲ備フルヲ要ス

第十二條 一切ノ航空機ノ機長操縦者技術者其他操縦ニ從事スル人員ハ航空機ノ國籍ヲ有スル國ニ於テ附則(c)規定ニ準據シテ交附又ハ公認セル證明書及免狀ヲ所持スルヲ要ス

第十三條 航空機所屬國ニ於テ附則B規定及(c)規定並ニ將來國際航空委員會ノ定ムル處ニ準據シテ交附シ又公認シタル下降證明書及免狀ハ他國ニ於テモ之ヲ有效ナルモノト承認スヘシ

各國ハ自國領土ノ範圍内及其空域ニ於ケル航空ニ關スル限リ他ノ締約國カ自國民ニ與ヘタル伎倆證明書及免狀ヲ承認セサルノ權利ヲ有ス

第十四條 公衆運搬用ノ一切ノ航空機ニシテ少クモ十名ノ人員ヲ搭載シ得ヘキモノハ國際航空委員會ニ於テ無線電信機使用方法ヲ決定スルニ至ラハ無線電信機(發信及受信)ヲ備フルヲ要ス

國際航空委員會ハ將來他ノ一切ノ種類ノ航空機ヲシテ其定ムル條件及方法ニ依リ無線電信機ヲ備フルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得

第四章 外國領土上ニ於ケル航空許可

第十五條 締約國ノ航空機ハ著陸スルコト無ク他國上ヲ航過スルノ權ヲ有ス此ノ場合ニ於テハ右航空機ハ航過國ノ定メタル航路ニ依ルノ義務ヲ有ス然レトモ一般警察上ノ理由ニ依リ右航空機ハ附則(B)規定ニ定メタル信號ノ方法ニ依リ命令ヲ受ケタルトキハ著陸ノ義務ヲ有ス

一國ヨリ他國ニ至ル一切ノ航空機ハ行先國ノ法令カ之ヲ必要トスルトキハ同行先國ノ定メタル飛行場ノ一ニ著陸スルヲ要ス

之等飛行場ニ關シテハ國際航空委員會ニ於テ之ヲ締約國ニ通告スヘシ

國際航空ノ通路ノ設定ハ航過諸國ノ同意ヲ得ルヲ要ス

第十六條 各締約國ハ自國內ノ兩地點間ニ於ケル人員及貨物ノ運送營業ヲ自國航空機ニ留保スルノ權能ヲ有ス

第十七條 締約國ニシテ第十六條ニ依リ許容セラレタル性質ノ制限ヲ設ケタル時ハ同國ノ航空機ハ他ノ何レノ締約國ニ於ケル同様ノ制限ヨリ免除セラレヘキコトヲ請求スルコトヲ得ス右他國ニ於テ其ノ自國航空機ノ利益ノ爲ニ制限ヲ設ケタル場合又同シ

第十六條ニ定メタル制限及留保ハ直ニ之ヲ公示シ且關係國政府ニ通告スヘシ

第五章 出發著陸及航行中ニ遵守スヘキ規定

第十八條 國際航空ニ從事スル一切ノ航空機ハ左ノ書類ヲ備フルヲ要ス

- (A) 附則 a ニ準據セル國籍證書
 - (B) 附則 b ニ準據スル下降説明書
 - (C) 操縦者及乗員ノ伎倆證明書及免狀
 - (D) 旅客ヲ搭載スルトキハ其ノ旅客名簿
 - (E) 商品ヲ搭載スルトキハ積荷證書及載貨目録
 - (F) 附則 c ニ準據スル航空日誌
 - (G) 無線電信機ヲ備フルトキハ其ノ特別免許書
- 第十九條 航空日誌ハ其ノ最後ノ記入ノ日ヨリ二年間之ヲ保存スヘシ
- 第二十條 航空機ノ出發ニ當リテハ當該國官憲ハ一切ノ場合ニ於テ航空機ヲ臨檢シ且其ノ備フルヲ要スル一切ノ書類ヲ檢證スルノ權能ヲ有ス
- 第二十一條 航空機ノ着陸ニ當リテハ當該國官憲ハ一切ノ場合ニ於テ航空機ヲ臨檢シ且其ノ備フルヲ要スル一切ノ書類ヲ檢證スルノ權能ヲ有ス
- 第二十二條 航空機内ニ在ル一切ノ人員ハ着陸國ノ法令ヲ遵守スルヲ要ス
- 着陸セスシテ國境ヨリ國境ヲ航過スル場合ニ於テハ航空機内ニ在ル一切ノ人員ハ航過國ノ法令ニシテ無害航行ヲ許容スル爲メ設ケラレタルモノヲ遵守スルヲ要ス
- 航空中ノ航空機内ニ在ル人員相互間ニ於ケル法律關係ハ該航空機ノ國籍國ノ法令ニ依ル
- 航空中ニ在ル航空機内ニ在ル人間間ニ犯罪行ハレタル場合ニ於テハ航過國ノ法令ハ該犯罪カ同國ノ國民ノ一ニ對シテ行ハレ其ノ後同國ノ領土ニ着陸シタル場合ニ限リ其ノ權限ヲ有ス
- 航過國ハ左ノ場合ニ於テ權限ヲ有ス

- 一、公安軍事財政ニ關スル法令ニ對スル一切ノ違反ニ關スル場合
 - 二、航空ニ關スル自國法令ニ對スル違反ノ場合
- 第二十三條 締約國ノ航空機ハ着陸殊ニ遭難ノ場合ニ於テ着陸國ノ航空機ト同程度ノ救助ヲ受クルノ權利ヲ有ス
- 海上ニ於テ喪失セル航空機ノ救難ニ關シテハ出來得ル限リ船舶救難ニ關スル各締約國ノ規定ヲ適用ス
- 第二十四條 締約國ノ領土ニ屬スル着陸場ニシテ其國ノ航空機ノ爲メ公共用ニ開放セラレ居ルモノハ一切他ノ締約國ノ航空機用ニモ供セラルルモノトス
- 前項着陸上ノ格庫ニ於テハ着陸費及滞在費ニ付テ内國航空機ト外國航空機トニ同シク適用セララルヘキ均一ノ稅率ヲ定ムヘシ
- 第二十五條 各締約國ハ自國領土内ノ定域ヲ航行スル一切ノ航空機及其ノ所在地ノ如何ヲ問ハス自國ノ國旗ヲ掲クル一切ノ航空機ヲシテ本條約ノ附則上ニ掲クル規定ヲ遵守セシムルコトヲ確保スル爲メ必要ナル措置ヲ執ルヘキコトヲ約ス
- 各締約國ハ前項ノ規定ヲ遵守セサル一切ノ人員ヲ處罰スヘシ

第六章 禁 制 運 送

- 第二十六條 航空機ニ依ル爆發物、兵器及彈藥ノ運送ハ國際航空ニ於テハ之ヲ禁止ス如何ナル外國航空機ニ對シテモ同一締約國ノ一地點ヨリ二地點ニ前記特件ヲ運送スルコトヲ許スコトヲ得ス
- 第二十七條 各國ハ其管轄内ニ於テ寫真機ノ運送又ハ使用ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得之ニ關スル一切ノ規定ハ直ニ之ヲ國際航空委員會ニ通告スヘク同委員會ハ右通告ヲ他ノ一切ノ締約國ニ通牒スヘシ
- 第二十八條 公安ノ理由ニ依リ各締約國ニ於テ第二十六條及第二十七條ニ定メタルモノ以外ノ物件ノ運送ヲ節減スルコトヲ得
- 前項ノ一切ノ規定ハ直ニ之ヲ國際航空委員會ニ通告スヘク同委員會ハ右通告ヲ他ノ一切ノ締約國ニ通牒スヘシ

第二十九條 第二十九條ニ掲ケタル一切ノ制限以外航空機ニ對シ均シク之ヲ適用スルヲ要ス右制限ハ直ニ之ヲ行使シ且他ノ締約國及國際航空委員會ニ通告スヘシ

第七章 政府用航空機

第三十條 左ニ掲クルモノハ之ヲ政府用航空機ト見做ス

(a) 軍用航空機

(b) 郵便用、税關用、警察用ノ如キ専ラ政府ノ用ニ供セラル、航空機

他ノ一切ノ航空機ハ之ヲ私用航空機トス

第三十一條 命ヲ受ケタル軍人ノ指揮スル一切ノ航空機ハ之ヲ軍用航空機ト見做ス

第三十二條 一締盟國ノ軍用航空機ノ他締約國上ニ於ケル航空及同航空機ノ他締約國內ニ於ケル着陸ニ就キ特別ノ許可無クシテ之ヲ行フコトヲ得ス
特許權ヲ得タル場合ニ於テハ軍用航空機ハ特別ノ規定無キ限りハ慣例上外國軍艦ニ許容セラル、治外法權ノ特權ヲ享有スルモノトス

不可抗力ハ治外法權享有ノ因タルコトヲ得ス則チ軍用航空機ニシテ着陸ノ止ム無キニ至リタルモノ若ハ着陸ノ止ム無キニ至リタルト稱スルモノ又ハ着陸ヲ請求若ハ命セラレタルモノハ此事實ニ依リ何等ノ治外法權ヲ享有スルコトナシ

第三十三條 如何ナル場合ニ於テ警察用及税關用航空機ノ國境ヲ越ユルヲ許スヘキヤハ國ト國トノ協定ニ依リ之ヲ定ム
前項ノ航空機ハ如何ナル場合ニ於テモ治外法權ヲ享有スルコトナシ

他ノ一切ノ政府用航空機ハ私用航空機ノ取扱ヲ受ケ私用航空機トシテ本條約ノ一切ノ規定ニ準據スヘキモノトス

第八章 國際航空委員會

第三十四條 左ノ委員ヨリ成ル常設委員會ヲ構成シ之ヲ國際航空委員會ト名ク左ノ各國ヨリ各二名ノ代表者

北米合衆國佛蘭西伊太利及日本、英帝國ニ付テハ大不利顛國ヨリ一名ノ代表者及各屬領ヨリ各一名
他ノ締約國ヨリ各一名ノ代表者

五大國(大不利顛國ハ其屬領ト共ニ之ヲ一大國ト計算ス)ノ有スヘキ各最少票數ハ之ヲ五倍シテ爾餘ノ締約國ノ總計票數ヨリ少クモ一票ノ多數ヲ得ル如ク之ヲ定ムヘシ

五大國以外ノ爾餘ノ締約國ハ各一票ヲ有ス

國際航空委員會ハ其議事規則ヲ定ムヘシ

國際航空委員會ハ其常設所在地ノ場所ヲ定ムヘシ然レトモ同委員會ハ其便宜ト認ムル場所ニ於テ集會スルノ自由ヲ有ス
同委員會ノ第一回會合ハ巴里ニ於テ之ヲ開催スヘク第一回會合ノ召集ハ佛國政府之ヲ行フヘシ
同委員會ハ左ノ權限ヲ有ス

(a) 本條約ノ規定ヲ變更シ又ハ修正スルコトニ關シ各締約國ノ提議ヲ受ケ又ハ各締約國ニ之ヲ提議シ並採決セラレタル變更ヲ各締約國ニ通告スルコト

(b) 本條約第三條ニ依リ委託セラレタル任務ヲ實行スルコト

(c) 附則ノ規定ニ修正ヲ加フルコト

(d) 國際航空ニ關スル各種ノ情報ヲ蒐集シ之ヲ各締約國ニ通報スルコト國際航空ニ必要ナル地圖ヲ調製スルコト

(e) 各國カ同委員會ニ諮詢シタル問題ニ就テ意見ヲ述フルコト

附則ノ一切ノ規定ニ對スル修正ハ國際航空委員會ニ於テ右修正ニ對シ全可能投票數ノ三分ノ二ノ贊成ヲ得タル場合ニハ之ヲ行フコトヲ得

右修正ハ同委員會ヨリ之ヲ各締約國ニ通告シタル時ヨリ其ノ效力ヲ生ス本條約ノ規定ニ對シ修正ノ提議アリタルトキハ締約國ヨリ提出セラレタルト又國際航空委員會ヨリ提出セラレタルトヲ問ハス凡テ之ヲ國際航空委員會ニ於テ審議ス此種

ノ修正ハ少クトモ全可能投票數即一切ノ國カ代表セラルヘキ全票數ノ三分ノ二ノ贊成ヲ得ルニ非レハ締約國ニ對シ之カ採用ヲ提議スルコトヲ得ス本條約ノ規定ニ對スル前記ノ修正(附則ノ規定ニ對スルモノヲ除ク)ハ各締約國ニテ公式ニ之ヲ承認スルニアラサレハ其ノ效力ヲ生セス國際航空委員會ノ組織及事務ニ關スル費用ハ各締約國ニ於テ其ノ行使スル投票數ノ割合ニ應ジ之ヲ分擔ス

專門委員派遣ノ爲ニ生シタル費用ハ各其ノ本國ニ於テ之ヲ分擔ス

第九章 罰 則

第三十五條 締約國ハ航空ニ關スル關稅衛生及郵便關係事項ノ特別協定ヲ爲サムトスルトキハ本條約ニ附屬セル附則ニ定メタル原則ニ準據シテ之ヲ締約スヘキコトヲ約ス

第三十六條 本條約ノ解釋ニ關シ二國又ハ數國ノ間ニ於テ爭議アリタル場合ニ於テハ係争問題ハ仲裁々判ニ依リ之ヲ解決ス

當事國間ニ於テ仲裁々判官ノ選定ニ付テ直接ニ協定ヲ得サルトキハ當事國ハ左ノ手續ニ依ルヘシ各係争國ハ一名ノ仲裁判官ヲ指定シ此二名ノ仲裁々判官ハ協同シテ第二仲裁々判官ヲ指定ス若シ此協定ヲ得ル時ハ當事國ハ各自第三國ヲ指定シ其ノ指定セラレタル第三國ハ或ハ協定ニ依リ或ハ各自人名ヲ提議シ其人名中ヨリ抽籤ヲ以テ之ヲ決定シテ第三仲裁判官ヲ指定ス

締約國ノ二國又ハ數國間ニ於テ本條約ニ附屬セル專門の規定ニ關シ爭議アル時ハ係争問題ハ國際航空委員會ニ於テ多數決ニ依リ之ヲ解決ス

問題カ本條約ノ解釋ニ屬スルカ又ハ附則ノ解釋ニ屬スルカニ付テ爭議起リタル場合ニ於テハ此論點ヲ解釋スルコトハ本條第一項ニ規定セル仲裁々判ニ屬スルモノトス

第三十七條 當時ニ於テハ本條約ノ規定ハ締約國ノ交戰者トシテ又ハ中立者トシテノ行動ノ自由ヲ拘束スルモノニアラ

ス

第三十八條 本條約ニ於テ定メタル協定ハ附則ノ規定ヲ以テ之ヲ補足スルモノトシ同附則ノ規定ハ本條約ト同一ノ效力ヲ有シ且同時ニ效力ヲ生ス

第三十九條 本條約ハ批准交換アル毎ニ漸次ニ效力ヲ生ス批准交換ハ遅クモ一年以内ニ之ヲ爲スヘシ批准書ハ之ヲ佛蘭西共和國外務省ノ文庫ニ寄託スヘシ

第四十條 現戰爭ニ參加セザリシ諸國ハ單ニ宣言書ヲ發シテ本條約ニ加盟スルヲ得該宣言書ハ之ヲ佛蘭西共和國外務省ニ通告スヘク同外務省ハ此加盟ヲ他ノ締約國ニ通知スヘシ

第四十一條 本條約ハ一九二三年一月一日前ニハ之ヲ廢棄スルヲ得ス廢棄ハ之ヲ通告シタル國ニ限り且其通告後一年ヲ經テ效力ヲ生ス

附 錄 (B)

航空關稅ニ關スル國際協約案

(航空法制分科會ノ原案)

第一條 第八條ニ掲クル例外ヲ除キ外國ニ赴ク航空機ハ各締約國ノ稅關ノ特ニ定メタル稅關航空停留場ト稱スル着陸場ノミヨリ出發スヘシ

外國ヨリ來ル航空機ハ前項ニ掲クル着陸上ニノミ着陸スヘシ

最近中央警察官署ト電話ノ聯絡アル警察官駐在所ヲ稅關航空停留場ニ造ルコトヲ得

第二條 一國ヨリ他國ニ飛行スル航空機ハ必ス締約國ノ定ムル若干ノ地點ニ於テ國境ヲ通過セサルヘカラス右ノ地點ハ航

第三條 各國ハ他ノ締約國ニ對シ稅關航空停留場表ヲ通知スヘシ必要ナル時ハ此表ニ付又航空地圖ニ付キ爲ス變更ハ右變更ノ有效トナル日ヲ定メテ之ヲ通知スヘシ締約各國ハ二ヶ國ノ又ハ數ヶ國ノ關稅事務ヲ聯合スル國際航空停留場設立ノ協定ヲナスコトヲ得

第四條 正當ト認メラルヘキ不可抗力ニ基キ航空機カ規定以外ノ地點ニ於テ國境ヲ通過スル時ハ彼上最近ノ稅關航空停留場ニ着陸スヘシ

若シ此航空機カ右ノ航空停留場ニ到着スル其以前ニ着陸セサルヲ得サル時ハ最近ノ警察又ハ關稅官署ニ通知スヘシ
前項ノ航空機ハ前項ニ掲クル官署ノ許可アルニアラサレハ出發スルヲ得ス右官署ハ檢査ノ後航空日誌及第六條ニ規定スル積荷目録ニ捺印シ關稅手續ヲ履行スヘキ稅關航空停留場ヲ操縦者ニ通告ス

第五條 操縦者カ外國ニ赴クカ又ハ外國ヨリ歸來スルトキハ出發前又ハ到着後直ニ其ノ航空日誌ヲ航空停留場ノ官吏ニ提出シ且必要ナレハ機中ニ在ル貨物及食料ノ積荷目録ヲモ提出スヘシ

第六條 積荷目録ハ附屬様式「附録A」ニ從ヒ記載スヘシ

貨物ハ附屬様式「附録B」ニ從ヒ荷送人ノ記載シ詳細ニ申告セサルヘカラス

各締約國ハ積荷目録又ハ申告書ニ其ノ必要ト思考スル事項ノ追加記入ヲ要求スルコトヲ得

第七條 貨物ヲ運搬スル航空機ノ場合ニ於テハ出發前財政官吏ハ積荷目録及申告書ヲ閱シ規定ノ檢査ヲ爲シ航空日誌及積荷目録ニ署名シ其署名ニ捺印ス

財政官吏ハ鉛封ノ手續ヲ必要トスル貨物又ハ貨物ノ集團ニ對シテ之ヲ施ス

到着ニ際シ財政官吏ハ鉛封ノ破損ナキヲ確メ貨物ヲ解放シ航空日誌ニ署名シ積荷目録ヲ保留ス

貨物ヲ運搬セサル航空機ノ場合ニ於テハ警察官吏及稅關官吏航空日誌ニ署名スルノミ

機中ノ燃料ハ其ノ分量カ航空日誌中ニ定ムル航空ニ必要ナル數量ヲ超過セザルトキハ關稅ヲ課セス

第八條 總則ノ例外トシテ公有航空機適法ニ組織セラレ免許ヲ受ケタル航空運輸會社ニ屬スル航空機及旅客又ハ貨物ノ運搬ヲ爲サ、ル承認濟旅行協會ノ會員ニ屬スル航空機ハ關稅航空停留場ニ著陸セザルコトヲ得

各國ノ稅關及警察署ノ指定稅關航空停留場ト同様ノ設備ヲ爲ス内國ノ地點ニ於テ其航空ヲ終止スルコトヲ得

然レトモ前項ノ航空機ハ制規ノ航空路ヲ執リ國境通過ノ際約定信號ニ依リ認識セシムヘシ

第九條 外國ニ著陸スル航空機ハ關稅ノ存在スル國ニ於テハ原則トシテ關稅ヲ課ス

其再輸出セラルヘキ場合ニ於テハ關稅免除又ハ税金供託ノ制度ノ利益ヲ受ク

二ヶ國又ハ數ヶ國ノ間ニ旅行協會同盟ヲ組織スル場合ニ於テハ當該國ノ航空機ハ「ツープチイク」(?)制度ノ利益ヲ受ク
第十條 航空機ニテ到着スル貨物ハ財政官吏カ航空日誌及積荷目録ニ署名シタル國ヨリ來ルモノト見做ス貨物ノ原産地及各種稅關規則ニ關シテハ陸路又ハ水路ニ依リ輸入スル貨物ニ適用スルト同様ノ規則ヲ適用ス

第十一條 一時輸入又ハ内國稅ヲ課スヘキ貨物ノ輸出ニ關シテハ荷送人ハ到着地ノ稅關ヨリ下附スル證明書ノ提出ニ依リ其ノ外國輸出ヲ證明スヘシ

第十二條 航空機カ其ノ目的地ニ達スル爲ニ締約國ノ主權ヲ害スルコトナク一個又ハ數個ノ締約國ヲ通過スル場合ニハ二場合ヲ區別セサルヘカラス

(一) 航空機カ著陸セサルカ又ハ乗客若ハ貨物ヲ積載セサル時ハ制規ノ航空路ヲ採リ其目的ノ爲ニ指示セラルヘキ地點ヲ通過スル際信號ニ依リ認識セラルコトヲ要スルノミ

(二) 其他ノ場合ニ於テハ稅關航空停留場ニ着陸スヘシ航空停留場ノ撰擇ハ操縦者ノ自由ナルモ豫メ其航空日誌ニ着陸場ノ名ヲ記入スヘシ着陸ニ際シ財政官吏ハ書類及積荷ヲ檢査シ必要アル時ハ機體及貨物ノ再輸出又ハ税金ノ納付ヲ保證スルニ必要ナル手段ヲ(脱)輸出スヘキ貨物ニ適用ス若シ航空機カ着陸シ又ハ貨物ヲ積載スルトキハ財政官吏ハ適當

ニ作製セラレタル積荷目録ニ其實質ヲ記入シ必要ナレハ封ヲ施スヘシ
 第十三條 飛行中ノ航空機ハ其所在場所ノ如何ヲ問ハス其飛行シツアル國ノ警察官駐在所及警察航空機又ハ税關ノ命令ニ從フヘシ

第十四條 税關監吏及間接税監吏及一般ニ官廳代表者ハ一切ノ航空機出發點及着陸點ニ對シ自由通行權ヲ有ス又其ノ監督權ヲ行使スル爲メ航空機及其積荷ヲ検査スルコトヲ得

第十五條 郵便物ヲ除クノ外飛行中ノ荷下シ及投荷ハ之レヲ爲スコトヲ得ス

第十六條 前各條ノ規定ニ違反スルトキハ機上ニアルモノノ有スル國際免狀ヲ一定期間停止又ハ絶對ニ剝奪スヘシ但シ損害ヲ受ケタル國ノ法律ニ依リ科スル刑罰ヲ妨クルコトナシ

附 錄 (A)

積荷目録様式中主要事項左ノ如シ

機體ノ登録記號操縦者ノ氏名住所國籍免許番號貨物ノ仕出地、仕向地、包裝ノ記號、番號、數量、種類、貨物ノ品名、重量操縦者ノ署名

附 錄 (B)

申告書様式中重要事項左ノ如シ

仕向地包裝ノ番號數量種類貨物ノ品名、產地、價格、重量、申告者ノ署名

經濟委員會

○經濟委員會其後ノ經過

(四月二十一日巴里發電ニ依ル)

甲、諸條約案文決定

經濟委員會ハ六月中旬以來九箇ノ分科會ヲ設ケ八十數回ノ會議ヲ重ネ前後十二三回ニ亙ル總會議ヲ開キ遂ニ四月十九日ノ總會ニテ

- (一) 條約ノ廢棄及復活
- (二) 戰前債務
- (三) 敵人財產ノ清算
- (四) 戰前契約
- (五) 工業所有權

ニ關スル假條約案文ヲ決定セリ

該案文ハ頗ル多數ニシテ印刷ノ暇ナキヲ以テ之ヲ略斯巴里來電講第六五七號乃至第六八〇號ニ付テ見ルヘシ

右案文ハ起草委員會及五國會議ノ討議ヲ經テ敵國側ニ提出セララルル順序ナレハ愈確定條約文トナルニハ尙變更セララル

モノアルヘシ

乙、委員會ノ經過

今右委員會經過概要ヲ記述スレハ左ノ如シ

一、經濟問題ニ對スル各國ノ態度

前顯諸經濟問題ハ其ノ範圍廣汎多岐ニ互レルト各國利害一致ノ難キモノアル爲メ幾多ノ曲折ヲ經テ折衷案又ハ留保ノ形式辛ウシテ條約案ヲ決定シ得タルモノナリ會議ノ席上佛伊白等ノ大陸諸國カ戰爭ノ慘禍ヲ償フ爲メ經濟上ニテモ峻嚴ナル條件ヲ課セムトスル態度ニ對シ英米殊ニ米國カ屢々反對ノ主張ノ下ニ力爭シテ佛伊白等ノ條件ヲ輕減セシメタルノミナラス敵人財産ノ清算戰前契約及 Clearing House 等ニ付テハ米國ハ全ク國內法ニ依リ自由行動ヲ要求シ爲メニ廣汎ナル例外又ハ任意的規定ヲ設クルノ止ムナキニ至レリ

二、對獨講和條約以外ノ事項

直接獨逸トノ假條約中ニ挿入スヘキ諸項目ノ外本條約案ハ

(甲) 獨逸ト同盟ノ關係ニアル諸國ニ對シテモ大部分其儘適用アルモノトス

(乙) 新ニ建設セラレタル國家トノ關係事項工業所有權舊敵人ノ地位等ニ付之ニ適用アルヘキ各種ノ規定ヲ設ケ

(丙) 協商國相互間ノ取極ニ就テハ條約ノ廢棄復活其他ノ事項ニ互リ特ニ揭記シタルモノノ外概シテ之ヲ後日ノ協議ニ讓ルコトト爲セリ

之等未決ノ問題ニ關シテハ其内協議再開ノ運ニ至ルコトト思考スルモ問題ノ範圍ハ今尙明瞭シ居ラス

三、關稅海運問題

イ、大陸諸國ハ關稅海運等ニ關シ敵國ニ課スル義務ヲ永久的ナラシメ且敵國ニ對シ相互主義ヲ認メサル方針ニ出テ米國ハ成ルヘク短期間内ニ敵國ニ對シ右負擔ニ關スル條項ヲ改訂スルノ自由ヲ許シ或期間以後ハ相互主義ヲ認メムトシ英國亦之ニ左祖シタルカ折衷案トシテ一般條項 general articles (巴里來電講第五〇六號ノ三D in general) 第一ノ規定ヲ設クルコトトナレリ同第二條ハ獨逸ヲシテ專賣制度又ハ國有制度 Nationalisation ノ方法ニ依リ此條約ノ義務履行ヲ脱却セシメサルコトヲ主眼トスルモノナリ

ロ、獨逸トノ講和豫備條約ニ挿入スヘキ關稅關係第一條及第三條(調書其五第一〇一頁參照)ハ獨逸カ聯合國及其他ノ外國ヲ平等ニ取扱フニ於テハ輸出入ニ制限又ハ禁止ヲ加ヘ得ル意義ナルモ戰後獨逸ノ海外貿易ニ對シテハ出來得ル限り過酷ノ制限ヲ加ヘサルコト英米ノ根本方針ニシテ且日獨條約第五條日佛條約第九條(脫)條日伊條約第九條ト異リ本條約第一條及第三條ハ全ク獨逸ノミニ義務ヲ課スルモノニシテ聯合國ハ何等ノ義務ヲ負擔セサルモノナルヲ以テ獨逸ノ輸出入禁止又ハ制限ヲ拘束スル意味ヲ加フルコト困難ナリト思考シタルモ四月十八日ノ經濟委員總會ニ於テ前記各條約ヲ參考シ獨逸ニ公安衛生等ノ場合ノ外輸出入ニ禁止又ハ制限ヲ加フヘカラサル趣旨ノ一箇條ノ追加ヲ提議シタルモ(脫)委員皆反對ニシテ波蘭ノ如キハ右ノ如キ例外ノ場合ヲ認ムル時ハ獨逸ハ之ヲ利用シテ反テ恣ナル輸出入制限又ハ禁止ヲ爲スニ至ルヘシト述ヘタルヲ以テ更ニ例外ノ除去ヲ提議シタルモ贊成者無ク遂ニ否決セラレタリ

ハ、關稅關係第七條中獨逸關稅定率表第一類「セクシヨン」(A)ノ鑛物ニ付特例ヲ設クルハ伊太利ノ提議ナリ、關稅ニ關スル對獨原案第三條ニ付伊太利カ少クトモ五箇年ヲ主張シタルハ(調書其五第一〇一及一〇二頁參照)南部伊太利農產物ノミニ物ノ獨逸ヘノ輸出ヲ繼續スル必要ニ基クモノニシテ三月三十一日ノ分科會ニ於テ英國委員ハ南部伊太利農產物ノミニニ付除外例ヲ設クタルコトナラハ差支ナシトノ意ヲ洩シ英米佛伊ノ小委員會ヲ設ケテ協議スルニ決シ其ノ結果四月三日ノ分科會ニ於テ大體今回ノ第七條ノ如キ案ヲ報告シタリ然レトモ米國ハ特殊貨物ニ付除外例ヲ設クルコトニ一般ニ反對シタルヲ以テ本邦委員亦之ト同一ノ態度ヲ聲明シ唯特殊貨物ニ付除外例ヲ設クル議採用セラルルニ於テハ日本モ亦二三貨物ノ追加ヲ提議スヘキ旨言明シタリ、分科會ノ意見遂ニ一致ニ至ラスシテ經濟委員總會ニ於テ討議セラレ四月八日ノ總會ニ於テ白耳義ハ馬、家禽、魚、牡蠣、人造絹絲、麻絲、毛絲、羊毛、塞爾比ハ家禽、鷄卵、「ペーコン」豚、油、葡萄酒、「ココア」、護謨、臘、脂肪、「バインアツブル」、「バナナ」ノ追加ヲ提議シ議論紛糾、米國ハ大國ハスル要求ヲナササルコトトシタリト述ヘ英國ハ品種ノ選擇ヲ米國委員「タウシツグ」(米國關稅調查局長)ニ一任シ其ノ決定ヲ最後ノモノトスルコトヲ提議シ全員之ニ一致ス又右「タウシツグ」ノ決定案ハ獨逸關稅定率表第一類「セクシヨン」Aノ貨物

中戦前獨逸ト聯合國トノ間ニ協定アリシモノ及葡萄酒、植物油、人造絹絲、洗濯シタル羊毛ニ付特例ヲ設クルコトトナレリ伊太利ノ爲メニ人造絹糸及洗濯シタル羊毛ヲ加ヘタルハ關稅關係第六條ニ於テ「アルサス、ローレン」波蘭「ルクセンブルグ」ノ爲メニ特例ヲ設ケタル趣旨ト同ク戰争ニ依リ荒廢シタル國ノ恢復ノ爲メ援助ヲ與フルノ主義ニ基キキ正五年巴里經濟會議決議乙第一ノ趣旨ニ同シ且ツ獨逸ヲシテ多クノ片務の義務ヲ負ハシムルハ英米兩國ノ好マサル處ニシテ必要己ムヲ得サル程度ニ止ムル意見ナリ從テ我ヨリ絹織物ノ追加ヲ提議スルモ通過ノ望ミナシト思考シタルモ政府ノ電訓ニ依リ四月十八日ノ經濟委員總會ニ於テ生糸及絹織物ノ追加ヲ提議シタル處支那ハ贊成ヲ宣明シ伊太利佛國ハ生糸ニ對シ贊成ノ意嚮ナリシカ前例ニ依リ「タウシツグ」ニ一任スルコトナリタリ依テ四月十九日經濟委員總會開會前本邦委員「タ」氏ニ面談シ生糸及絹織物ハ本邦特産品ナルヲ以テ其戰前獨逸ヘノ輸入額多カラサルモ之レヲ除外セラルルハ日本ノ默視スル能ハサル處ナリト述ヘ其追加ヲ希望シタル處「タ」氏ハ人造絹糸ヲ加ヘタルハ全ク特種ノ事情ニ基クモノニシテ決シテ日本ノ特産品ヲ除外スル意見ニアラス即チ獨軍白國占領中在白人造絹糸工場ノ製造方法ヲ詳細研究シタル後其ノ機械ヲ獨逸ニ輸送セリ戰前白國ノ人造絹糸産額ハ少額ニシテ其殆ト全部ハ獨逸ニ輸入シタルモノナルヲ以テ右ノ事情ヲ諒トシ他國ニ害ヲ及ホスコナシト思考シ人造絹糸ヲ加ヘタル次第ナルヲ以テ右ノ趣旨ヲ本國政府ニ電報セラルルモ差支ナシト述ヘ日本ノ要派ニ關シテハ熱考ノ上決定スヘシト述ヘ次テ四月二十日書簡ヲ以テ前日陳述ノ趣旨ヲ繰返ヘシ人造絹糸ハ戰争ノ爲メ慘害ヲ受ケタル白國ニ同情シタル結果ナルヲ以テ生糸及絹織物ヲ追加セサルニ決シタル旨回答アリタリ

四、敵國及敵國民債務履行保障手段

敵國ノ仕拂フヘキ補償金並敵國臣民カ協商國臣民ニ對シテ負擔セル債務ノ共同ノ保障（「ガランチャー」）トシテ本條約ハ
A、協商國內ニ存スル敵ノ私有財産ヲ押收清算スルノ權利ヲ各國ニ認メ
B、又敵國人ニ對スル債務ノ辨濟ヲ禁シ

C、辨濟ヲ受クコトヲ禁止シ

D、敵國側ノ債權ハ之ト相殺スルノ主義ヲ定メタリ

五、敵國財産ノ押收清算ノ件

本件ニ付本委員會ノ認メタル原則左ノ如シ

A、敵國臣民間ノ關係ニ於テハ各國ノ執レル戰時特別處分ハ原則トシテ何人ニモ對抗シ得ヘク

B、敵國ハ本條約調印後直ニ右特別處分ヲ撤廢スルノ義務アリ

C、協商諸國ハ其領土内ニ存スル敵ノ私有財産ヲ押收清算スルノ權利ヲ留保ス但シ平和條約ニ於テ反對ノ取極アル場合ハ此限ニアラス本項ハ右ノ通り權利ヲ留保スルモノナルヲ以テ各國政府ノ意見ニテ敵ノ私有財産ヲ處分セサルコトヲ得ヘシ

D、協商諸國民ニ屬スル財産カ敵國ノ戰時處分ニ依リ蒙リタル損害ハ協商國內ニ在ル敵ノ私有財産ヨリ仕拂ハシム

E、協商國人民ニ屬スル財産ノ現狀恢復ニ關スル損害賠償ハ敵國ノ負擔トス（Article B, f 項）

尙協商國人カ獨逸ニ於テ押收セラレタル金錢ニ付テハ特別ノ規定アリ（Article B, h 項參照）而シテ國家ニ屬スル金錢ハ此規定ニ含まサル旨 Regulation No. 11 條ニ明記セリ

前記ノ方針ニ從ヒ押收セラレ又ハ押收セラルヘキ敵ノ財産並權利ハ英佛側原案ニ依レハ各國ノ設立スル Clearing-

house ニ集中シ敵國人トノ間ニ存スル債權債務モ一切此ノ機關ヲ通シテ相殺スルノ計畫ナリシモ米國側ノ強硬ナル反

對アリ、米國ハ敵人財産ノ處分ヲ專ラ國內法ノ規定ニ一任セムコトヲ主張シ遂ニ Clearing-house 制度ノ採用ヲ各國ノ任意トスルノ規定ヲ設クルニ至レリ而シテ敵人財産ヲ清算シタル場合ニ Clearing-house 制度ヲ採ラサル國ニ於テ執ル

ヘキ措置ハ「財産權利々益」ノ章（B）條（h）項ニ規定スル所ナリ

本邦ニ於テハ未ダ敵ノ私有財産ヲ押收シタルコトナキモ帝國政府ニ於テ此點ニ關スル方針ヲ決定シ若シ Clearing-

House 制度ヲ採用セラル、意嚮ナルニ於テハ本條約實施後六ヶ月以内ニ敵國ニ對シ其ノ旨ヲ通告スル必要アリ本邦委員等ノ承知スル限リニテハ米國、伯刺西爾、支那ハ Clearing-house ヲ設ケサル意嚮ナルカ如シ

六、戰前契約
戰前契約ニ付テハ米國及「ブラジル」ハ英佛側ノ契約無効説カ同國ノ憲法及國內法ノ規定ト相觸ル、理由ヲ以テ除外例ヲ求メ日本モ同法ノ個條中ニ除外例ヲ求ムルコト、セリ從テ戰前契約ニ關スル條項中(D)及(E)並ニ Regulation 3 ハ日本ニ關係ナキコト、ナレリ但シ前掲三ヶ國ヲ除ク諸國ニ於テモ本條約實施後六ヶ月以内ニ自己ノ利益ノ爲メ其ノ履行ヲ請求シタル契約ハ有效トスル規定アリ此外保險契約並ニ取引所ノ賣買等特種ノ債務契約ヨリ例外ヲ設ク

八、混合裁判所
本條約ニ規定セル(A)戰前債務(B)財産制限(C)戰前契約(D) Prescription 並ニ爭議ハ本條約所定ノ混合裁判所ニ係屬スヘキモノナルモ協商國々内裁判所管轄權ニ屬スル事件ハ國內裁判所ノ裁判ニ附スルコトヲ得ルモノトシ其ノ管轄ニ屬セサル訴ヲ混合裁判所ニ提起スルコト、ナセリ我邦モ戰前契約ニ付米國ト同一態度ニ出テタルノミナラス今後ニ於テ Clearing-house ノ制度ヲ採用セハ直ニ國內法ニ依リ敵人財産ヲ處分スルコト、成ルニ於テハ混合裁判所ニ係屬スル事件ノ範圍縮少セラルヘキハ云フ迄モナシ尙ホ混合裁判所ノ所在地並ニ同裁判所ノ構成ニ關スル細目ニ付テハ各國ニ於テモ今日迄ノ處詳細ノ成案ヲ有セザルモノ、如シ

國際勞働法委員會

○勞働原則九ヶ條其後ノ修正(四月二十八日聯合與國總會議々決ニ至ルマテノ經過)

(四月二十九日巴里發電)

勞働條件ニ關スル九ヶ條ノ原則ニ關シ(調書其六第一〇九頁參照)英國殖民地代表者へ運動アリタルモノト見ヘ「バルフォア」氏ハ右ノ勞働原則九箇條ヲ六箇條ニ縮少シ且ツ前文ヲ改メテ各國ニ對スル拘束力ヲ頗ル薄弱ノモノト爲シ一ノ修正案ヲ作リタル由ニテ英國委員「バーンス」ヨリ我方ニ打合セ來リタルニ付我方ニテハ一二字句ノ修正ヲ求メタル外大體贊成ノ旨答ヘ置キタル處右修正案ニ對シ米國及白國ニ於テ異議アリ特ニ白國委員「ヴァンデル」ハ「ウエルト」ハ前文ニ於テ特殊ノ事情ト相容ルル限リニ於テ實行スヘシトノ意義アル文句ニ反對シタルニ付之ヲ削除スルコトトナリタル旨英國側ヨリ内閣シタルヲ以テ我ヨリ英國及白國委員ニ對シ「ス」如クムハ我方ニテハ承諾シ難キ旨主張シ置キタル處「バルフォア」氏ノ幹旋ニテ二十七日加奈陀首相「ボルデン」方ニ於テ英白ノ委員會同シ日米委員モ之ニ加ハリ打合セノ上左記ノ如キ修正案ヲ作リ佛國側ニ對シテハ右修正案製後打合セラ爲シ四月二十八日ノ聯合與國總會議ニ「ボルデン」ヨリ提議シ可決セラレタル次第ナリ

The High Contracting Parties, recognizing that the well-being, physical, moral and intellectual of industrial wage-earners is of supreme international importance, have framed a permanent machinery associated with that of the League of Nations to further this great end. They recognize that differences of climate, habits and customs, economic opportunities, industrial traditions make the strict uniformity in conditions of labour difficult of immediate attainment. Believing as they do that labour should not be regarded merely as (財) they think that there are methods and principles for regulating labour conditions, which all industrial communities should endeavour to apply so far as their

circumstances will permit.

Among these methods and principles, the following are of special and urgent importance:—

1. The guiding principle above enunciated that labour should not be regarded merely as a commodity or article of commerce.
2. The right of association for all lawful purposes by the employed as well as by the employers.
3. The payment to the employed of a wage adequate to maintain a reasonable standard of life as this is understood in their time and country.
4. The adoption of eight hours a day or forty eight hours a week as the standard to be aimed at where it has not already been attained.
5. The adoption of weekly rest of at least twenty four hours which should include Sunday wherever practicable.
6. The adoption of (a) child labour and the imposition of such limitations on the labour of young persons as shall permit the continuation of their education and assure their proper physical development.
7. The principle that men and women should receive equal remuneration for work of equal value.
8. The standard set by law in each country with respect to the conditions of labour should have due regard to the equitable economic treatment of all workers lawfully resident there.
9. Each state should make provision for a system of inspection in which women should take part in order to ensure the enforcement of the laws and regulations for the protection of the employed.

(820)

Without claiming that these methods and principles are either complete or final, the High Contracting Parties are of opinion that they are well fitted to guide the policy of the League of Nations and that if adopted by the industrial communities who are members of the League and safeguarded in practice by an adequate system of such inspection, they will confer lasting benefits upon the wage earners of the world.

(右譯文)

締盟國ハ工業労働者ノ身體上精神上及智識上ノ福祉カ國際上極メテ重要ナル意義ヲ有スルモノナルコトヲ認メ該大目的ヲ促進スル爲メ國際聯盟ト關聯セル一ノ永久の機關ヲ組織セリ締盟國ハ氣候習慣風俗經濟上ノ機會及ヒ工業上ノ風習ノ相違ノ爲メ労働條件ヲ直ニ全然一致セシムルコトハ頗ル困難ナリト認ム尙締盟國ハ勞力ヲ以テ單純ナル商品ト認ムヘカラサルモノト確信シ一切ノ工業の團體カ其ノ特殊狀況ノ範圍ニ於テ適用スルコトヲ努ムヘキ労働條件ヲ規定スヘキ方法及主義ノ存スルコトヲ認ム之等方法及主義ノ中締盟國ニ取リ特ニ重要ニシテ且緊急ナリト認ムルモノ左ノ如シ

(821)

- 一、勞力ヲ以テ單純ナル貨物或ハ商品ト認ムヘラサル根本主義
- 二、正當ナル目的ノ爲ニスル傭者被傭者ノ結社ノ權
- 三、被傭者カ其ノ時代及國狀ニ從ヒ相當ノ生活程度ト認メラルル生活程度ヲ維持スルニ足ルヘキ賃銀ノ支拂
- 四、未タ實施セラレ居ラサル地方ニ於テ一日八時間換言スレハ一週四十八時間制ヲ標準時間トシテ採用スルコト
- 五、出來得ル限リ日曜日ヲ包含スヘキ少クトモ一週二十四時間ノ休息制度ノ採用
- 六、少年労働ヲ保護シ及壯年労働ニ對シ其ノ教育ヲ續行セシメ適當ナル身體的發育ヲ確保スル如キ制限ヲ設クルコト
- 七、同等價值ノ勞務ニ對シ男女同様ノ報酬ヲ受クヘキノ主義
- 八、各國ニ於テ労働條件ニ關シ法律ヲ以テ一ツノ標準ヲ設クルニ際シテハ適法ニ同地ニ居住セル一切ノ労働者ニ對シ均等ナル經濟的待遇ヲ與フルコトニ關シ適當ナル注意ヲ拂フコト

九、各國其被備者保護ノ法規ノ勵行ヲ確保スルカ爲婦人ヲモ含ム監督ノ制度ヲ設クルコト
締盟國ハ之等方法及主義ヲ以テ完全又ハ終局的ノモノナリト認ムルモノニ非サルモ右ノ方法及主義ハ國際聯盟ノ政策ヲ定
ムル上ニ最モ適當ナルモノニシテ若シ之等方法及主義ニシテ聯盟員タル工業團體ノ採用スル所トナリ且ツ適當ナル監督ノ
制度ニ依リ其ノ實行ヲ保證セラルルニ於テハ全世界ノ勞働者ニ對シ永久ノ福利ヲ與フヘシト思惟ス

第一回勞働總會準備會各國委員

(四月二十九日發電ニ依ル)

十月總會ニ出席スヘキ各國政府委員ノ氏名ハ未定ナルモ準備會ニ出席スル各國委員中決定セルハ左ノ通

英國 「マルコム、デヴヰン」 Malcolm DeVigne (内務次官補 Assistant under Secretary of State, Ho-

me Office)

佛 國 「アルテル、フォンテン」 Arthur Fontain. (勞働省勞働協會長 Director of Labour.)

白耳義 「マハイム」 Mahaim (「リネーシユ」大學教授)

瑞 西 「ロートリスベルゲル」 Rothlisberger. (「ムルン」大學教授)

伊 國 「デバル、カスチグリオネ」 Di-Palmasciglione. (移民監督官 Inspecteur d'Emigration.)

(附) 右準備會ノ局ニ當ルヘキ岡囑託ハ吉坂及郷ト共ニ五月三日倫敦ニ赴ク筈

俘虜關係委員會

一、日 時 四月二十二日、二十三日、二十四日、二十五日

二、出席者 五大國ヨリ各二名

(日本ヨリハ二宮陸軍歩兵中佐及西原大尉)

一、内 容 俘虜歸還ニ關スル條約案作製

獨逸トノ講和條約ニ挿入スヘキ俘虜ニ關スル條文案製作ノ爲メ五大國ヨリ各二名ノ委員ヲ出シ俘虜關係委員會成立シ前
顯ノ四日間開會後掲俘虜歸還ニ關スル條約案ヲ決議ノ上最高會議ニ提出セリ、討議中特ニ重要ト認メラルル諸點左ノ
通

一、獨逸俘虜ノ送還時期及之ニ關スル條件

本件ニ付テハ日英米側ト佛國側トノ間ニ大ナル意見ノ相違アリ即チ日英米ノ三國委員ハ講和條約締結後成ルヘク速ニ
送還スルノ意見ヲ有シ佛國委員ハ戰場地方ノ復舊作業ノ爲メ俘虜ヲ使用スルカ若ハ獨逸ヨリ勞働者ノ供給ヲ受クルノ
交換條件ヲ以テ俘虜ノ送還ヲ實施セムトスル希望アリテ意見ノ一致ヲ見ス依テ五大國會議ニ回附セラレタル次第ナリ

二、俘虜ニ關スル費用

俘虜送還ニ要スル費用ノ全部ヲ獨逸ノ負擔トスルコトニ付右ハ直ニ全會ノ一致ヲ見タルモ送還前ノ俘虜ニ關スル總テ
ノ費用竝ニ獨逸ノ收容シタル聯合國俘虜ニ關聯シ聯合國政府若クハ個人ノ蒙リタル損害ノ問題ニ對シテハ佛國委員ヨ
リ意見出テタルモ結局米英ノ意見ヲ容レテ本問題ハ總テ賠償委員會ノ研究ニ讓ルコトニ決セリ

三、聯合國俘虜ニ對シ不法ナル取扱ヲ爲シタル敵國官憲處罰ノ件

獨逸ノ收容シタル聯合國俘虜ニ對シ不法ナル取扱ヲナシタル獨逸官憲ヲ處罰スルノ件ニ關シ佛國委員ヨリ意見アリタ

ルモ米國委員ノ提議ニ依リ本問題ハ責任委員會ノ研究事項ト決シ俘虜關係委員會ニ於テハ本問題ニ觸レサルコトナレリ

四、獨逸俘虜ノ引渡地

右ニ關シテハ各國共ニ意見アリ日本側ハ日本ノ港灣ニ於テ引渡シタキ意見ヲ有スル旨ヲ述ヘ委員會ノ諒解ヲ得タルモ各國夫々特種ノ事情アリテ共通の規定ヲ設クルニ至ラサルニ依リ之レカ決定ハ俘虜送還實施ニ任スル委員(條約案第一條參照)ニ於テ決定セシムルコトトセリ

五、俘虜ノ犯罪

取締ニ關スル犯罪ト取締以外ノ犯罪トニ依リテ全然其取扱ヲ異ニセリ而シテ取締ニ關スル犯罪ノ範圍ハ各國一律ニ之レヲ定ムルヲ得ス依リテ實施ニ當リテハ其範圍ハ各國毎ニ其法規ニ從テ定ムルコトナレリ之ノ討論中日本委員ヨリハ日本ニ於ケル右範圍ハ各部隊長ニ任セラレアル懲罰令ノ範圍トスル旨ヲ述ヘ置ケリ佛國又之レト同様ナリ

六、西比利亞等ノ獨逸俘虜送還並搜索ノ件

委員會ノ終期ニ於テ「フオツシユ」元帥ヨリ回附シ來タル「西比利亞」「トルキスタン」「高加索地方」ニ收容中ノ獨逸俘虜ノ送還並搜索方ニ關スル獨逸ノ要求ヲ討論ニ附シタルモ米英兩國委員ノ主張ニテ本問題ニハ觸レサルコトナレリ

俘虜歸還ニ關スル條約案 (委員會ヨリ最高會議ヘ提出シタルモノ)

第一條

獨逸俘虜及抑留民ノ歸還ハ本條約ノ定ムル條件ニ基キ聯合國政府及獨逸國政府ノ各代表者ヨリ成ル委員會ニ於テ之ヲ實施ス俘虜(脱)實施ニ關スル細則ハ各當該聯合國政府並獨逸國政府ノ各代表者ノミヨリ成ル小委員ヲ設ケ之ヲ定ム

第二條

獨逸官憲ハ其ノ俘虜及抑留民ノ引渡ヲ受ケタル後遲滯ナク其ノ郷里ニ歸還セシムルヲ要ス

戰爭前聯合軍ノ現在占領地域内ニ居留地ヲ有セシモノニ就テモ右ト同シ但シ聯合國占領軍官憲ノ承諾並監督ニ依ルモノトス

第三條

送還ニ要スル一切ノ費用ハ獨逸政府ノ負擔トス而シテ獨逸政府ハ送還ニ關シ第一條委員會ノ必要ト認ムル海陸輸送及勞働ヲ供給スルノ義務ヲ有スルモノトス

第四條

取締ニ關スル犯罪ノ爲審査中若ハ處罰ノ執行中ニ在ル俘虜並抑留民ハ其ノ刑罰若ハ審査手續ノ完了如何ニ拘ラス歸還セシムルモノトス

前項ノ協定ハ千九百十九年五月一日以後ノ犯行ニ依リ處罰セラレタル俘虜及抑留民ニハ之ヲ適用セス

第五條

取締ニ關スルモノ以外ノ犯行ニ依リ審査中若ハ刑ノ執行中ニ在ル俘虜並抑留民ハ抑留スルコトヲ得

第六條

獨逸國政府カ本條約ノ規定(戰爭法規慣例並人道法ニ對スル犯人引渡ニ關スル規定)ノ要求スル總テノ措置完了迄聯合諸國政府ニ於テ適當ト認ムル將校階級ノ俘虜監禁抑留ノ權利ヲ留保ス

第七條

獨逸國政府ハ何等ノ差別ナク歸還民全部ヲ其ノ領土内ニ受領スルヲ約ス俘虜若ハ其ノ他ノ獨逸國民ニシテ歸國ヲ欲セザルモノハ送還ヨリ除外スルコトヲ得但シ聯合諸國政府ハ是等ノモノヲ歸還セシムルカ若ハ中立國ニ送ルカ或ハ其ノ領土内ニ居住スルコトヲ許可スルカヲ決定スルノ權利ヲ留保ス

獨逸國政府ハ前項ノ如キモノ若ハ其ノ家族ニ對シ何等ノ訴訟手續ヲ執ラス又如何ナル種類ノ壓迫若ハ迫害ヲモ加ヘサルコトヲ約ス

第八條

聯合諸國政府ハ獨逸人民送還ニ對シ現ニ獨逸國內ニ在ル聯合諸國ノ俘虜並人民ニ關スル遲滞ナキ通告並回報ヲ條件トシテ權利ヲ留保ス

第九條

獨逸國政府ハ次ノ各項ヲ約ス

(一) 行衛不明者探索委員ニ對シ凡ユル便宜ヲ供與スルコト、同委員ノ爲必要ナル輸送ノ方法ヲ講スルコト、同委員ニ收容所、監獄、病院等ノ場所ニ出入スルコトヲ許可アルコト並同委員ノ調査ヲ容易ナラシムヘキ公私ノ書類全部ヲ同委員ニ提出スヘキコト

第十條

(二) 聯合諸國臣民ノ所在ヲ隱匿シ若ハ其ノ所在ヲ知ツテ之カ通知ヲ怠ルカ如キ獨逸官吏並人民ヲ處罰スルコト
獨逸國政府ハ現條約效力發生後遲滞ナク聯合國臣民ノ所有ニ屬セシ物品、現金、證券及書類ニシテ獨逸官憲ノ押收シタルモノ全部ヲ返還スルコトヲ約ス

第十一條

交戰各國ノ俘虜留留民ニシテ收容期間死亡シタルモノノ墓地ハ本條約ノ規定ニ從ヒ適當ノ維持方法ヲ講スルヲ約ス
尙聯合國政府並獨逸政府ハ相互ニ次ノ各項ヲ約ス

(一) 總テノ死亡者認識材料ト共ニ遺漏ナキ死亡者名簿ヲ提供スルコト
(二) 認識不明ノ儘ニ埋葬シタルモノノ墓數及其ノ位置ニ關スル總テノ報告ヲ提供スルコト

大正八年六月十五日調

千九百十九年巴里講和會議ノ經過ニ關スル調書 (其八)

(自五月一日至同月十五日)

外務省政務局